

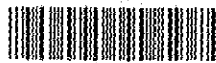
21世紀のための友情計画
(青年招へい事業)
昭和62年度実施報告書

昭和63年12月

国際協力事業団

1006

JICA LIBRARY



1073680[9]

21世紀のための友情計画
(青年招へい事業)
昭和62年度実施報告書

昭和63年12月

国際協力事業団

国際協力事業団

19061

は じ め に

この報告書は、昭和59年度から開始した、青年招へい事業の昭和62年度分事業実施記録（内部資料）であり、内容的には62年度に招へいした、アジア・太平洋諸国 11ヶ国 46グループのプログラム概要、及びその関連資料を取りまとめたものである。

本報告書が関係各位の本事業に対するご理解を一層深め、ひいては事業の改善発展に資するならば幸いである。

昭和63年12月

研修事業部長

目 次

はじめに

I 総 括 報 告	1
II 基 本 計 画	3
1. 事業の目的	3
2. 実施方法	3
(ア) 招へい方法	3
(イ) 招へい対象者	3
(ウ) 招へい形態	3
(エ) 招へい時期	3
(オ) プログラム概要	4
(カ) 標準プログラム	5
(キ) プログラム実施体制	6
(ク) 実施運営分担	7
III 受 入 状 況	8
1. 受入実績	8
2. 協力団体	8
3. 招へい青年の概要	8
4. 地方プログラムの実施	9
IV 実 施 状 況	10
1. 現地プログラム	10
2. 滞日プログラム全般及び共通プログラム	10
3. 分野別プログラム	10
4. 見学旅行プログラム	11
V 青年の帰国時アンケートを基にした評価	12
1. アンケート実施内容	12
2. アンケート結果集計方法	13
3. アンケート集計結果	13

VI	本文参照資料	42
	「21世紀のための友情計画」昭和62年度青年招へい事業受入計画	43
	「21世紀のための友情計画」昭和62年度基本方針と評価	44
	帰国時アンケート国別集計結果(アセアン国別)	45
	各国別受入実績(昭和59年度～62年度)	46
	昭和62年度受入実績	47
	実施協力団体別地方分野別プログラムの実施状況	49
	招へい青年の内訳・表1～5	51
	昭和62年度地方実施県一覧(地図)	55
	JICA支部別受入実績(昭和59年度～62年度)	56
	都道府県の窓口	58
	招へい青年の意見(JICAコーディネーター報告書より)	59
VII	資料集	67

I 総 括 報 告

(本文右下カッコ内は参照資料)

1. 計 画 概 要

本計画は21世紀に向けてアセアン諸国との人的交流を拡大し、友好と協力の関係をより強固にするため、昭和59年度よりアセアン青年を各国から毎年150名、5ヶ年間に3,750名を日本へ招へいし、日本の同世代の青年との交流を通じ、相互理解を深め、友情と信頼を培うことを主要な目的として開始された。

その後、昭和59年1月、ブルネイが独立、アセアンに加盟し、本事業対象国となり、昭和61年度より人数枠を50名に拡大した。

また、昭和61年度より本事業を広くアジア、太平洋諸国に拡大し、ビルマ、フィジー、パプア・ニューギニアからも各10名の青年を招へいしている。

2. 昭和62年度年間受入実績

昭和62年度はアセアン6カ国から800名、ビルマ10名、フィジー10名、パプア・ニューギニアは先方の強い要望により10名枠を14名に拡大し受け入れた。

新規に中国から「日中青年の友情計画」の名のもとに100名、韓国からは「韓国青年招へい事業」として100名を受け入れた。

昭和62年度事業においては、アセアン6カ国をはじめ合計11カ国から1,030名の受け入れを計画し、1,034名を受け入れた。

(「21世紀のための友情計画」昭和62年度青年招へい事業受入計画)

3. 本年度基本方針と実施状況

- (1) 招へい国の増加と規模の拡大
- (2) プログラム内容の一層の充実
- (3) コミュニケーションの向上 — 母国語ベースでの強化
- (4) 日本青年のより積極的な参加
- (5) 相互理解の輪の波及
- (6) 総理表敬
- (7) 同窓会交流連絡会

第5陣のアセアン青年139名(8月28日)、中国青年100名(9月29日)が総理官邸に招かれ、総理より励ましのことばを頂いた。また、韓国青年99名(12月7日)が外務大臣を表敬訪問し、外務大臣より励ましのことばを頂いた。

また、63年3月21日～24日インドネシアのジャカルタにおいてアセアン6カ国の同窓会関係者による第1回アセアン同窓会交流連絡会が開催され、AJAFA-21(ASEAN JAPAN FRIENDSHIP ASSOCIATION FOR THE 21ST CENTURY)の結成を含む宣言を採択した。

(「21世紀のための友情計画」昭和62年度基本方針と評価)

4. 評価

- (1) 招へい青年の帰国時アンケート集計結果では、青年の満足度は、95%以上となっており、招へい青年の期待にはかなり応えていることが窺える。
- (2) 相手国政府は組織的な交流計画として本事業を高く評価しており、招へい人数の増加とともに事業の継続を強く要望している。また、各国とも日本青年の派遣を強く望んでおり、相互交流が強化されるよう考慮する必要性がある。
- (3) 本事業は地方(41県)でもプログラムが実施されており、地方での国際交流に対しても大きな貢献をしており、各県とも積極的に受け入れの意向を示している。
- (4) 合宿参加青年やホームステイ受け入れ家庭の青年の中に相手国を訪問したり、計画を持っている方がかなりいるとともに、合宿参加日本人青年同士で同窓会を作っているところもある。

(帰国時アンケート国別集計結果)

5. 帰国青年による同窓会

ASEAN各国の本事業参加経験者の間で同窓会設立の気運が高まり、すでにシンガポール、インドネシア、マレーシアで同窓会が設立され、タイ、フィリピン、ブルネイでも結成に向けて着々と準備が進んでいる。3月にはインドネシアのジャカルタで、アセアン6カ国から同窓会代表及び、同窓会活動を行っている主要メンバーが集まり第1回「21世紀のための友情計画」同窓会連絡会が開催された。同会では、当事業に参加することによって培われた日本に対する興味を構成メンバーの自主性によって持続、発展させてゆくための各国の同窓会活動の現況を報告、また当事業の改善の一助となる討議を行い、アセアン全域での同窓会活動を更に発展させるため、AJAFA-21の結成を含む宣言を採択し、来年の総会をマレーシアで開催することに合意した。

II 基本計画

1. 事業の目的

21世紀に向けて、日本とアセアン諸国との友好と協力の関係をより強固かつ実りあるものとするため、未来の国造りを担う各国の青年を我国に招へいし、日本の同世代の青年との交流を通じ、相互理解を深め、真の友情と信頼を培うことを目的とする。

2. 実施方法

(ア) 招へい人数

昭和62年度は、アセアン各国より150名（ブルネイは50名）、ビルマ、フィジー、PNGより各10名、中国、韓国より各々100名、合計1,030名を招へいする。

(イ) 招へい対象者

下記分野における指導的立場にある青年男女（年齢18～35歳前後）。

- | | |
|----------|--------------------------------|
| ① 農村青年 | 農業従事者、農業団体職員、農業関係公務員 |
| ② 都市勤労青年 | 企業等勤労者、公務員、ジャーナリスト |
| ③ 学生 | 大学生、大学院生、各種学校等の学生 |
| ④ 教員 | 各種教育機関の教員、教育関係公務員 |
| ⑤ 青年指導者 | 青少年活動者及び関係者、スポーツ、文化、社会奉仕等団体関係者 |
| ⑥ 公務員 | 他の分野に該当しない一般公務員 |

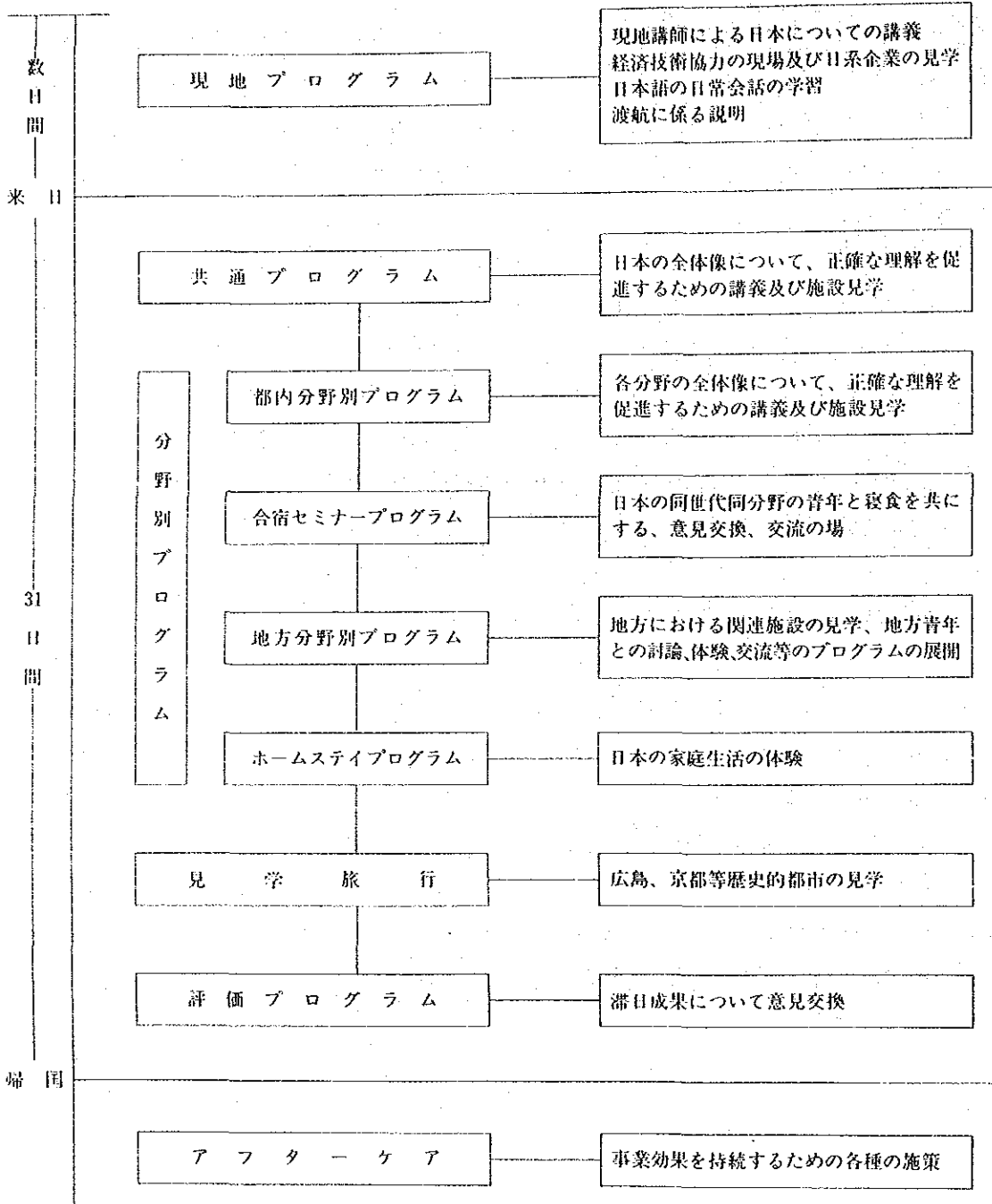
(ウ) 招へい形態

- ① 国別、分野別によるグループとして受入れる。
- ② 上記の他、各国の青年による混成グループを年間2回受入れる。

(エ) 招へい期間及び時期

- ① 招へい期間は1カ月。出発前、数日間の現地プログラムを実施。
- ② 受入時期は5月中旬～11月中旬。

(オ) プログラム概要



21世紀のための友情計画

(ウ) 昭和62年度青年招へい事業標準プログラム

	実 施 内 容	宿 泊
	各国首都集合 結団式、現地講師による講義、日本語の日常会話の学習 現地講師による講義、日本語の日常会話の学習 経済技術協力の現場及び日系企業の見学 渡航に係るブリーフィング	現地のホテル
1	日 来 日	都内のホテル
2	月 本計画のブリーフィング 開講式 昼食懇談会 生活ガイダンス 日本語会話(1)	"
3	火 講義(日本の社会と風土) 講義(日本の歴史と文化)	"
4	水 基幹産業見学 大使館表敬訪問	"
5	木 講義(日本の産業史) 講義(日本の経済) 武道鑑賞及び交歓会	"
6	金 講義(日本とアセアン) 日本語会話(II)	"
7	上 分野別プログラムのブリーフィング 日本青年との交流(都内見学等)	"
8	日 自主研修	"
9	月 都内分野別プログラム(関係省庁等訪問)	"
10	火 都内分野別プログラム(関連施設見学及び討論 交流等)	"
11	水 合宿セミナーのための移動日	合宿施設
12	木 合宿セミナー(基調講演 意見交換 スポーツ レクリエーション等)	"
13	金 合宿セミナー(基調講演 意見交換 スポーツ レクリエーション等) 交流の夕べ	"
14	土 地方分野別プログラムのための移動日 地方分野別プログラムのブリーフィング	地方のホテル
15	日 自主研修	"
16	月 地方分野別プログラム(関係地方自治体等訪問) 知事等歓迎会	"
17	火 地方分野別プログラム(関連施設見学及び討論 交流等)	"
18	水 地方分野別プログラム(関連施設見学及び討論 交流等)	"
19	木 地方分野別プログラム(関連施設見学及び討論 交流等)	"
20	金 ホームステイ	受入家庭
21	土 ホームステイ	"
22	日 ホームステイ 交流の夕べ	"
23	月 見学旅行(京都等)	京都等のホテル
24	火 見学旅行(京都等)	"
25	水 見学旅行(広島)	広島のホテル
26	木 見学旅行(広島)	"
27	金 東京に集合	都内のホテル
28	土 帰国準備	"
29	日 帰国準備	"
30	月 評価会 帰国に関する説明・諸手続 歓送会	"
31	火 帰 国	

(註) ここに示したプログラムは、標準的なプログラムの流れであり、招へい国、招へい分野、実施県等の違いにより、実際のプログラムは、標準プログラムと異なる場合がある。

(甲) プログラム実施体制

受入体制

本計画を円滑に実施するため次の二委員会を設置する。

(1) 関係省庁調整連絡会議

- ① 任務：本計画の実施及び運営に係わる基本的事項につき協議。
- ② 構成メンバー：

外務省経済協力局技術協力課

アジア局地域政策課

情報文化局文化第二課

総務庁青少年対策本部

文部省学術国際局国際教育文化課

農林水産省経済局国際協力課

労働省労働基準局賃金福祉部勤労青少年室

自治省大臣官房企画室

国際協力事業団

(2) 実行連絡調整委員会

- ① 任務：実行計画の運営、分野別プログラムの実施及び各プログラム間の連携につき協議し、プログラム実施上の問題につき、国際協力事業団に対し助言。
- ② 構成メンバー：関係省庁より推薦された民間諸団体。

(社) 青少年育成国民会議

(任) 中央青少年団体連絡協議会

(財) 世界青少年交流協会

(社) 日本国際生活体験協会

(社) 全国農村青少年教育振興会

(社) 日本経済青年協議会

(社) 勤労厚生協会

(財) ユースワーカー能力開発協会

(社) 国際交流サービス協会

(社) 青年海外協力協会

(財) 国際協力サービス・センター

(ウ) 実施運営分担

	プログラム 監 理	プログラム実施		食事・宿舎の 手 配
		連絡調整	実 施	
現 地 プログラム	国際協力事業団	国際協力事業団	各国実施機関 (国際協力事業団) (在外事務所)	各国実施機関 (国際協力事業団) (在外事務所)
共 通 プログラム (都 内)			国際協力事業団 (国 際 協 力) (サービスセンター)	国際協力事業団 (国 際 協 力) (サービスセンター)
都内分野別 プログラム (都 内)		実施協力団体	実施協力団体	実施協力団体
合宿セミナー プログラム (東京近郊)				
地方分野別 プログラム (ホームステイを含む)		実施協力団体 地方協力団体 (国際協力事業団) (国内支部)	地方協力団体 (国際協力事業団) (国内支部)	地方協力団体 (国際協力事業団) (国内支部)
見学旅行 (広島、京都等)		実施協力団体	実施協力団体	実施協力団体
評 価 プログラム (都 内)		国際協力事業団	国際協力事業団 (国 際 協 力) (サービスセンター)	国際協力事業団 (国 際 協 力) (サービスセンター)

(註) 地方分野別プログラムは、地方公共団体の指導と協力を得て実施する。

Ⅲ 受 入 状 況

1. 受入実績

アセアン青年、及びビルマ、フィジー分については、各々計画800名、10名・10名を完全実施した。また、PNGについては、先方の強い要望により計画10名に対して、枠を拡大し、14名を受け入れた。本年度新規受け入れとなった中国、韓国については各国100名ずつ200名の受け入れを完全実施した。

昭和62年度については、計画1,030名に対し計1,034名の受け入れとなった。

(昭和62年度受入実績表)

2. 協力団体

実行連絡調整委員会を構成する11の中央実施協力団体の協力を得、地方に於ては、地方青年団体及び、県・市等各レベルにわたる地方自治体の誠意に満ちた協力を頂いた。アジア・太平洋からの参加青年並びに各国政府より、本事業が高く評価され感謝を寄せられている理由の多くは、これら協力団体の努力によるところが大であった。

(実施協力団体別地方分野別プログラムの実施状況一覧表)

3. 招へい青年の概要

(1) 年齢(表1参照)

全体の平均年齢は27.5歳である。

(ア) 国別

平均年齢が30歳を越えている国はビルマ、フィジー、PNGそして新規に受入を開始した中国である。また、最も低かったのはタイの24.1歳であり、これは初年度より同様の傾向である。

(イ) 分野別

教員(29.8歳)、公務員(29.0歳)、青年指導者(28.9歳)の年齢が高く、最も低いのは学生(22.9歳)であった。一般に社会人の参加者が多い分野は平均年齢が高い傾向にある。

(ウ) グループ別

平均年齢が高いグループは韓国青年指導者(36.3歳)、ビルマ青年指導者(33.3歳)、フィジー公務員(33.1歳)、中国勤労青年(32.8歳)であった。また、平均年齢が低いグループはフィリピン学生(22.5歳)、タイ学生(22.7歳)、韓国農村青年(22.8歳)であった。

(2) 性別

(ア) 人数

人数の割合は女性が35%、男性が65%である。マレーシア、PNG、中国、韓国は女性の割合が特に低い。一般にイスラム圏と儒教圏の女性参加人数が低い傾向が見られる。また、女性の社会的地位が高いフィリピン、シンガポールにおいて参加人数は男女ほぼ同数であった。

(イ) 年齢

平均年齢は女性が26.1歳、男性が28.3歳であり男性の年齢が高いことが解る。教育関係のグループ（教員、学生等）では男女の年齢差は小さく、社会人より構成されるグループにおいて男女の年齢差が大きい傾向が認められる。

(3) 職種（表2参照）

例年公務員の占める割合が高く、今年度も全体の41%が公務員であった。これは各国の窓口である省庁より推薦された参加者が公務員以外のグループに含まれること、またアジア、太平洋諸国の「21世紀を担う青年」の核が公務員であるという認識に基づいて入選が行なわれていることが考えられる。

(4) 学歴（表3、4、5参照）

全体の67%が大学在学中もしくは大学卒業以上であった。

(ア) 性別

男性と比較すると女性の学歴が高い。これは初年度より同様の傾向である。

(イ) 国別

アジア、太平洋諸国においては全体の72%が大学在学中もしくは大学卒業以上の学歴を有し、昨年度に比べ参加者の学歴が高いことが認められる。特にフィリピンの学歴が高い理由として、フィリピン側が学生グループの選考において20歳以上の規定を設けたため、就職活動とのかねあいより専門学校生や学部生の参加が困難になり、大学院生および医学部生の参加が多くなったことが考えられる。（フィリピンでは大学、専門学校の就学年齢が17歳以上であり就学年数は4年または2年である。）

(ウ) 分野別

学生、教員、公務員グループが高い。

（招へい青年の内訳、表1～5）

4. 地方プログラムの実施

41の道府県に於て47グループの地方プログラムが実施された。2グループが訪問した道府県は、北海道、栃木、静岡、徳島の1道3県である。

（地方分野別プログラム実施県一覧表・地図）

（地方分野別プログラム実施県一覧表・支部別）

（都道府県の窓口）

Ⅳ プログラム実施状況

1. 現地プログラム

現地プログラムは各国政府のイニシアティブにより現地の講師による日本の事情・日本との関係の講義を行う、また自国の歴史、経済等に関する認識を深め一国の代表としての自覚を養成するものであり、各国政府は各国特色ある方法で、極めて有効に実施している。

また、本年度よりブルネイ、パプアニューギニア、韓国において、現地プログラムが開始され、参加青年より高い評価を得た。

尚、具体的な進め方については各国、各様である。

(資料集 現地プログラム)

2. 滞日プログラム全般及び共通プログラム

講義については、質疑応答の時間を1時間延長し、招へい青年の要望に応えた。また母国語主義をとり、インドネシア、マレーシア、タイ、中国、韓国青年受入れに際しては、優秀な通訳確保につとめた。

プログラム内容の更なる充実に加え、招へい青年の不慮の事態にも対応できるよう、日本大学付属板橋病院に医療相談顧問を依頼した。

3. 分野別プログラム

本年度は国別、分野別の特徴にあった、専門性を生かしたプログラム作成を心がけ、プログラム作成段階で、周到な打ち合せを行った。

結果、アンケート集計による満足度は、大多数の項目で95%を越え、昨年度を上回る結果となった。

また、相手国事情に関する資料の有効利用、参加日本青年の相手国への理解不足解消のため、交流手帳の活用、合宿では参加青年に自国紹介プログラムを設けた。

より各国の国情にあったプログラム作成のために、新規受け入れの中国及び韓国については、専門家を招きプログラム検討会を開催した。

地方においては、合宿やキャンプを行う等、地元青年との交流機会の充実がみられ、昨年度までは比較的濃厚であった観光的要素が、薄れる方向にある。また、地方自治体の中にも、この事業を積極的に支援するところが増加しており、実施方法にも、全県レベルでの実施、また、県内1市とのタイアップ実施等各県での特色が現れ始める傾向が見られる。

(資料集 国内プログラム)

4. 見学旅行プログラム

全体に京都・広島が中心であるが、イスラム圏（特にブルネイ、マレーシア）の青年については、神社仏閣が必要以上に多くなり過ぎないように配慮した。また、広島においては、直接被爆者の話を聞くなど、観光のみに終らないプログラムを工夫するケースも増加した。

（資料集 国内プログラム）

V 青年の帰国時アンケートを基にした評価

1. アンケート実施内容

(1) 設問1：約1ヶ月間の滞在を通し、日本での生活全般にどの程度困難を感じたかを問う。

- ・アンケート実施項目：以下の各々について問題無し、殆ど問題無し、少々困難、相当困難、非常に困難、の5段階設問形式で行った。

日用品の価格

食事

安全

混雑

日本人の外国人に対する態度

体調

ホームシック

習慣の相違

気候

プライバシーの欠如

グループ内の調和

生活ペースの早さ

(2) 設問2：共通プログラム、分野別プログラム、見学旅行等のプログラム全体を通し、青年達がプログラム内容をどう評価したかを問う。

- ・アンケート実施項目：以下の各々について非常に良かった、まあまあ良かった、良かった、余り良くなかった、良くなかった、の5段階設問形式で行った。

共通プログラム 講義

日本語

見学

分野別プログラム 講義

見学

日本青年との討議

日本青年との交流

観光

ホームステイ

見学旅行 京都等

広島

(3) 設問3：プログラム全体について、総合的に青年達の感想を問う。

- ・アンケート実施項目：

日本青年との交流機会
選定された訪問先
プログラムの運営監理

左3項目については適当、不適當の2選択肢の何れかを選んでもらった。

以下の項目についてはそれぞれ以下の様な選択肢をもうけた。

滞日期間（短かすぎる、ちょうど、長すぎる）

プログラム数（多すぎる、適当、少なすぎる）

グループの大きさ（大きすぎる、適当、小さすぎる）

何処が最も印象に残ったか（東京、京都、広島、地方プログラム実施地、その他）

日本での体験をどの様に評価するか（優、良、可、不可）

友人にこのプログラムを薦めるか（是非薦めたい、多分薦める、解らない、薦めない）

2. アンケート結果集計方法

(1) 設問1：生活について

・少々困難を感じる状況が一般的であると考えたうえで下式を使って集計グラフ化した。

$$\frac{\text{非常に困難} \times (-2) + \text{相当困難} \times (-1) + \text{少々困難} \times (0) + \text{殆ど問題無し} \times (1) + \text{問題無し} \times (2)}{\text{総回答数}}$$

(2) 設問2：プログラム内容

・良かったと回答した人数を中心として下式を使って集計グラフ化した。

$$\frac{\text{非常に良かった} \times (2) + \text{まあまあ良かった} \times (1) + \text{良かった} \times (0) + \text{余り良くなかった} \times (-1) + \text{良くなかった} \times (-2)}{\text{総回答数}}$$

(3) 設問3：プログラム全体について

各項目回答者数を全体回答数で除したパーセント表示とした。

3. アンケート集計結果

(1) アセアン（アセアン混成グループを除く）全体

(2) 国別：ブルネイ

フィリピン

インドネシア

マレーシア

シンガポール

タイ

ビルマ

フィジー
 パプアニューギニア
 中国
 韓国

(1) アセアン (アセアン混成グループを除く)

(ア) 設問1：生活について

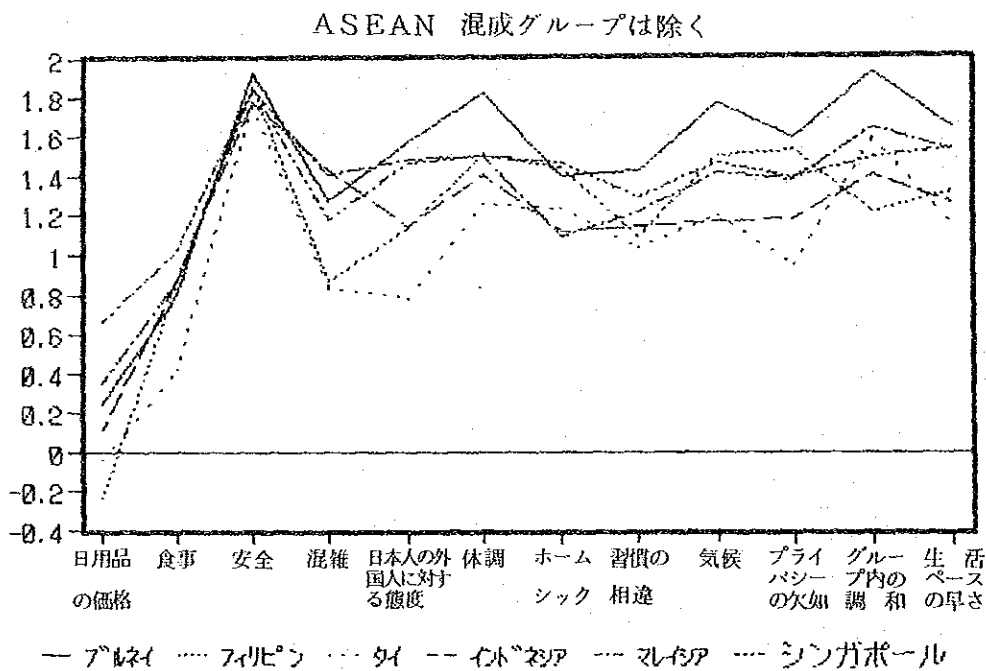
全体的にみるとやはり日本の物価の高さに大きな困難を感じている。それとは対称的に安全に対する信頼度は高い値を示した。

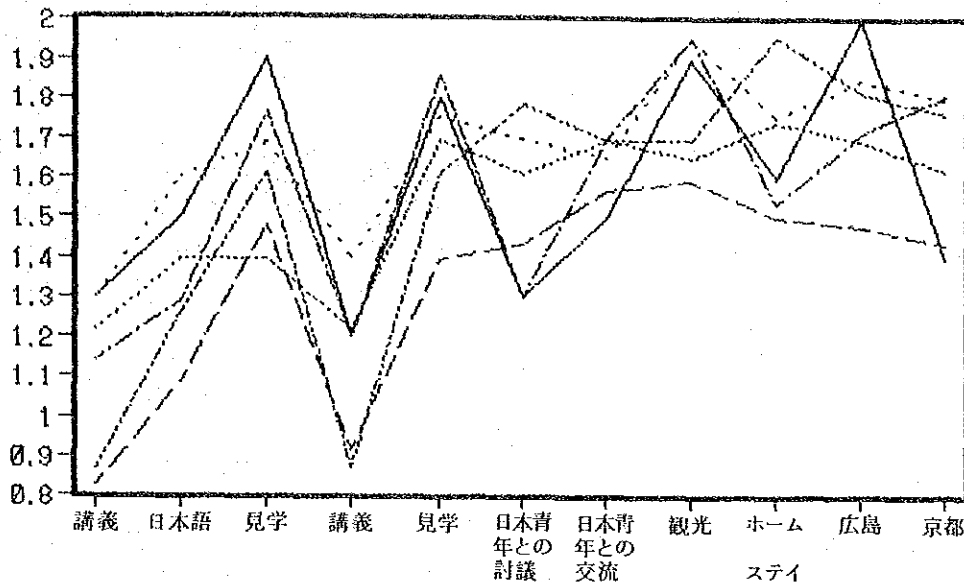
国別に見ると、ブルネイ青年の困難度が、食事を含めて全体的に低く、イスラム教徒に対する配慮がよく払われていたことが解る。

また、顕著な傾向として、日本人の外国人に対する態度に、タイとフィリピン青年が比較的大きな困難を感じたことが解る。この項目については、在日留学生との接触が、比較的多かったマレーシアも低調な値を示しており、実際に一部のメンバーが、不愉快な経験をしたフィリピンと似たような値を示している。

(イ) 設問2：プログラム内容について

全体的に見てタイが、比較的低調なラインで推移している。これに対しブルネイは、全





— ブルネイ — インドネシア — マレーシア — タイ — フィリピン — シンガポール

体的に高い値で推移しているが、タイが、日本青年との交流や討議に対し比較的高い評価をしているのに対し、ブルネイは、対称的に観光、見学等に高い評価を下している。

また、ホームステイについては、例年では、英語を交流に使用してきた国の青年のホストファミリーの英語力に対する期待が高く、ホストが英語に堪能でなかった場合の失望が結果として評価を他の現地語対応の国より低くする傾向にあったが、本年は、シンガポールとフィリピンを見ても解るように、同じ英語使用国でも評価が、2分された。ホームステイに対する評価が低いタイ、フィリピンに共通しているのは、設問1の日本人の外国人に対する態度に対し、困難を感じたという結果が出ていることである。

講義については、共通プログラム、分野別プログラムともにあまり歓迎されていないことが解るが、これは、講師の選択、形式の工夫によってある程度改善できる項目であることが、共通プログラムの講義に対する評価が必ずしも全グループ低いものではないことを見ても解る。

(c) 設問3：プログラム全体について

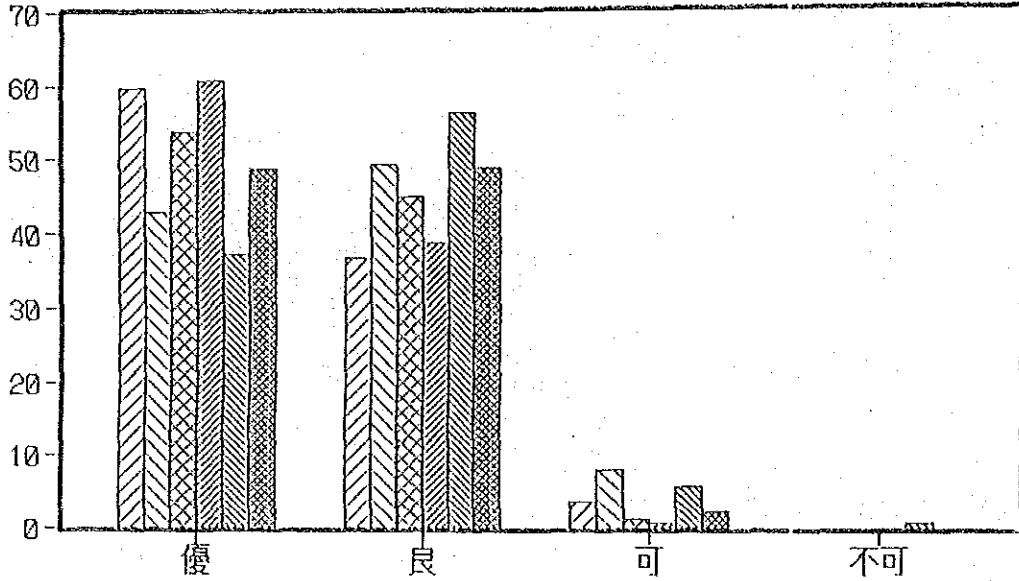
青年の滞日中の体験に対する評価をもっとも端的に表すのは、「日本での体験をどのように評価するか」と「このプログラムを友人に薦めるか」の2項目である。全体の中で、滞日中の体験を「不可」(POOR)としたのは、わずか2名で双方ともインドネシア勤労青年であった。また「友人に薦めない」としたのは2名で双方ともタイ農学系学生であった。

また、国毎の傾向を見ると、都市型の国シンガポールは、東京滞在を、農村青年を含め全国的に地方からも参加しているタイ、インドネシアは、地方プログラムを比較的高く評

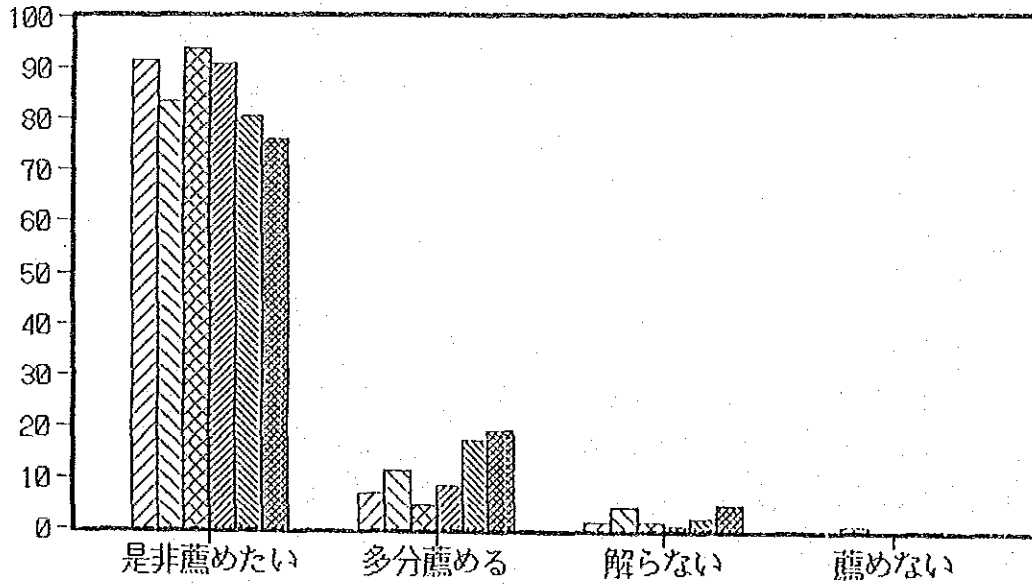
価している。

ブルネイ、マレーシアの広島での体験に対する評価が高く、シンガポールの低調さと対称をなしている。

日本での体験をどの様に評価するか
ASEAN (混成グループを除く)



友人にこのプログラムを推薦するか
ASEAN (混成グループを除く)



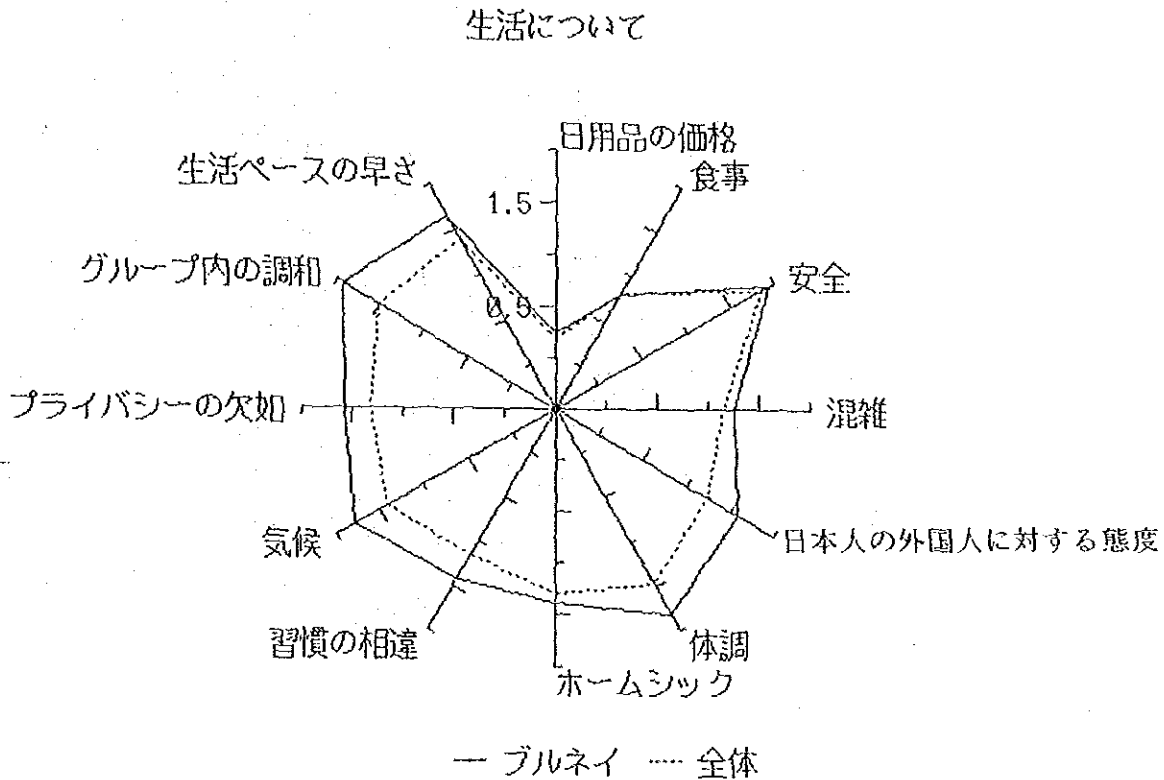
マレーシア
 タイ
 シンガポール
 フィリピン
 インドネシア
 ブルネイ

(2) 国別

ブルネイ

(f) 設問1：生活について

全体的に良い評価だが、安全に対して、また、敬虔なイスラム教徒が多いだけに、生活習慣の相違、食事に相対的に困難を感じた度合いが大きいようだ。

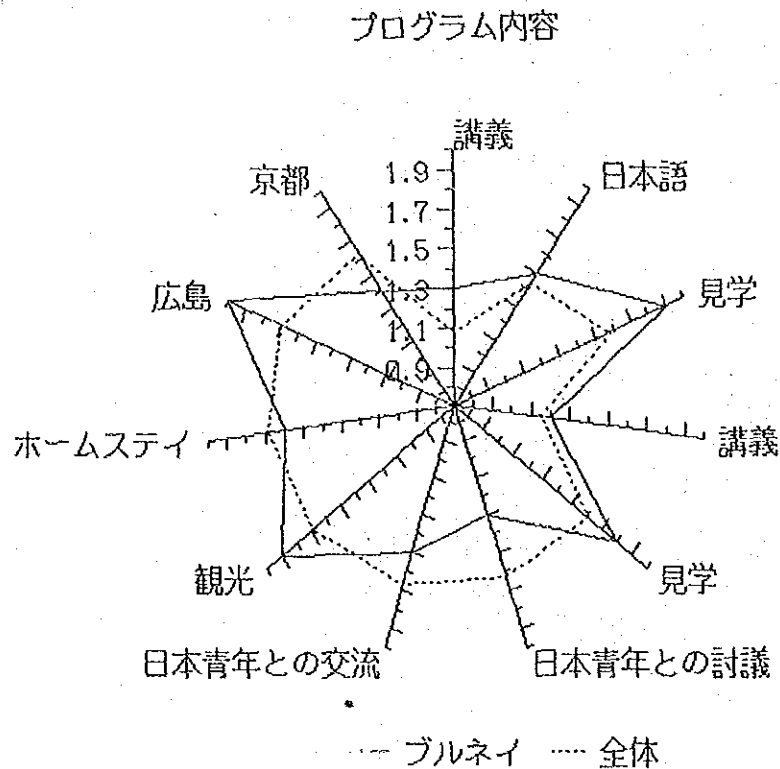


(g) 設問2：プログラム内容について

講義の評価は相対的に高いが、態度は聞く一方で質問は余り出ない。また、日本青年との交流、討議について評価が比較的低いが、原因の一つとして交流する日本青年が、交流場面で一貫していなかったことがあげられる。また、ブルネイ青年の期待したほど、日本青年の参加意識が高くなかったことも、ブルネイ青年自身が、交流に多くを期待していないこととあいまって原因に評価を低くした原因に含めることができる。見学旅行については、京都の評価が低い。これは、イスラム教徒であるため、神社、仏閣見学に対し戸惑いを覚えたためであろう。それとは対照的に広島は、ブルネイ青年達の心に強い印象を残したようだ。特に、青年指導者グループ、地方プログラム実施県が、首都圏に近く（茨城県）、かえて広島が、地方としては、印象に残った結果となった。また、地方でホームステイ評価が相対的に低いのは、生活習慣の相違、食事の問題に不安があったためと思われる。

(c) 設問3：プログラム全体について

公務員グループの評価が相対的に低いのを除くと、他のアセアン諸国と比較して高い評価を顕している。



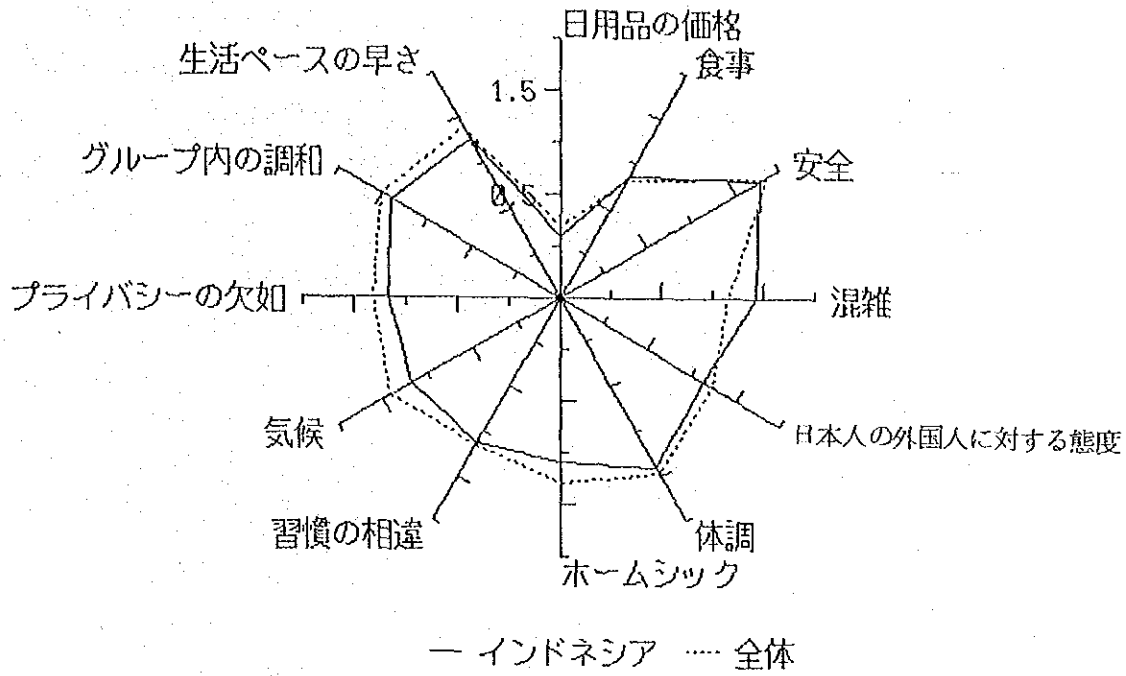
インドネシア

(f) 設問1：生活について

日本人の外国人に対する態度についての評価が低いのは、他のアセアン青年のアンケート結果と比べても、本年度招へいインドネシア青年の特徴であるといえる。また、地方からの参加者の多かった公務員、青年指導者グループはホームシックを感じた青年が多かった。都市型の青年の多い勤労青年グループでは、年齢層も比較的高く、いわゆる大人が多かったと思われ、プライバシーの欠如に対し比較的困難が大きかったという結果が出ている。この項目で特に顕著なのは、グループ内の調和に対し、青年指導者グループの評価が低いことであるが、これは各人の興味が共通しておらず、グループ内にグループができてしまったことが、原因かと思われる。

気候・体調に関しては、10月中旬から来日した勤労・学生グループは寒さに対して、相当困難を感じたようである。また、夏の暑いさ中、6月下旬から来日した2グループの中にも健康上の困難を感じたものが多かった。

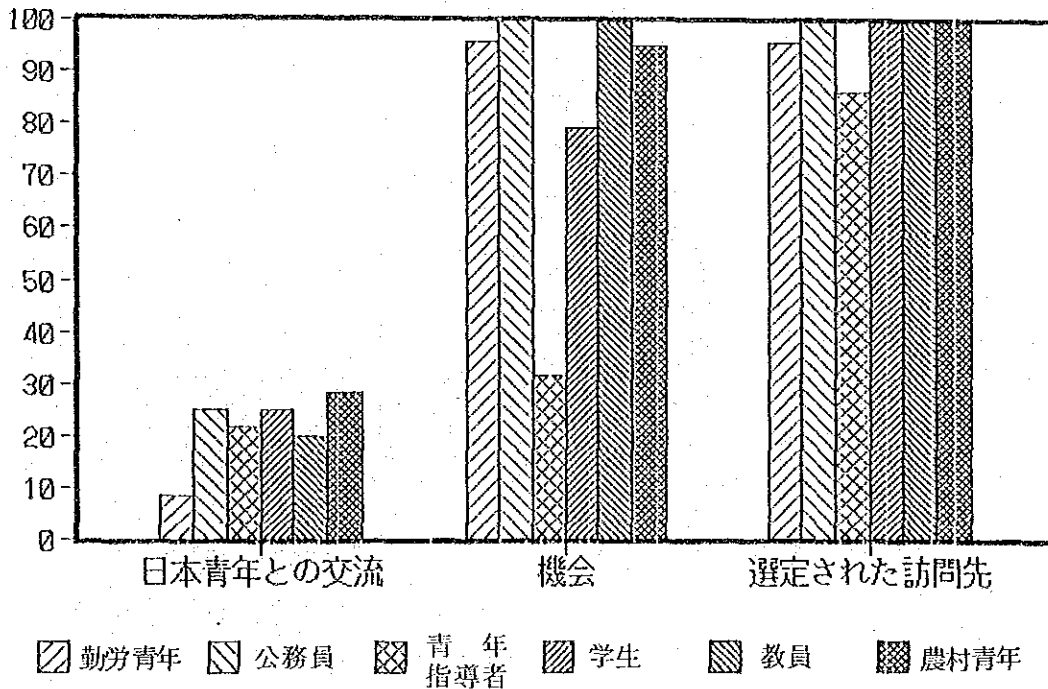
生活について



(f) 設問2：プログラム内容について

(1) 全項目を通して特徴的なのは、青年指導者グループで、このグループでは、プログラム全期間を通して評価が低い。これは、設問1の「グループ内の調和」に対する評価

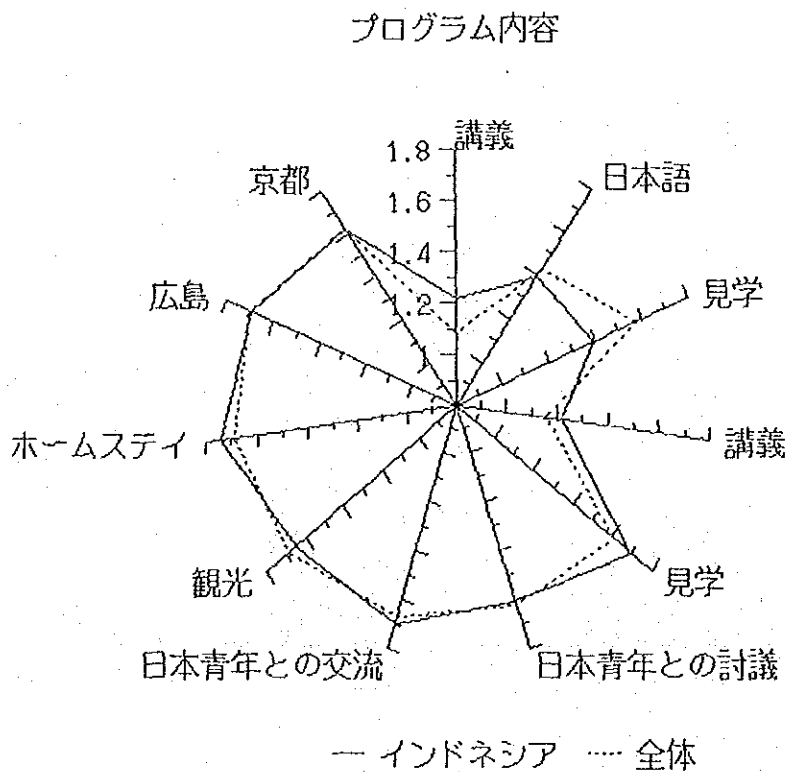
適当と答えた人数(%)
インドネシア



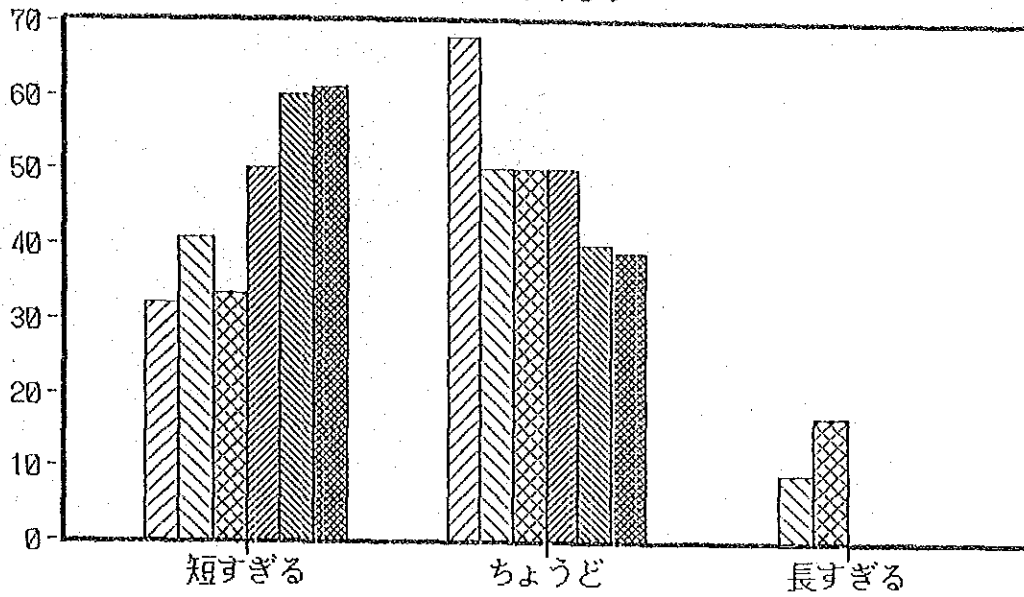
が低いものにも表れているように、インドネシアでの入選が遅れたうえ、グループリーダーの指導力に問題があり、グループにまとまりがなかった事が評価を下げた一因と考えられる。また、全般的にみて、日本人青年との討議に対する評価が高いのは、勤労青年と公務員であり、両方とも、日本人青年の分野がはっきりしており、参加意識も高かったことが挙げられる。反対に教員グループの当設問に対する評価は比較的低いのが、これは、交流した日本人青年の分野が合わなかったことが、原因と考えられる。また、現地プログラムとのかねあい、平均9時間授業を実施している日本語については、基本的な会話は現地で身につけた上で、日本での日本語授業は、実地に即して復習するくらいの受け止め方をしており、現行の共通プログラムでの日本語授業には比較的低い評価が出る結果となった。

(7) 設問3：プログラム全体について

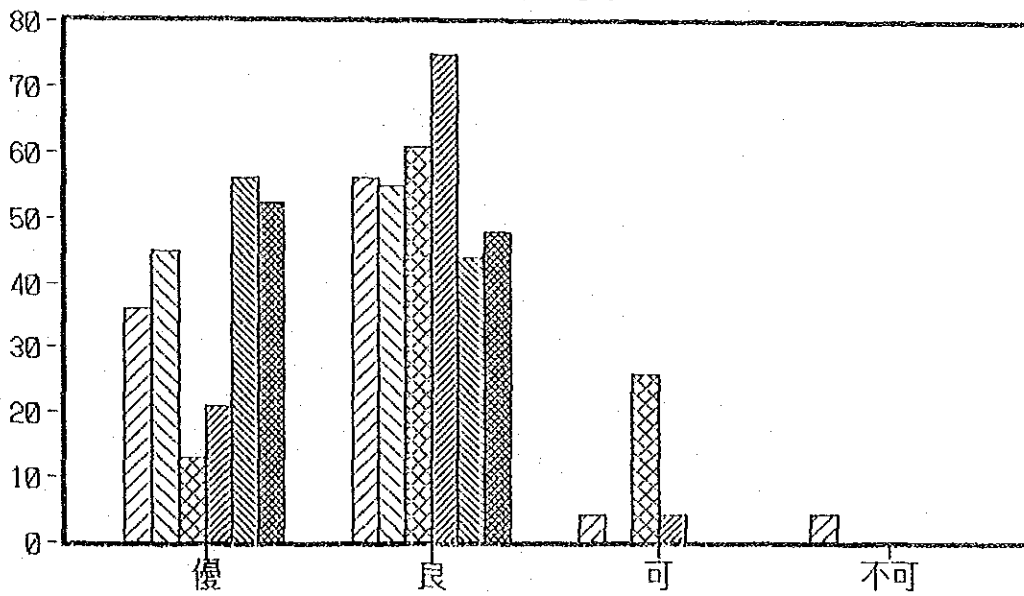
「適当と答えた人数」この項目では全体的に評価は良好であるが、約70%以上の青年たちが日本青年との交流機会が、少ないと感じている。勤労青年では特にこれが顕著で、これは、交流する日本人が、その都度変わり一貫していなかったためと考えられる。また、滞日期間について青年指導者グループは長すぎると感じた人数が多くなっているが、滞日期間が長く感じるのは、その青年が余り日本での生活を楽しめなかったということを表しているとも考えられ、上にも述べたように、全体にグループ内の統一が取れなかったこのグループでは、ここにも低い評価が表れている。



滞日期間
インドネシア



日本での体験をどの様に評価するか
インドネシア



勤労青年
 公務員
 青年指導者
 学生
 教員
 農村青年

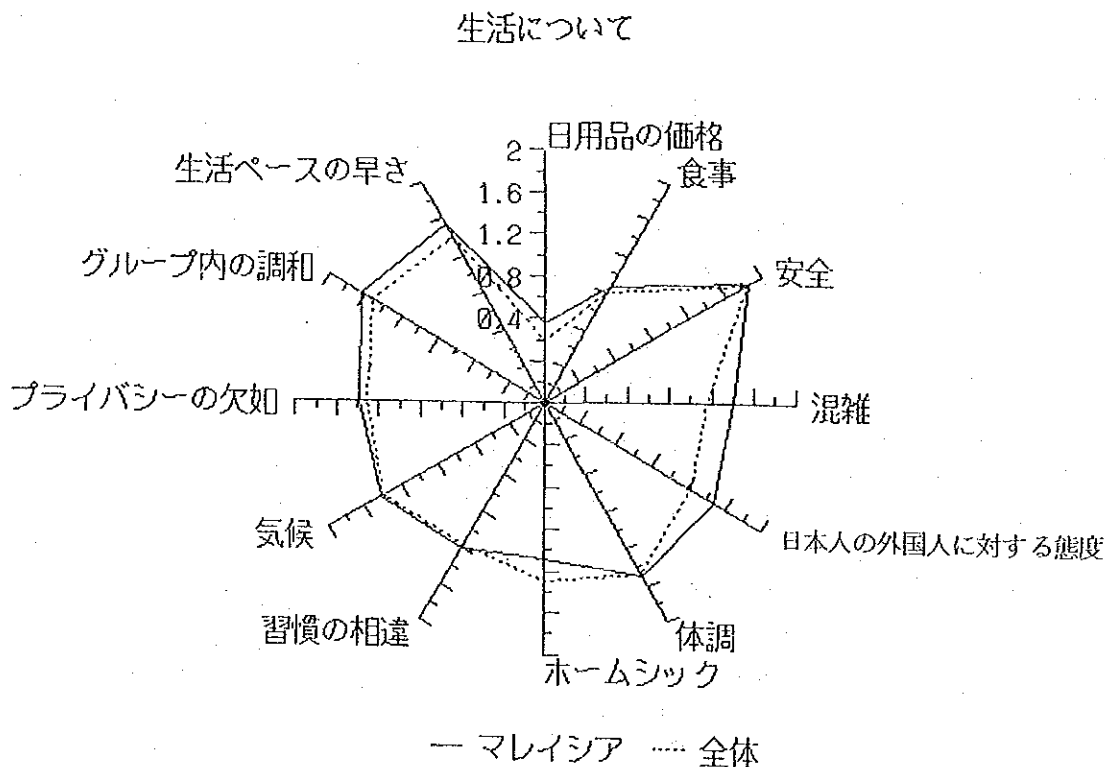
マレーシア

(f) 設問1：生活について

マレーシア青年で顕著なのは、ホームシックを相対的に強く感じていることである。これは、生活習慣の相違に感ずる困難が大きいことを見ても解るように、イスラム教国であるマレーシアでの生活環境と日本での環境が、大幅に違うものであったことも原因の一つと考えられる。これは、生活習慣の相違・食事の2項目にも表れており、教員グループ、農村青年グループについては、特に大きな困難を感じたようだ。これは教員グループについては、全体に年齢層が高かったため、また農村青年グループについては、招へい青年中にイスラム教司祭がおり、他の青年たちが、イスラムの戒律を自ずから意識せざるを得ず、日本の生活習慣に馴染むことが出来にくかったためと考えられる。但し、学生グループは例外で、積極的にプログラムを楽しんでいたようである。また、気候については、真夏に来日した青年（公務員・勤労青年）は、気候に困難を感じ体調も思わしくなかったようである。

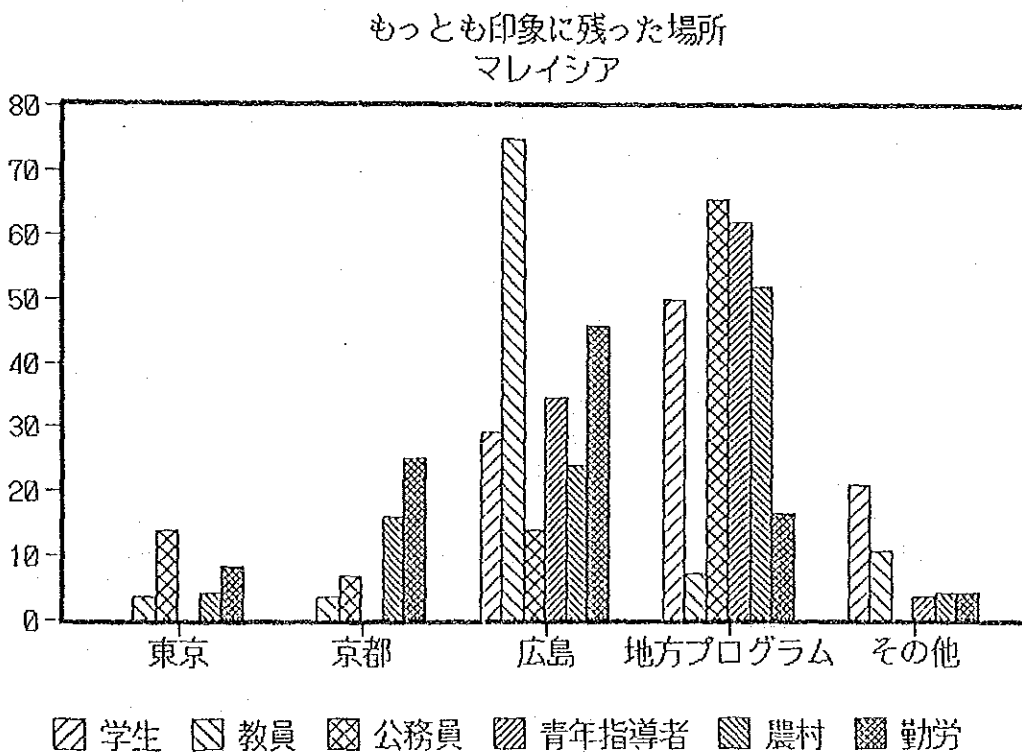
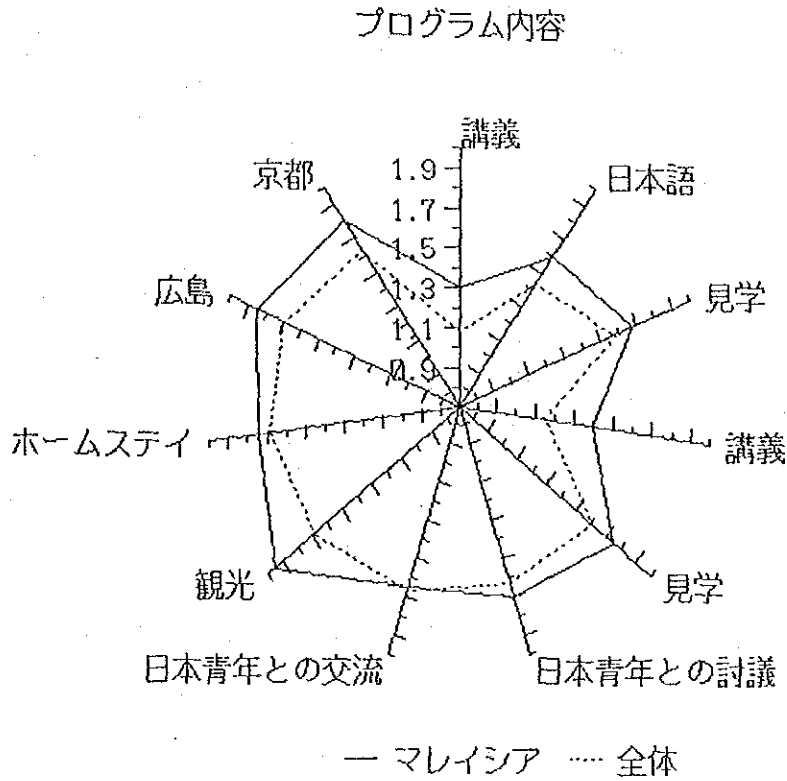
(g) 設問2：プログラム内容について

勤労・農村青年グループでホームステイの評価が、相対的に低いのはおそらく、勤労の場合、ホームステイ実施直前にホームステイ受け入れ家庭に変更があったこと、農村青年グループは1家庭2人受け入れであったことに原因があると思われる。また、講義についても比較的评价が低いが、やはり良い通訳が確保しにくいところに問題があると思われる。



② 設問3：プログラム全体について

全般的に高い評価が出ているが、「もっとも印象に残った場所」の項目において、教員の広島に対する評価が特に高いのは、ラザック先生（マレーシア現地プログラム日本語講



師)にゆかりのマレーシア人被爆者の墓を見学する機会があったが、その効果であろう。

フィリピン

(f) 設問1：生活について

グループ内の調和：

青年指導者、勤労青年、農村青年、教員の4グループで低く、目立って低調な青年指導者では、プログラム全体への評価も低いことが指摘できる(設問3・このプログラムを友に薦めるかを参照。)

日本人の外国人に対する態度：

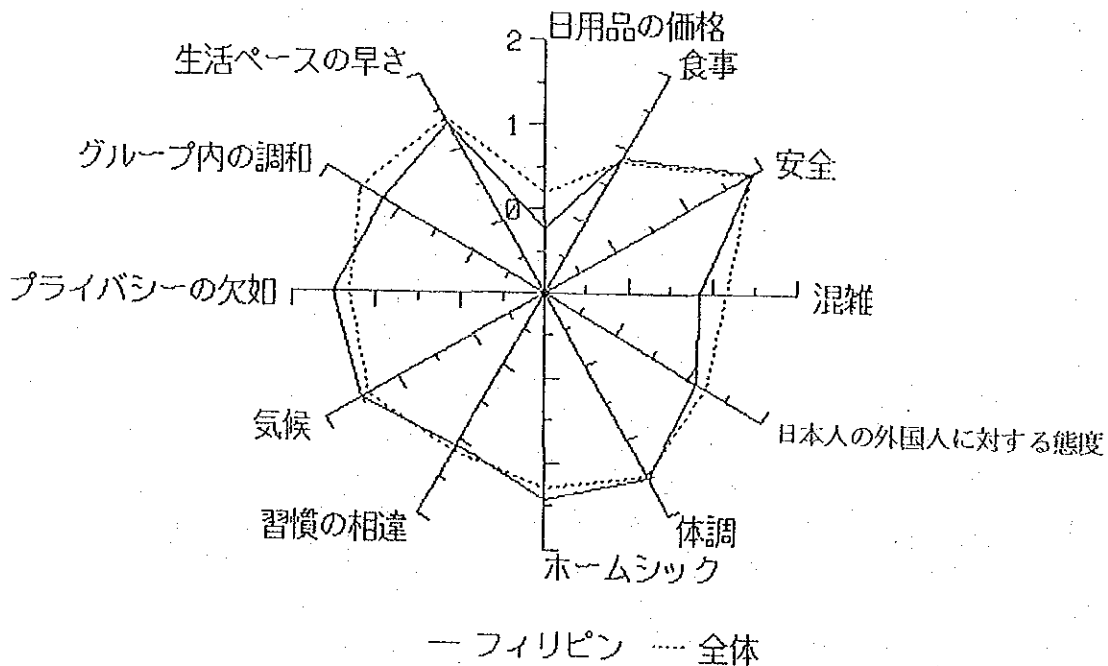
教員グループで特に低い。これは、街を散策していて、警官に調書を取られる、飛行機の中で粗末に扱われたと感じる等、日本人のフィリピン人への差別感情に特に当初から敏感になっていたためと思われる。

また、混雑、日用品の価格については、特にフィリピン青年の特徴である活発に行動し、積極的に街へ出かけるところから、これらの項目に困難を感じる機会も多かったと思われる。

(i) 設問2：プログラム内容について

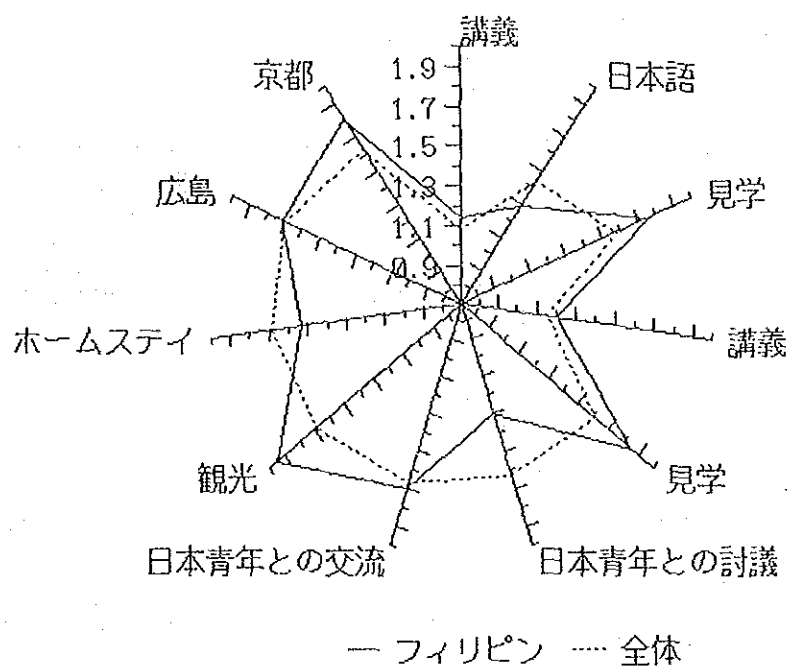
講義の評価が、教員グループの評価が特に高いことを含め、相対的に高い。しかし、学生グループでは講義の評価が比較的低く、これは、学歴の高さ(学生A、修士・博士課程在籍者8/20人、学生B、修士・博士課程在籍者19/25)から、講義のレベル、方

生活について



法が青年達の興味を十分満たすものでなかったことが考えられる。また勤労青年グループの講義の評価が低いのは現場で働く勤労青年が多く、講義は苦手であったことが考えられる。また、日本語の評価が全般的に低いのは、時間数の不足を訴えているとみてよいであろう。日本青年との討議・交流については、フィリピン青年の学歴レベルが一般に高いことを考え合わせると、交流に参加した日本人青年のレベルが低いと感じたことに、比較的数値の低くなった原因があると考えられる。またこれと対称的に交流の評価は高い。

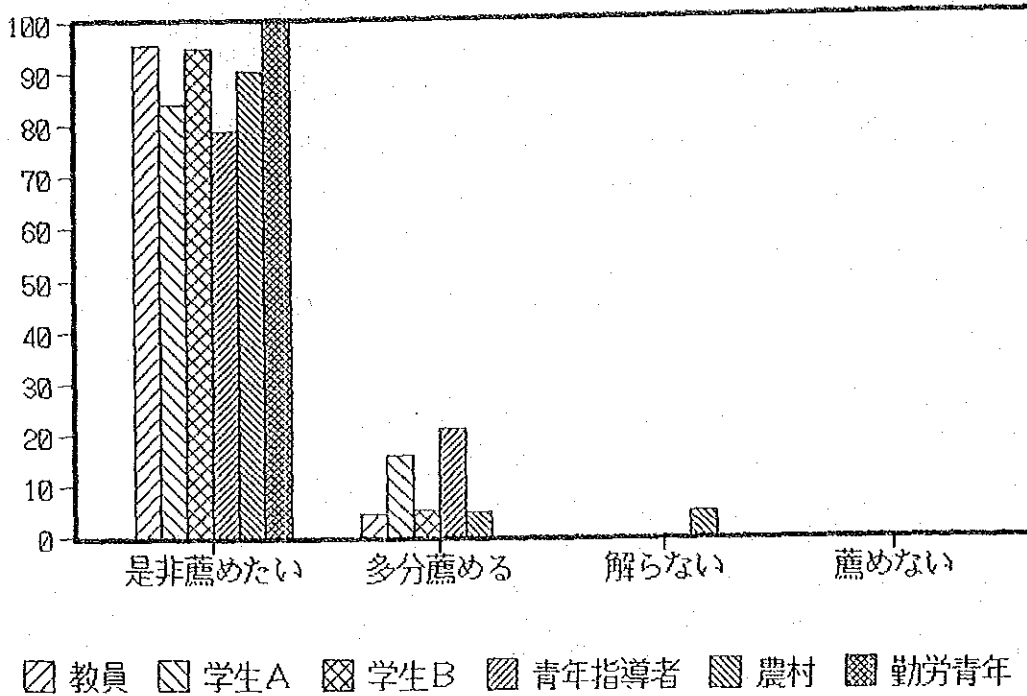
プログラム内容



(ウ) 設問3：プログラム全体について

全体的にみて、青年指導者グループの評価が低いのが、これは、青年の興味の対象が分散し、一ヶ月間のプログラム内容のみでは、各々の期待した成果が、上がらなかったと感じた青年が多かったことに原因があると考えられる。

友人にこのプログラムを推薦するか
フィリピン



シンガポール

(ア) 設問1：生活について

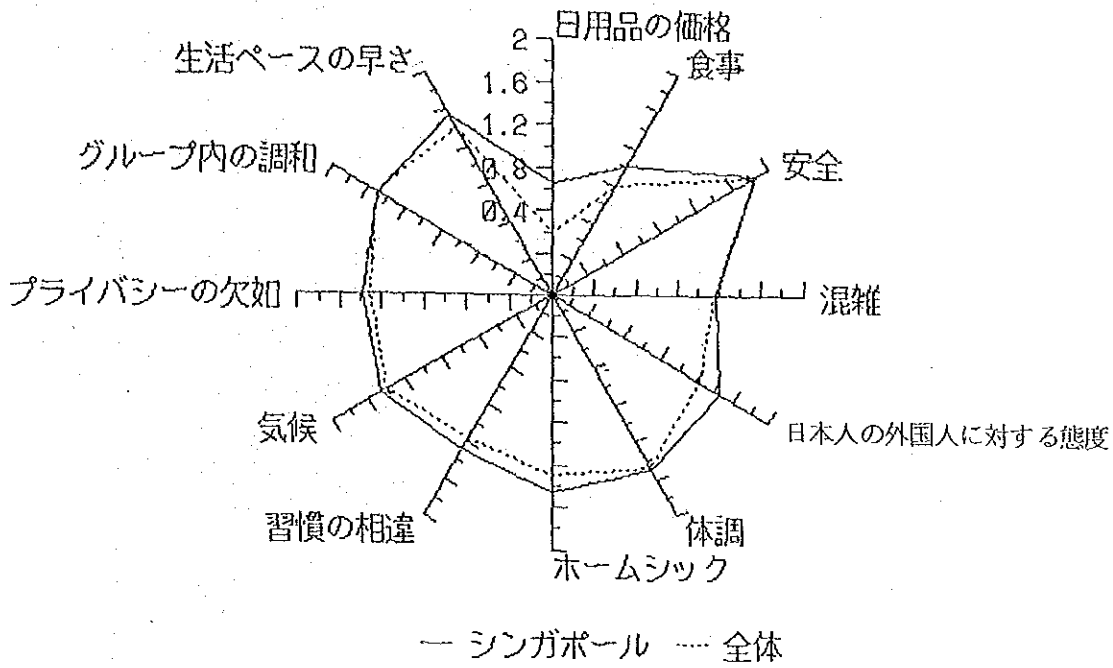
特徴として、他のアセアン太平洋諸国に比べると、物価に対して感ずる困難が少ないことが挙げられる。また、グループ内の調和では公務員1の評価が低いが、比較的年齢層の高い青年が多かったため、グループ構成員同士が、相対的にしっくり来なかったことに原因があるようだ。気候については、湿気が多い梅雨の時期に来日した教員・学生グループは、気候に困難を感じたようである。

(イ) 設問2：プログラム内容について

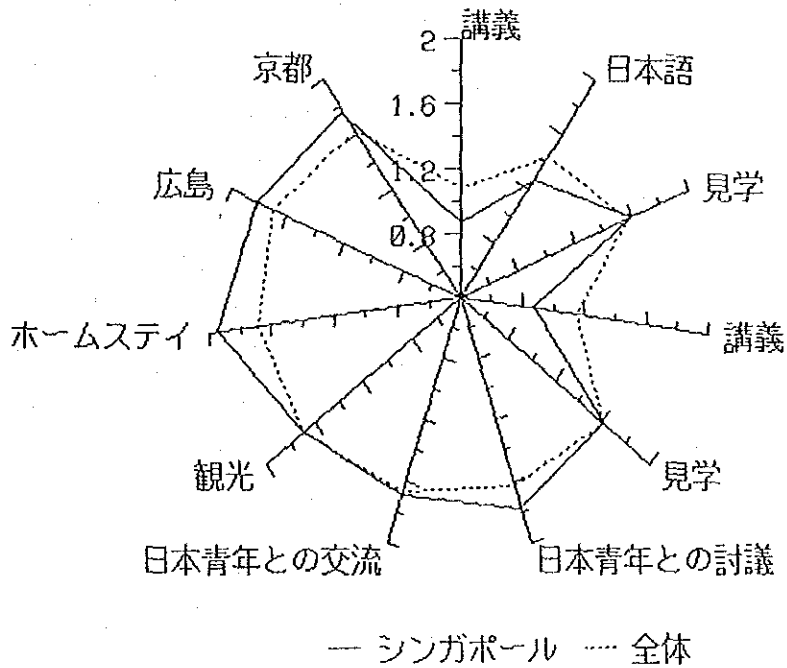
講義の評価が低いのは、内容的に現地プログラムとの重複が、多いからと思われる。また、目的意識のハッキリした青年が多く一般的な見学や、観光の評価は、相対的に良くない。

ホームステイに関しては、全体的に点が辛い教員グループが、特にホームステイの評価が際だって低い。これについては、過度に客扱いされ家族と打ち解けられなかったという意見や、言葉の問題があったという反響を得ているが、評価を下げた際だった要因は見あたらない。青年指導者は、それと対称的にホームステイの評価が非常に高く、これは、地方プログラム実施地である北海道という土地が、シンガポールにはない広大な自然で青年達を引き付けたものと思われる。

生活について

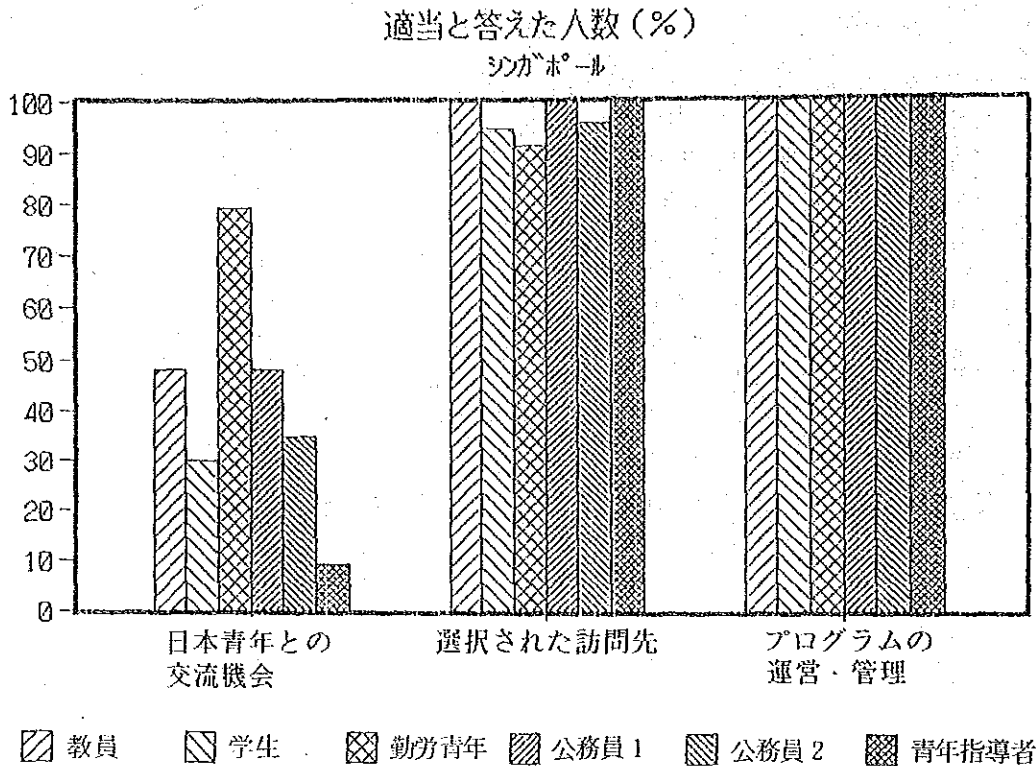


プログラム内容



(ウ) 設問3：プログラム全体について

全体的に日本青年との交流が、まだまだ不足していると感じている事が解るが、勤労青年グループに関しては、80%以上が、交流機会について高い満足を示しており、これは、都内で1日企業ステイ、地方で合宿を行う等の工夫の成果と見ることができる。



タイ

(ア) 設問1：生活について

全般的に厳しい評価が出ている。特に日本人の外国人に対する態度への評価が低いのは、タイ人のプライドの高さを現しているのかもしれない。また、農村青年は、地方出身者が多く、日本での生活全般に困難を感じている。また、混雑という項目については、活動的で町にも積極的にかかる学生達は、街の混雑に特に困難を感じたようである。

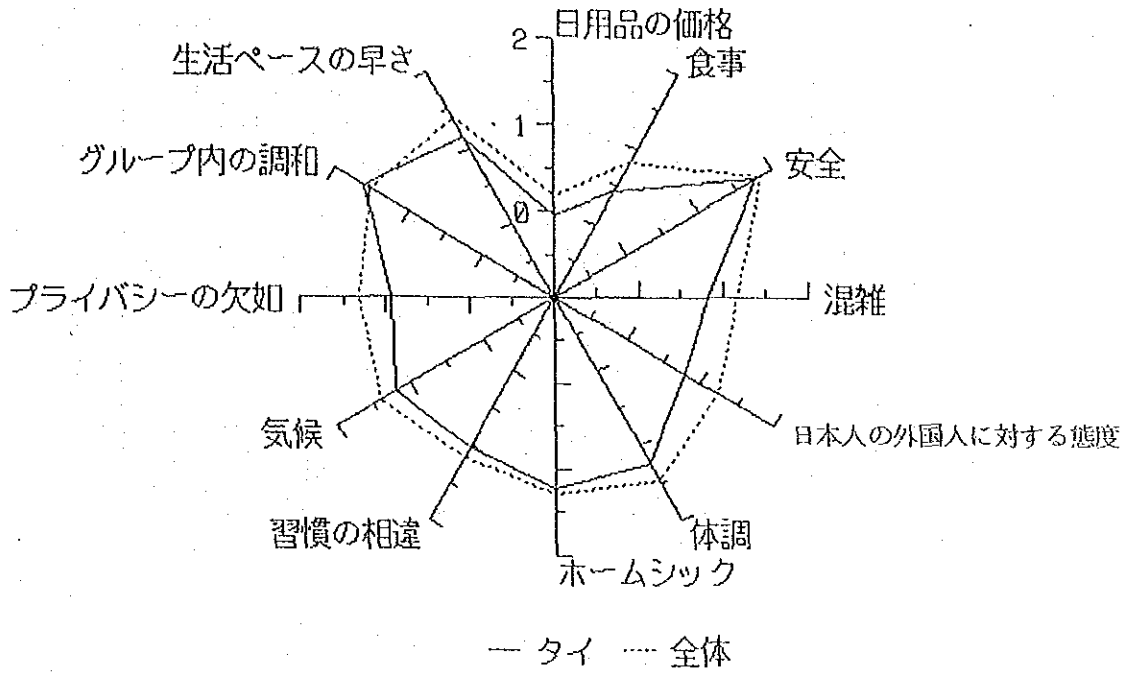
(イ) 設問2：プログラム内容について

農村青年のホームステイの評価が特に高いが、これは実質的な農業研修であったためであると思われる。また、日本青年との討論の評価が低い原因は、言葉の問題が大きかったことも一つの原因として挙げられる。

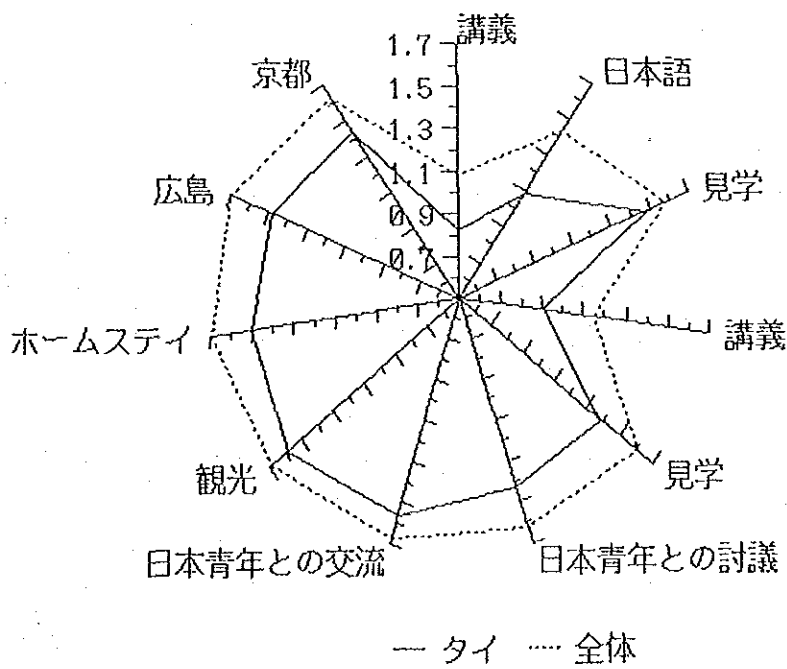
(ウ) 設問3：プログラム全体について

農村青年・勤労青年は、明らかに一ヶ月の滞日期間が短かすぎている様子が解る。これは、このプログラムに、研修的要素を強く期待している為と解釈できる。

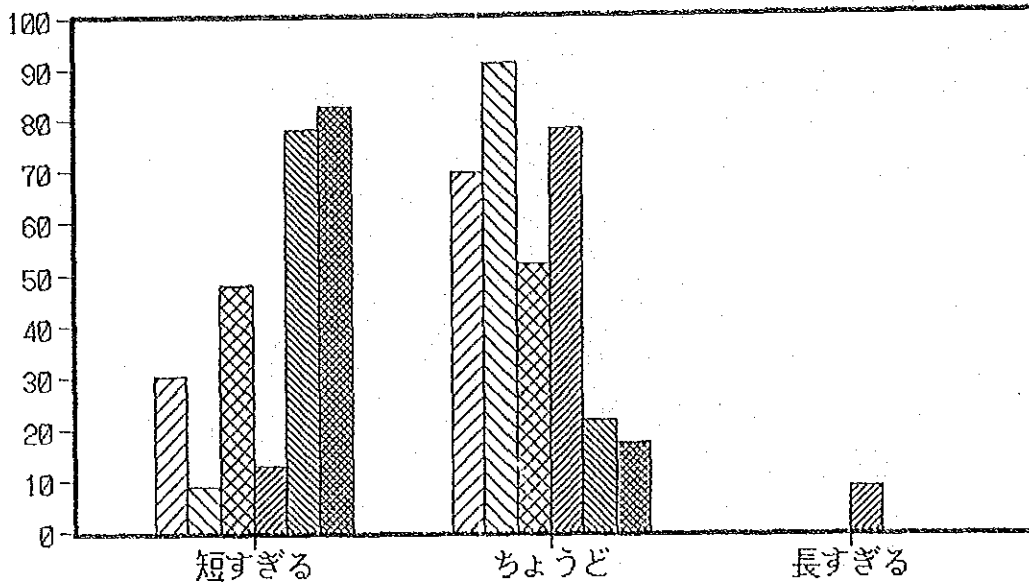
生活について



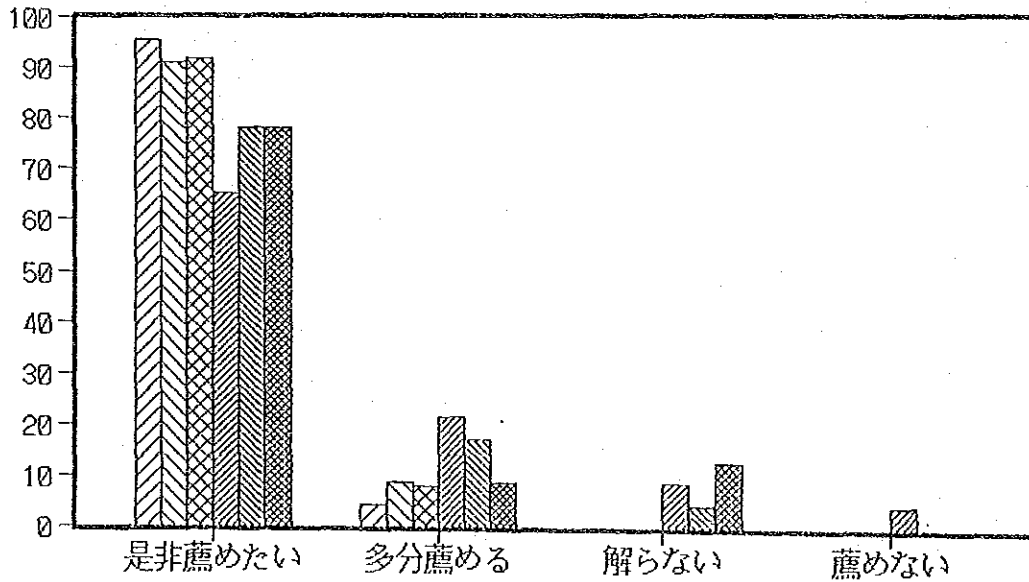
プログラム内容



滞日期間
タイ



友人にこのプログラムを推薦するか
タイ



指導者A
 指導者B
 学生A
 学生B
 農村
 勤労

「友人にこのプログラムを薦めるか」について、学生Bグループの青年中2名が、薦めないとしている。これは、地方での通訳のレベルが低かったのと同時に、地方プログラムの主旨説明が、徹底されておらず青年達にその意義が十分伝わらなかったためと思われる。

ビルマ

全員で10名の小グループで、グラフも母数が小さい関係から、急激なカーブを描いている。

(f) 設問1：生活について

食事、習慣の相違の2項目について、低い値が表れている。これは、ビルマ国外に出た経験が、殆ど皆無の青年たちが、日本の風俗習慣に、大いに違和感を感じたことが原因ではないかと思われる。また、特徴的なのは、グループ内の調和の項目であり、グループリーダーが、強い指導力を持ち、他のメンバーを統制した関係上、グループ内に一致団結した気分が生まれにくかったことから評価が低くなったと思われる。

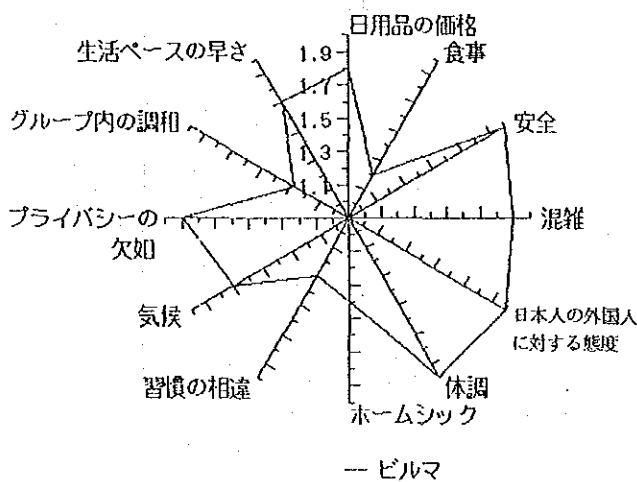
(g) 設問2：プログラム内容

ホームステイについての数値が低いのは、グループリーダーと副リーダーが、ホームステイを行わなかったからであり、その要素を考慮すれば、全般に良好な評価といえる。また、招へいビルマ青年は、日本の青年活動を現地に見るといふ明確な目的意識を持っており、講義や観光には、全般的日本理解のための意義は認めても、強い興味を持てなかったことを現している。

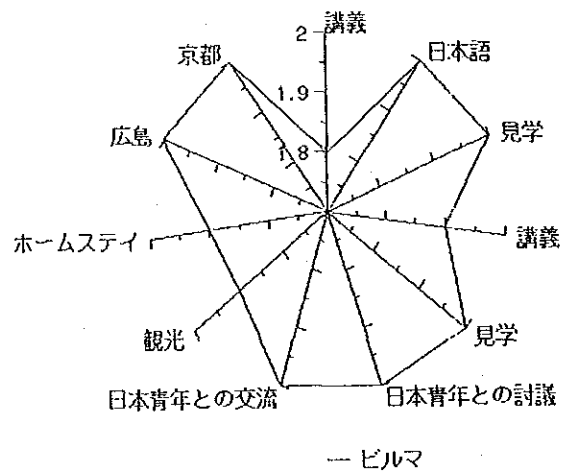
(h) 設問3：プログラム全体について

「もっとも印象に残った場所」の項目において、最も良かったと答えた人数の多かった「その他」は、地方プログラム実施地の北海道であろうと思われる。また、「友人にこのプログラムを推薦するか」の項目で、是非薦めたいという回答が、比較的少ないのは、他国との交流の少ないビルマという国家の国情を反映していると思われる。

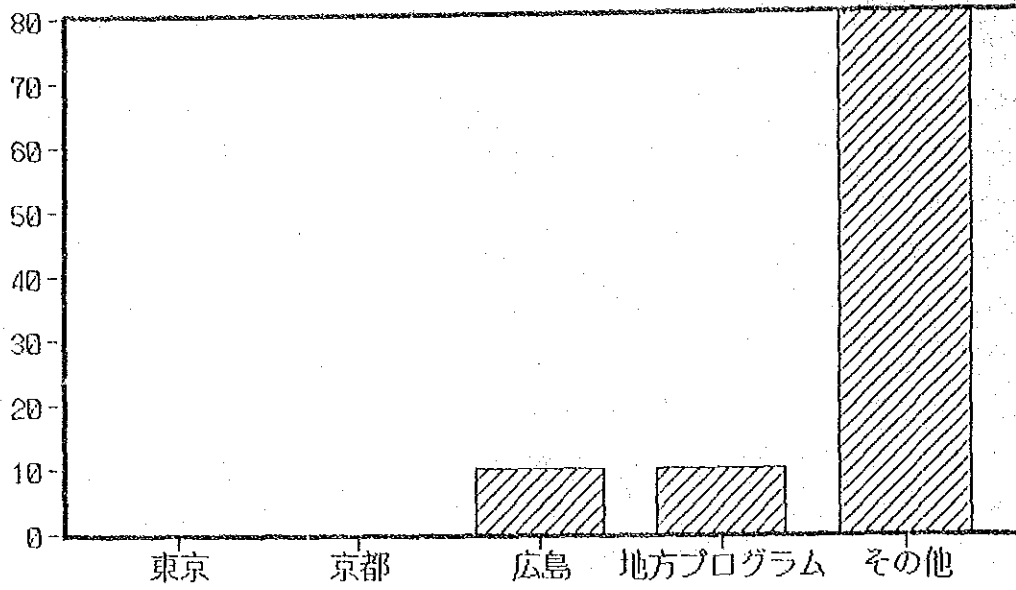
生活について



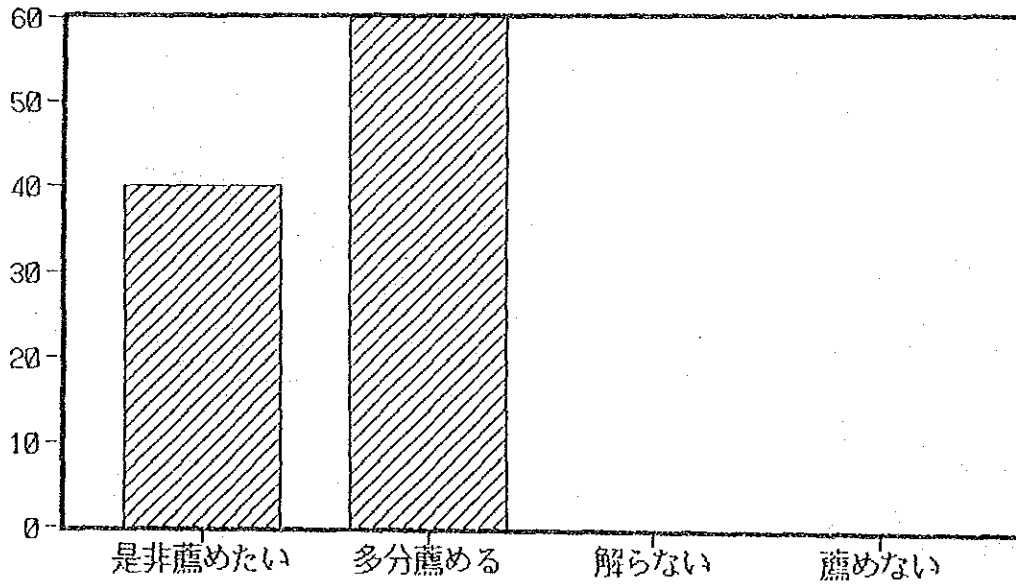
プログラム内容



もっとも印象に残った場所
ビルマ



友人にこのプログラムを薦めるか
ビルマ



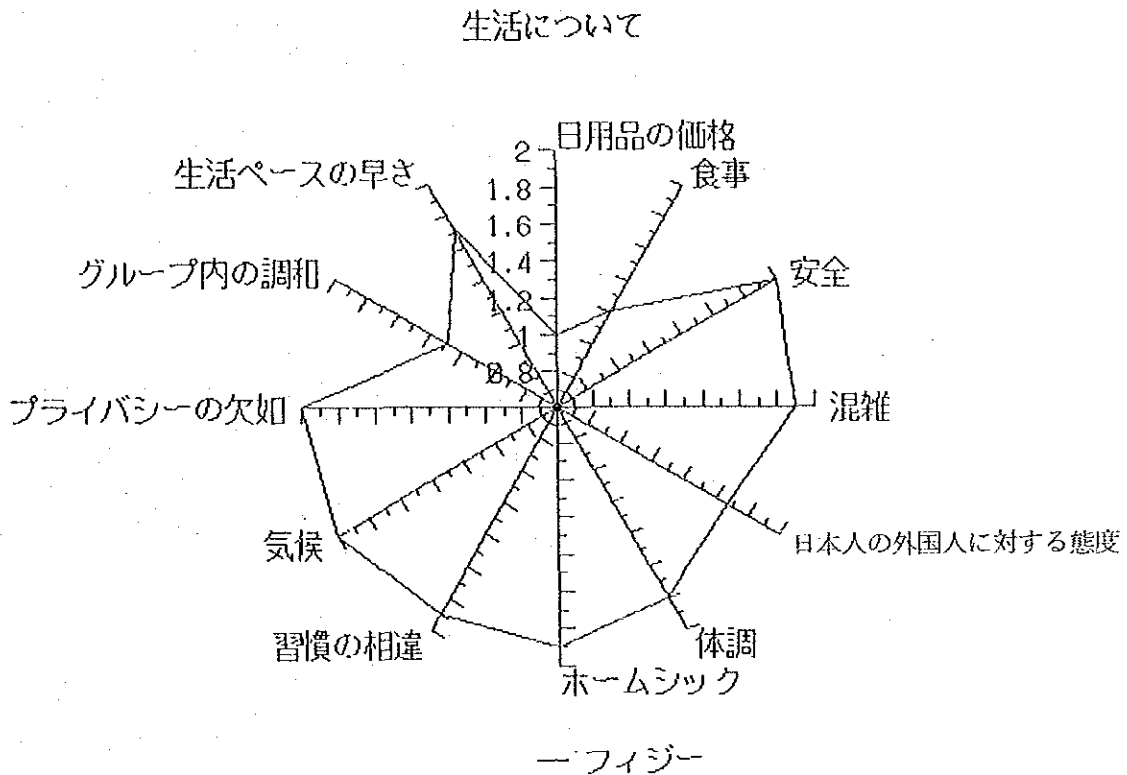
フィジー

(f) 設問1：生活について

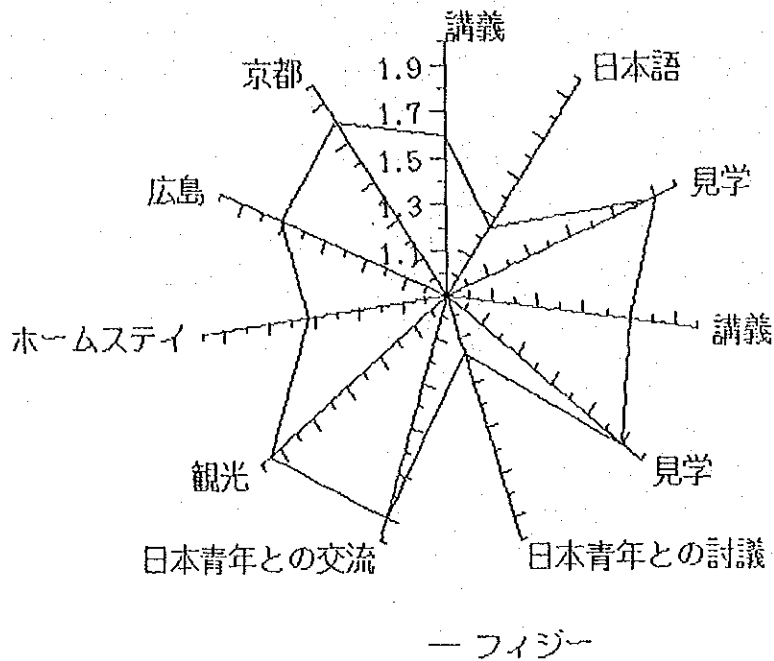
グループ内の調和の項目が低いのが、このグループは、全体的に各人の目的意識や、興味が、分散している傾向が強かったため、グループとしてのまとまりに欠けるきらいがあったことが指摘できる。

(g) 設問2：プログラム内容

日本語の評価が低いのは、現地プログラムを行っていないため、日本での学習時間の不足を訴えていると考えられる。また、日本青年との討議での数値は、日本青年との交流と比べて好対照を成している。フィジー青年の期待したほどの充実した討議ができなかったことに原因があると考えられる。



プログラム内容



パプアニューギニア

14名の小グループで、グラフも母数が小さい関係から、急激なカーブを描いている。

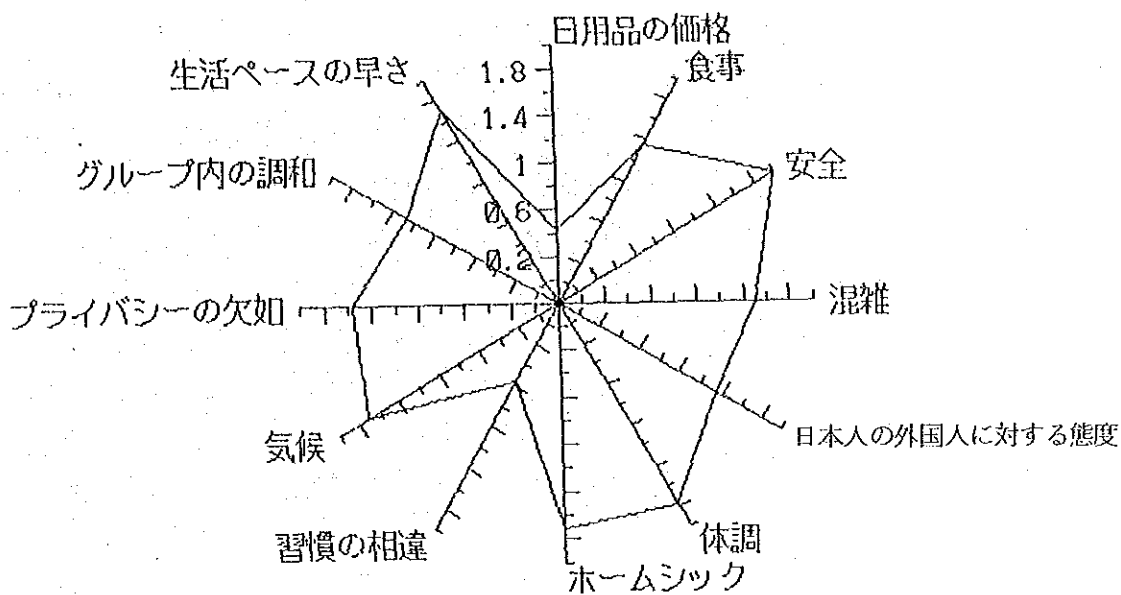
(f) 設問1：生活について

習慣の相違の項目で評価が特に低いところから、パプアニューギニアとは、非常に違った環境に戸惑ったことが解る。特にグループ行動における、時間厳守の考え方、集団主義等には、大きな困難を感じたようだ。

(g) 設問2：プログラム内容

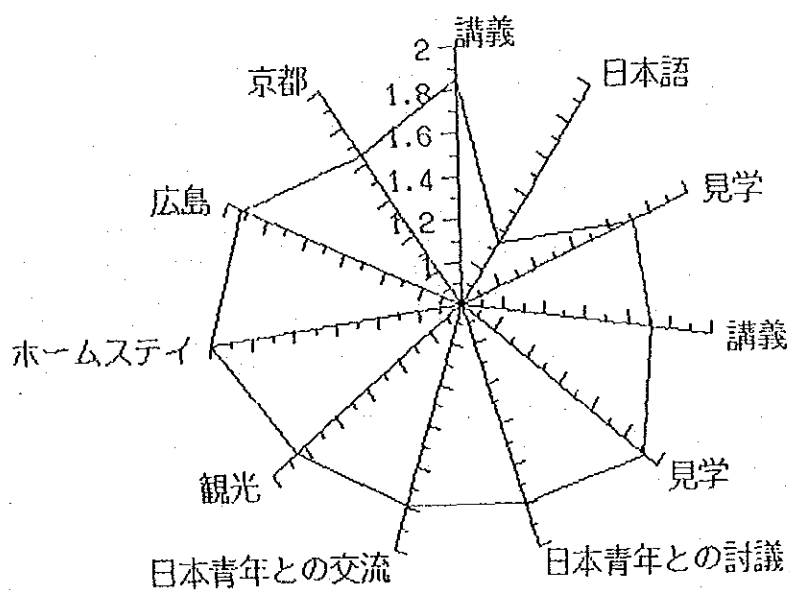
日本語授業の評価が低いのは、やはり現地プログラムでの日本語学習が、2時間程度しかなく、日本でさらに2時間余り学習しただけでは、十分な効果が期待できないことに原因があると思われる。

生活について



— パプアニューギニア

プログラム内容



— パプアニューギニア

中国

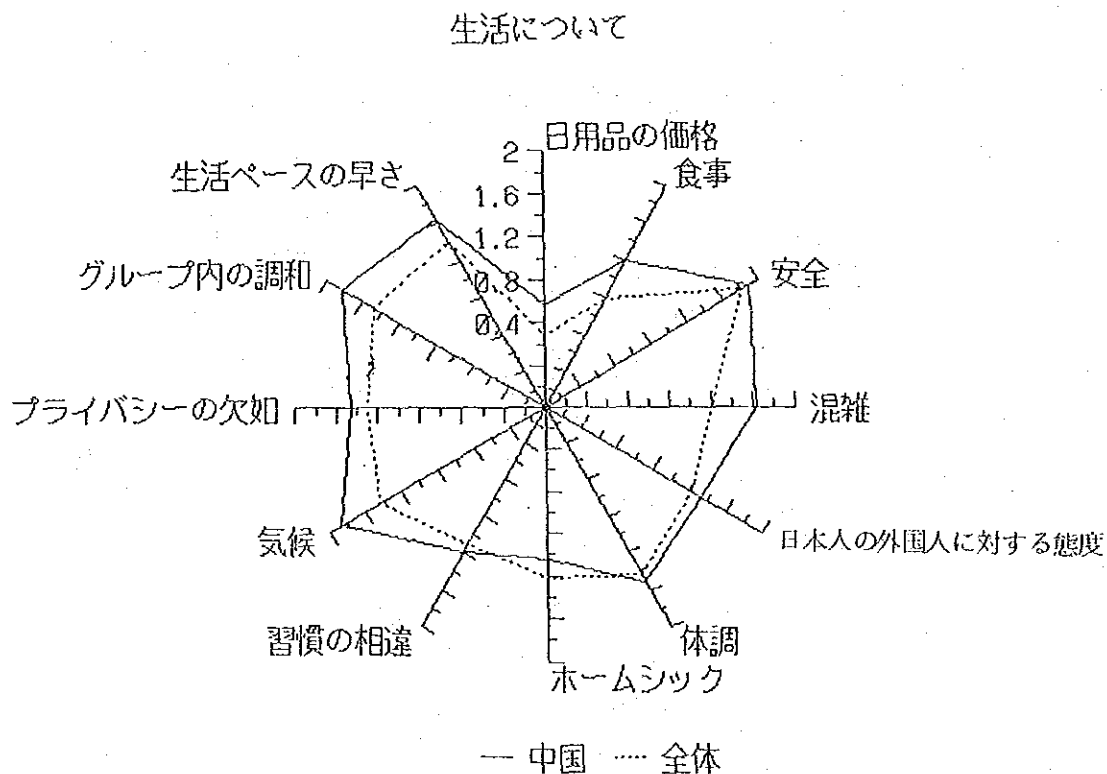
(7) 設問1：生活について

アセアン等他の各国と比較すると全般的に困難は少なかった。特に外見が似ていること、気候が似ていること、個人より集団を優先させる特性等がありプラスに働いたと思われる。但し習慣の相違及び、ホームシックについて大きな困難を感じている。また、グループ毎に見ると、青年指導者グループは特に食事について大きな困難があったようであるが、これは団長が、食事に対し神経質と言えるほど、要求の多い人であったため、それが全メンバーに影響した結果と思われる。

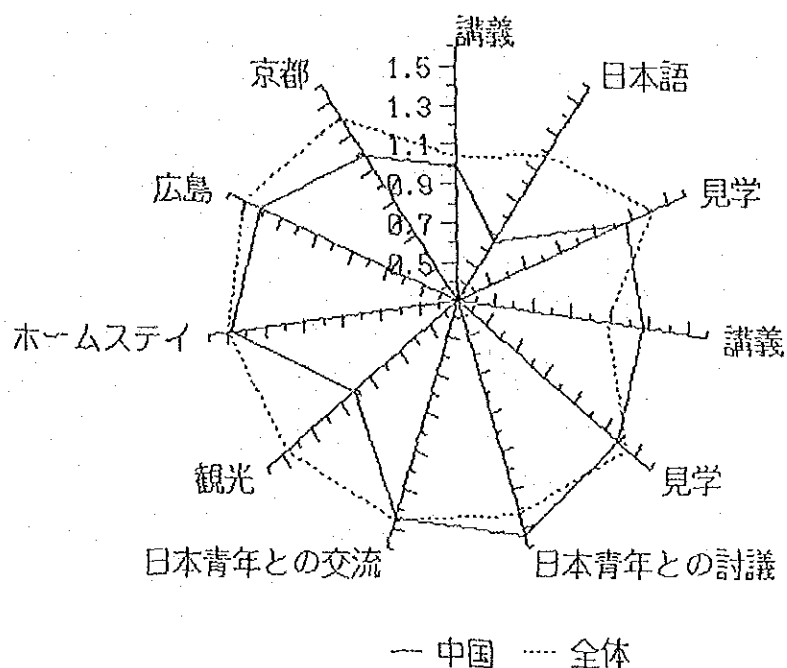
(8) 設問2：プログラム内容について

全体に日本語に対する要求が、満たされなかったと感じている。これは現地プログラムで日本語の時間を全く設けていないことが、影響していると思われる。また、分野別講義、日本青年との討議、交流に対する評価が高く、全プログラム中研修的要素に対する評価が高いことが解る。

グループ毎に見ると、勤労青年については、日本語に対する評価が低く、これは講義(英語で行った講義あり)、ホームステイの評価にも響いてコミュニケーションの問題がクローズアップされた形となった。また同グループは、見学、交流、観光への評価が比較的低く、これはこのグループがプログラムに対して高い研修的期待を抱いており、結果として研修的要素以外のプログラムには、意義を見だしにくかったためと考えられる。



プログラム内容

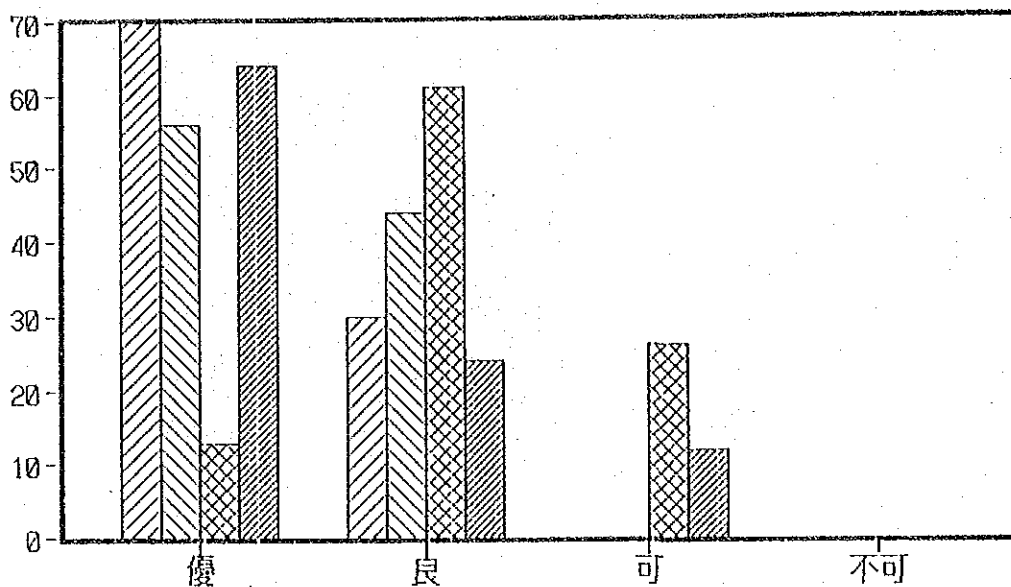


農村青年のホームステイに対する評価が高いが、これはホストファミリー一軒一軒に通訳として留学生を配置したことにより、コミュニケーションの問題が、解決されたためと考えられる。また、青年指導者は、日中青年交流センター関係のメンバーと他のメンバーの興味の食い違いから、見学、交流とも全般的評価が低くなっている。

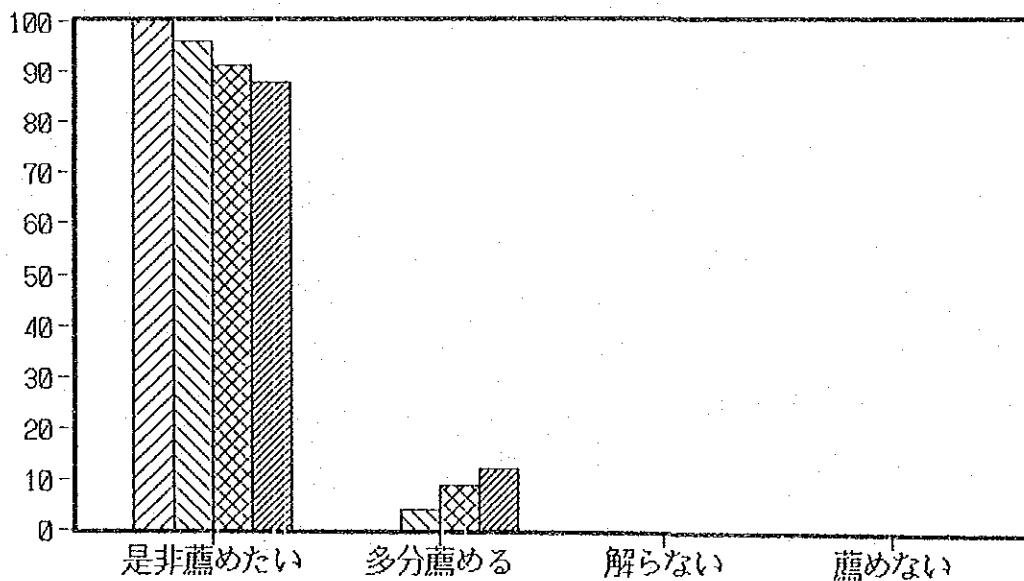
(c) 設問3：プログラム全体について

「日本での体験をどのように評価するか」を見ると、やはりグループの中で興味の分かれた青年指導者グループの評価が低い。また「良」と回答した人数がアセアン等他の諸国と比べて多く、全体に評価が厳しいともいえるが、これは良きにつけ悪きにつけ極言を避ける国民性から来ていると見れぬこともない。また、友人にこのプログラムを是非薦めるといふ人数が全体の90%を占めている。

日本での体験をどの様に評価するか
中国



友人にこのプログラムを推薦するか
中国



教員
 勤労青年
 青年指導者
 農村青年

6. 韓国

(ア) 設問1：生活について

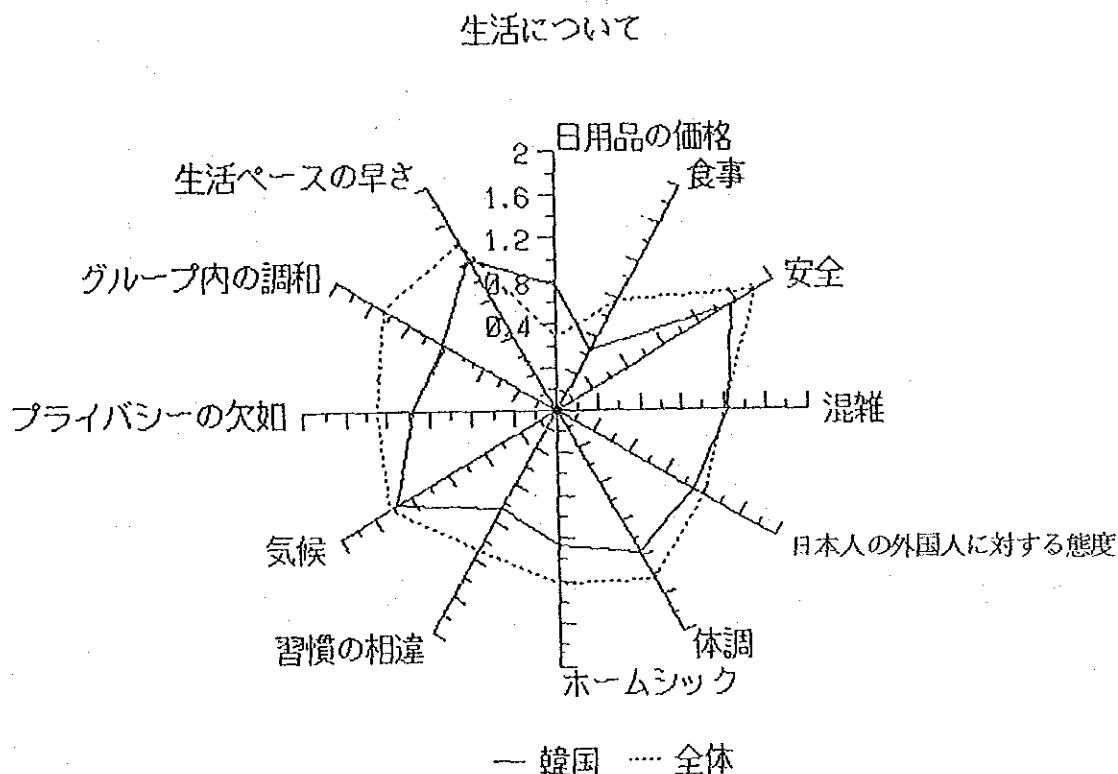
物価、気候の他は全体に値が低く困難を感じたことが察せられる。特に習慣の相違、ホームシック、食事に関し感じた困難が大きく、もともと似通った環境であるという概念を持って訪日したところが、実際異なった風習にふれると戸惑いを覚える程度も大きかったといえる。韓国青年にとっては、滞日中の毎日の生活が、深い意味での国際交流になったと思われる。

(イ) 設問2：プログラム内容について

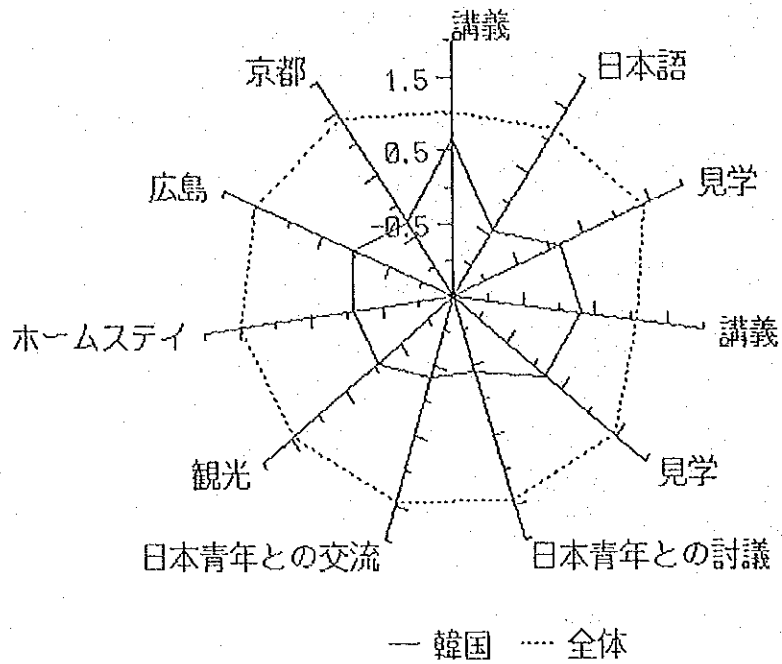
この設問に関しては、韓国語訳の関係から、全ての項目にその機会が十分であったか否かで解答している。不完全なデータではあるがこの結果から、講義が十分であると感じていること、また日本語学習、日本人青年との交流機会をより多く求めていることが解る。

(ウ) 設問3：プログラム全般について

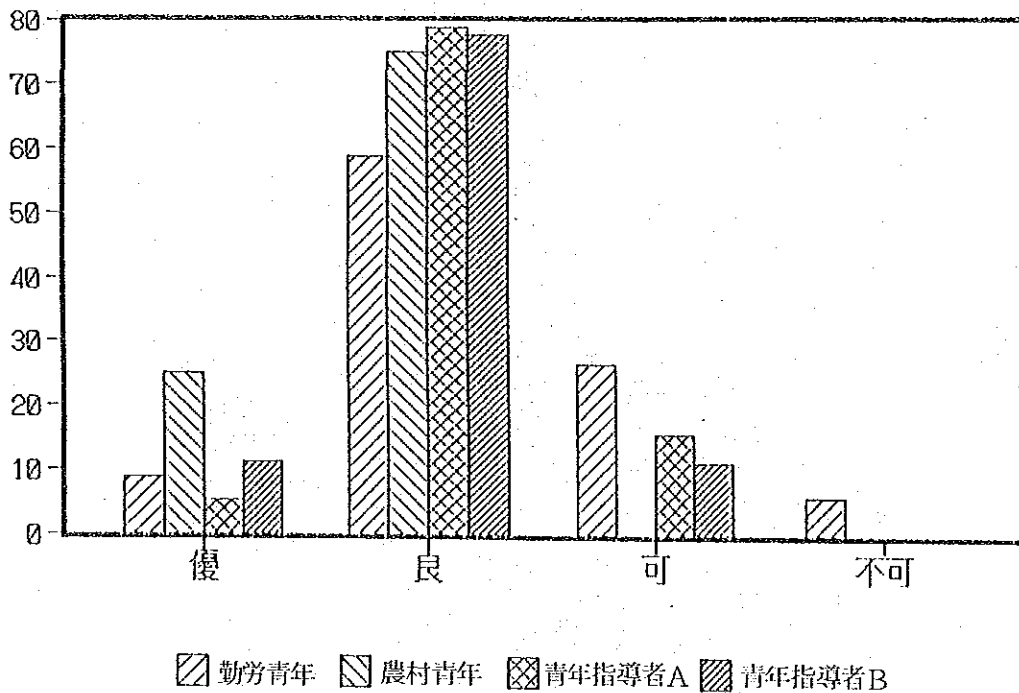
顕著な点は、農村青年以外のグループの示す値が、総て比較的厳しいことである。「日本での体験をどの様に評価するか」についていうと「可」(FAIR)または「不可」(POOR)と答えた青年が全体の20%以上に上り、アセアン等他国とは違った形のグラフを描いている。勤労青年だけを取り上げると半数弱が、滞日中の体験を低く評価している。これは、35名という大グループであったこと、またその中でも2グループに興味が分かれたことが原因と言えるであろう。



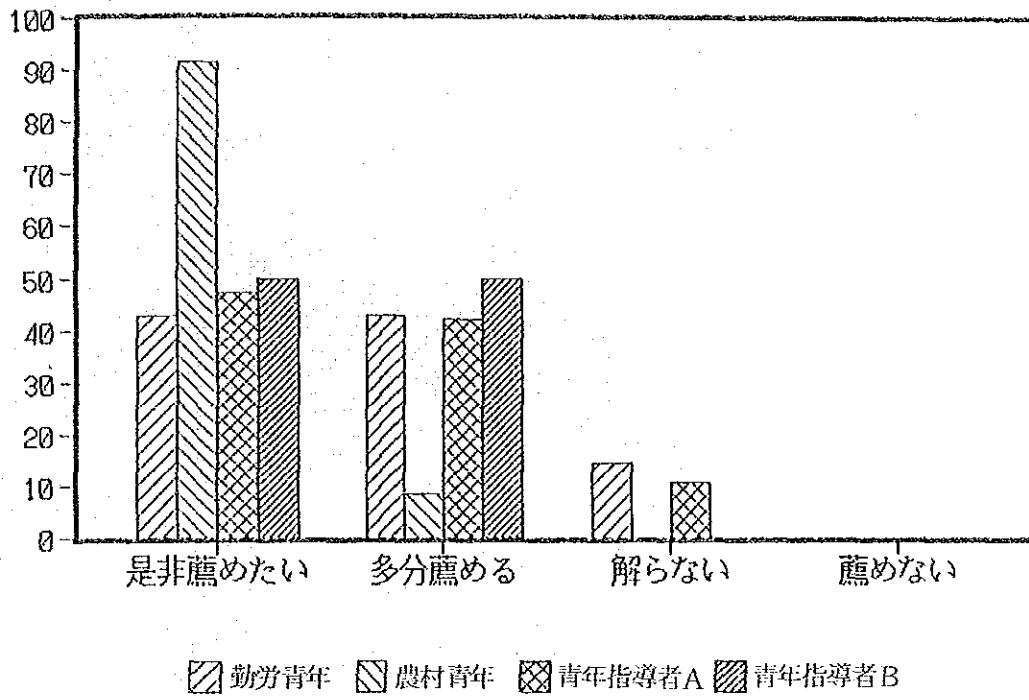
プログラム内容



日本での体験をどの様に評価するか 韓国



友人にこのプログラムを推薦するか
韓国



VI 本文参照資料

「2.1.世紀のための青少年計画」
昭和62年度基本方針と評価

年度当初の基本方針	評価
1. 招へい国の増加と規模の拡大 (1) 中国、韓国各100名の受入 (2) 国別事情の研究・プログラム検討会 (3) 受入体制の強化	(1) 中国、韓国を各100名新規で受入れた他、PNGは先方の強い要望により10名の枠を14名に拡大 (2) 新規受入の中国で3回、韓国で2回実施 (3) 日大板橋病院に医療相談顧問を依頼 ・中国受入に当り警察庁、各受入県の県警に警備を依頼
2. プログラム内容の一層の充実 (1) 専門性を生かしたプログラムの作成と運用(分野別プログラム) 1) 訪問先、見学先を吟味する 2) 政策、制度、運営方針、労使関係等の説明を充実する (2) 受入青年のグループに対応した講義内容の工夫(共通プログラム) 1) 相手国事情に関する資料の有効活用を計る 2) 質疑応答を充実させる(時間、内容を計る) (3) 合宿の運用 1) 参加青年には自国紹介のプログラムを計る。	(1) 分野別、国別の特徴にあつたプログラムづくりのため、にプログラム作成の段階で周到な打合せを行った (2) 1) 交換手帳の活用および中国・韓国プログラム検討会 (2) 2) 各講義に1時間設置(前年度は30分) (3) 1) 大体において実現

年度当初の基本方針	評価
3. コミュニケーションの向上・母国語ベースでの強化 (1) 来日青年の日本語会話練習の強化 1) ハンドブック(各国青年用)の改訂 2) 会話練習用教材の早期送付 (2) 優秀なコーディネーターの確保と研修 (3) 日本側参加者の各国語会話の修得 1) 交換手帳の充実	(1) 日本語教材『SIMPLE CONVERSATION』を改訂し、62年3月に2年分を送付した (2) コーディネーターの配属期間を延長した (3) 交換手帳の配布 ・グループによっては事前研修会で○○語講座を開いたり、教科書を配布したりした ・外語大○○語学科生の合宿参加によりコミュニケーションの円滑化が促進された
4. 日本青年のより積極的な参加 (1) 相手国事情の理解の促進 1) 国別ハンドブックの改訂(日本人用) 2) 国別事情資料VTR、16mmフィルムを活用を計る (2) 日本について知識の向上 (3) 問題意識の高揚	(1) 1) 各国別交換手帳を作成した (1) 2) 各国大使館等にあるフィルム等を活用した (2) 交換手帳(日本側の基本データを掲載)および『日本タテヨコ』を合宿参加者に配布 (3) 主に事前研修会の講義等で対応、特に韓国では外務省よりブリーフィング
5. 相互理解の輪の波及 (1) 本邦における青年交流P.R. (2) 相手国における日本理解の波及	(1) 地方紙、TVでは既にかなり報道されているが、本年は全国紙、TVでも報道されるようになった ・文部省担当官、インドネシア大使館担当官が地方プログラムに同行し、理解を広めてもらった (2) 同窓会が中心になって活躍している。特にインドネシアで大きな日本展を開いた。

暹羅時アセンター國別集計結果

	ブルネイ		インドネシア		マレーシア		フィリピン		カンボール		タイ		全体	
	S61	S62	S61	S62	S61	S62	S61	S62	S61	S62	S61	S62	S61	S62
共通プログラム	97.5	95.9	97.1	98.6	90.7	95.7	92.8	96.2	94.3	93.6	96.4	94.2	95.2	95.7
	90.0	100.0	97.1	98.6	95.7	100.0	96.4	97.2	97.9	94.3	97.1	98.6	96.6	98.1
	100.0	100.0	98.6	95.7	97.8	99.3	99.3	100.0	99.3	99.3	99.3	99.3	99.3	98.9
分野別プログラム	95.0	100.0	97.1	100.0	92.1	95.6	93.5	96.1	94.3	95.7	100.0	95.7	95.4	97.2
	100.0	100.0	100.0	97.1	96.4	99.3	99.3	98.5	98.6	100.0	97.9	97.8	98.4	98.8
	97.5	100.0	97.9	98.6	96.4	99.3	97.8	97.7	100.0	97.2	100.0	98.6	98.3	98.5
日本青年との討論	97.4	100.0	97.9	100.0	99.3	100.0	99.3	100.0	100.0	97.2	100.0	97.8	99.1	99.2
	100.0	100.0	99.3	98.7	97.9	99.3	99.3	100.0	99.3	97.8	97.9	99.3	98.8	99.2
	100.0	100.0	99.3	99.3	98.6	97.8	98.6	96.8	100.0	94.4	100.0	99.3	99.0	97.9
ホームステイ	97.1	100.0	98.6	97.1	99.3	99.3	100.0	99.2	100.0	96.4	100.0	97.8	99.3	98.3
	97.5	100.0	99.3	100.0	95.7	100.0	100.0	100.0	100.0	97.8	99.3	97.9	98.8	99.3
	97.5	100.0	99.3	100.0	95.7	100.0	100.0	100.0	100.0	97.8	99.3	97.9	98.8	99.3

「21世紀のための友情計画」(青年招へい事業)
各園別受入実績(昭和59年度～62年度)

国名	分野名	昭和59年度		昭和60年度		昭和61年度		昭和62年度		合計	
		計函数	受入実績	計函数	受入実績	計函数	受入実績	計函数	受入実績	計函数	受入実績
ブルネイ	アセアン混成	5	5	10	10	10	9	10	10	35	34
	教員・学生	0	0	10	10	20	20	20	20	50	50
	青年指導者	0	0	10	10	10	10	10	10	30	30
	公務員	0	0	0	0	10	10	10	10	20	20
	小計	5	5	30	30	50	49	50	50	135	134
インドネシア	アセアン混成	5	5	10	10	10	9	10	9	35	33
	公務員	0	0	20	17	20	19	20	20	60	56
	青年指導者	24	24	25	24	25	23	25	23	99	94
	農村青年	24	26	25	24	25	27	25	23	99	100
	教員	24	22	25	21	25	26	25	25	99	94
	学生	24	23	25	25	25	25	25	25	99	98
	勤労青年	48	49	20	29	20	21	20	25	108	124
	小計	149	149	150	150	150	150	150	150	599	599
マレーシア	アセアン混成	5	5	10	10	10	10	10	10	35	35
	農村青年	29	27	25	25	20	20	20	20	94	92
	勤労青年	18	18	18	19	20	20	20	20	76	77
	教員	30	30	30	25	25	25	25	25	110	105
	学生	20	20	25	20	25	25	25	25	95	90
	青年指導者	30	30	25	25	25	25	25	25	105	105
	公務員	17	17	17	19	25	25	25	25	84	86
	スポーツ選手	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5
	小計	149	147	150	148	150	150	150	150	599	595
フィリピン	アセアン混成	5	5	10	10	10	10	10	10	35	35
	教員	24	16	24	20	25	25	25	24	98	85
	学生	48	61	45	47	45	47	45	45	183	200
	勤労青年	24	23	24	27	25	22	25	25	98	97
	農村青年	24	20	22	21	20	20	20	21	86	82
	青年指導者	24	24	25	25	25	26	25	25	99	100
	小計	149	149	150	150	150	150	150	150	599	599
シンガポール	アセアン混成	5	4	10	10	10	10	10	9	35	33
	教員	30	30	26	26	25	25	25	25	106	106
	学生	12	12	20	20	20	20	20	20	72	72
	公務員	57	56	48	48	46	46	48	49	201	199
	青年指導者	20	22	23	23	23	22	23	23	89	90
	勤労青年	25	25	23	23	24	27	24	24	96	99
	小計	149	149	150	150	150	150	150	150	599	599
タイ	アセアン混成	5	5	10	10	10	10	10	10	35	35
	学生	38	38	50	50	50	50	48	48	186	186
	勤労青年	38	38	30	30	30	30	23	23	121	121
	農村青年	38	38	30	30	30	30	23	23	121	121
	青年指導者	30	30	30	30	30	30	46	46	136	136
小計	149	149	150	150	150	150	150	150	599	599	
ビルマ	青年指導者	0	0	0	0	10	10	10	10	20	20
フィジー	公務員	0	0	0	0	10	10	10	10	20	20
P N G	教員	0	0	0	0	10	10	10	14	20	24
中国	教員	0	0	0	0	0	0	25	25	25	25
	農村青年	0	0	0	0	0	0	25	25	25	25
	勤労青年	0	0	0	0	0	0	25	28	25	28
	青年指導者	0	0	0	0	0	0	25	22	25	22
小計	0	0	0	0	0	0	100	100	100	100	
韓国	勤労青年	0	0	0	0	0	0	30	35	30	35
	農村青年	0	0	0	0	0	0	30	25	30	25
	青年指導者	0	0	0	0	0	0	40	40	40	40
小計	0	0	0	0	0	0	100	100	100	100	
合計		750	748	780	778	830	829	1030	1034	3390	3389

昭和62年度青年招へい事業 受入実績表

国名	分野名	年間計画数	受入実績									小計	執行率(%)	
			1陣 5/10~ 6/9	2陣 5/31~ 6/30	3陣 6/21~ 7/21	4陣 7/5~ 8/4	5陣 8/23~ 9/22	6陣 9/8~ 10/6	7陣 9/27~ 10/27	8陣 10/18~ 11/17	9陣 11/8~ 12/8			
ブルネイ	アゼオン混成(I)	5		5									5	
	アゼオン混成(II)	5		20				5					5	
	アゼオン混成(III)	10					10						10	
	小計	50		25				25					50	100
インドネシア	アゼオン混成(I)	5		5									5	
	アゼオン混成(II)	20		20				4					20	
	アゼオン混成(III)	5											5	
	アゼオン混成(IV)	5											5	
	アゼオン混成(V)	5											5	
	アゼオン混成(VI)	5											5	
	小計	150		50				4					150	100
マレーシア	アゼオン混成(I)	5		5									5	
	アゼオン混成(II)	20		20				5					20	
	アゼオン混成(III)	5											5	
	アゼオン混成(IV)	5											5	
	アゼオン混成(V)	5											5	
	アゼオン混成(VI)	5											5	
	小計	150		50				50					150	100
フィリピン	アゼオン混成(I)	4											4	
	アゼオン混成(II)	5		5									5	
	アゼオン混成(III)	20											20	
	アゼオン混成(IV)	2											2	
	アゼオン混成(V)	5											5	
	アゼオン混成(VI)	5											5	
	小計	150		69				5					150	100

国名	分野名	年間 計画数	受入実績									小計 (人数)	執行率 (%)		
			1陣 5/10 ~ 6/9	2陣 5/31 ~ 6/30	3陣 8/21 ~ 7/21	4陣 7/5 ~ 8/4	5陣 8/23 ~ 9/22	6陣 9/6 ~ 10/6	7陣 9/27 ~ 10/27	8陣 10/18 ~ 11/17	9陣 11/8 ~ 12/8				
シンガポール	公務員(Ⅰ) 青年指導者	4	2											2	
	公務員(Ⅱ) 学生	3	2											2	
	学生 学生	5	0	5										5	
	公務員(Ⅰ) 公務員(Ⅱ) 青年	5	5											5	
	公務員(Ⅰ) 公務員(Ⅱ) 青年	4	4											4	
	小計	15	4	5	5	4	5	4	5	5	4	5	15	100	
タイ	(科学系) 学生A	2	2											2	
	学生B	3												3	
	学生A 青年指導者	3		5	2									5	
	青年指導者 青年 農村青年	3			2									2	
	農村青年 農村青年	3												3	
	小計	15	4	5	4	5	4	5	5	4	5	5	15	100	
ブルマ	青年指導者	1								1				1	100
フィジー	公務員	1								1				1	100
PNG	教員	1								1				1	140
中国	教員 青年 農村青年 青年指導者	2												2	
	青年 農村青年 青年指導者	5												5	
	青年 農村青年 青年指導者	5												5	
	青年 農村青年 青年指導者	5												5	
	小計	10												10	100
韓国	公務員	1													
	青年指導者	3												3	
	青年 農村青年 青年指導者	5												5	
	青年 農村青年 青年指導者	5												5	
	小計	10												10	100
合計	小計	103	163	45	140	92	139	155	100	100	100	100	103	100.4	

(註) 中国勤務青年グループには、総団長、副総団長、総秘書長の3人が含まれる

至徳カレッジ国際体育大会プログラムプログラムの実施状況

団体名 / 国名	アゼアン紀成	ブルネイ	インドネシア	マレーシア	フィリピン	シンガポール	タイ	ビルマ	マフィ	P N G	中 国	韓 国	日 本
青少年育英国民会議	59 公務 福島29			青指 佐賀25									
	60 公務 福岡30			青指 鹿児島35									
	61 公務 徳島28												
	62 公務 九州30												公務 高知10
次青少年団体連絡協議会	59 公務 福岡28												公務 高知10
	60 公務 九州30												公務 高知10
	61 公務 徳島28												
	62 公務 九州30												
世界青少年交流協会	59 公務 福岡28												
	60 公務 九州30												
	61 公務 徳島28												
	62 公務 九州30												
	59 公務 福岡28												
	60 公務 九州30												
	61 公務 徳島28												
	62 公務 九州30												
日本国教生生活体験協会	59 公務 福岡28												
	60 公務 九州30												
	61 公務 徳島28												
	62 公務 九州30												
	59 公務 福岡28												
	60 公務 九州30												
	61 公務 徳島28												
	62 公務 九州30												
全国農村青少年教育振興会等	59 公務 福岡28												
	60 公務 九州30												
	61 公務 徳島28												
	62 公務 九州30												

団体名 / 国名	アセアン地区	イラン	インドネシア	マレーシア	フィリピン	シンガポール	タイ	イギリス	アメリカ	P	N	C	中	民	校	時
勤労学生協会	59		インドネシア 勤労 藤田22 勤労 藤田27													
	60		インドネシア 勤労 藤田29													
	61		インドネシア 勤労 藤田19 勤労 藤田21													
	62		インドネシア 勤労 藤田20 勤労 藤田25													
日本経済青年協議会	59		マレーシア 青指 伊藤24	マレーシア 勤労 藤田18 勤労 藤田17	フィリピン 勤労 藤田23*2	シンガポール 勤労 大阪38	タイ 勤労 大阪30	イギリス 勤労 新田30	アメリカ 勤労 伊藤23							
	60			マレーシア 勤労 藤田18	フィリピン 勤労 三立27	シンガポール 勤労 藤田22	タイ 勤労 藤田30	イギリス 勤労 新田30	アメリカ 勤労 伊藤23							
	61			マレーシア 勤労 藤田20	フィリピン 勤労 兵衛22	シンガポール 勤労 藤田22	タイ 勤労 藤田30	イギリス 勤労 新田30	アメリカ 勤労 伊藤23							
	62			マレーシア 勤労 藤田20	フィリピン 勤労 千葉25	シンガポール 勤労 藤田25	タイ 勤労 藤田23	イギリス 勤労 伊藤23	アメリカ 勤労 伊藤23					青指 藤田22		
ニューズワーカー 能力開発協会*4	59					シンガポール 勤労 宮崎23										
	60					シンガポール 勤労 宮崎23										
	61					シンガポール 勤労 宮崎27										
	62					シンガポール 勤労 宮崎27										
国際交流サービス協会	59		イラン 教員 橋本22			シンガポール 教員 山崎30 教員 山崎28 教員 山崎27										
	60		イラン 教員 橋本10			シンガポール 教員 山崎21 教員 山崎24 教員 山崎24										
	61		イラン 教員 橋本10 教員 長崎20			シンガポール 教員 山崎25 教員 山崎24								教員 茨城10		
	62		イラン 教員 橋本10 教員 長崎20			シンガポール 教員 山崎25 教員 山崎24								教員 島根14 教員 長崎25	青指 福岡20	
青年海外協力協会*4	59						タイ 青指 藤本30									
	60						タイ 青指 藤本30									
	61						タイ 青指 藤本30									
	62						タイ 青指 藤本30									

*1 59年度は国際協力協会、*2 今般多アムニク協会、*3 59年度は青年海外協力隊OB会、*4 81年度は協会の名称、それ以前は勤労学生青年海外協力隊OB会

昭和62年度青年招へい事業招へい青年の内訳1(年齢、性別)(表1)

国名	分野名	人数	年齢	男性		女性		女性の割合(%)
				人数	年齢	人数	年齢	
ブルネイ	アセアン混成	10	28.9	7	29.4	3	27.7	30
	アセアン指導者	20	25.3	11	27.6	9	22.3	45
	アセアン青年	10	31.5	8	32.0	2	29.5	20
	公務員	10	29.2	9	28.9	1	32.0	10
	小計	50	28.0	35	29.3	15	25.0	30
インドネシア	アセアン混成	9	31.0	4	32.0	5	30.2	56
	アセアン指導者	20	30.6	14	29.9	6	32.1	30
	アセアン青年	23	26.7	13	29.5	10	23.7	43
	公務員	23	27.3	15	28.0	8	25.9	35
	勤労青年	25	29.7	14	29.8	11	29.6	44
	指導者	25	23.5	9	24.6	16	22.9	64
	小計	150	27.7	86	28.6	64	28.1	32
マレーシア	アセアン混成	10	30.3	8	30.1	2	31.0	20
	アセアン青年	20	30.9	18	31.1	2	29.5	10
	アセアン指導者	20	28.5	13	28.9	7	27.9	35
	公務員	25	31.0	17	31.2	8	30.6	32
	勤労青年	25	23.1	19	23.1	6	23.2	24
	指導者	25	29.7	20	30.4	5	27.0	20
	小計	150	28.8	116	28.9	34	30.8	16
フィリピン	アセアン混成	10	26.9	5	27.6	5	26.2	50
	アセアン青年	24	29.5	7	29.3	17	29.6	71
	アセアン指導者	45	22.5	25	22.7	20	22.2	44
	公務員	25	27.3	13	28.7	12	25.8	48
	勤労青年	21	27.8	15	28.1	6	26.8	29
	小計	25	25.4	15	24.3	10	27.0	40
シンガポール	アセアン混成	9	25.4	4	25.0	5	25.8	56
	アセアン青年	25	30.5	10	29.9	15	30.9	60
	アセアン指導者	20	23.6	12	24.2	8	22.6	40
	公務員	49	27.6	24	28.5	25	26.7	51
	勤労青年	23	28.2	15	29.1	8	26.4	35
	小計	24	29.5	14	30.0	10	28.7	42
タイ	アセアン混成	10	27.2	2	28.0	8	27.0	80
	アセアン青年	48	22.7	27	22.7	21	22.7	44
	アセアン指導者	23	23.4	21	23.4	2	23.0	9
	公務員	23	23.7	15	23.9	8	23.4	35
	小計	46	25.5	25	26.0	21	24.9	46
ビルマ	青年指導者	10	33.3	6	37.3	4	27.3	40
フィジー	公務員	10	33.1	6	33.8	4	32.0	40
P N G	教員	14	32.4	12	34.0	2	23.0	14
中国	アセアン混成	25	30.2	22	30.0	3	31.7	12
	アセアン青年	25	29.7	23	30.0	2	26.5	8
	アセアン指導者	28	32.8	27	32.9	1	31.0	4
	小計	22	32.1	17	31.7	5	33.6	23
韓国	アセアン混成	35	23.3	27	24.2	8	20.4	23
	アセアン青年	25	22.8	13	25.7	12	19.6	48
	アセアン指導者A	20	28.7	17	29.3	3	25.3	15
	アセアン指導者B	20	36.3	19	36.3	1	35.0	5
	小計	100	26.8	76	28.6	24	21.1	24
合計(人)		1034	27.5	675	28.3	359	26.1	35

昭和62年度青年招へい事業招へい青年の内訳2(職種) (表2)

国名	分野名	人数	公務員	民間	記者	学生	教員	自営	その他
ブルネイ	アセアン混成	10	10						
	教員・学生	20				15	5		
	青年指導者	10	9	1					
	公務員	10	9	1					
	小計	50	28	2		15	5		
インドネシア	アセアン混成	9	9						
	公務員	20	20						
	青年指導者	23		13	1	9			11
	農村青年	23	7	3	1	1			
	教員	25					25		
	学生	25					25		
	勤労青年	25	3	21	1				
	小計	150	39	37	3	35	25		11
マレーシア	アセアン混成	10	10						
	農村青年	20	20						
	勤労青年	20	11	6	1			1	1
	教員	25	6				17		
	学生	25		2		22			1
	青年指導者	25	17	1	1		2	3	1
	公務員	25	25						
	小計	150	89	9	2	24	19	4	3
フィリピン	アセアン混成	10	10						
	教員	24					24		
	学生	45				45			
	勤労青年	25	8	17					
	農村青年	21	5	8			1	7	
	青年指導者	25	5	4		13	3		
	小計	150	28	29		58	28	7	
シンガポール	アセアン混成	9	9						
	教員	25	2				23		
	学生	20				14	6		
	公務員	49	49						
	青年指導者	23	20	1			1	1	
	勤労青年	24	8	12					4
	小計	150	88	13		14	30	1	4
タイ	アセアン混成	10	9				1		
	学生	48	9		1	37		1	
	勤労青年	23	5	10		8			
	農村青年	23	4	1				18	
	青年指導者	46	13	8	1	11	9	4	
	小計	150	40	19	2	56	10	23	
ビルマ	青年指導者	10	6			2		2	
フィジー	公務員	10	10						
P N G	教員	14			3		11		
中国	教員	25	12				13		
	農村青年	25	22					3	
	勤労青年	28	19	9					
	青年指導者	22	21	1					
	小計	100	74	10			13	3	
韓国	勤労青年	35	6	17		6	6		
	農村青年	25	2	5				18	
	青年指導者A	20			1			1	18
	青年指導者B	20	16	2			1		1
	小計	100	24	24	1	6	7	19	19
合計	(人)	1034	426	143	11	210	148	59	37
	(%)	100	41	14	1	20	14	6	4

昭和62年度青年招へい事業招へい青年の内訳3(学歴1) (表3)

国名	分野名	人数	A	B	C	D	E
ブルネイ	アセアン混成	10		7	3		
	教員	20		12	8		
	青年指導者	10	2	2	3	3	
	公務員	10		7	3		
	小計	50	2	28	17	3	
インドネシア	アセアン混成	9	2	6	1		
	公務員	20		12	7		1
	青年指導者	23		18	4		1
	農村青年	23	1	13	1		8
	教員	25	2	14	9		
	学生	25		25			
	勤労青年	25	3	12	6		4
小計	150	8	100	28	14		
マレーシア	アセアン混成	10	1	9			
	農村青年	20	2	9	7		2
	勤労青年	20		7	13		
	教員	25	5	11	9		
	学生	25	4	17	4		
	青年指導者	25		7	2		16
	公務員	25		14	11		
小計	150	12	74	46	18		
フィリピン	アセアン混成	10	3	7			
	教員	24	19	5			
	学生	45	27	18			
	勤労青年	25	1	22	2		
	農村青年	21	8	13			
	青年指導者	25	9	13	3		
小計	150	67	78	5			
シンガポール	アセアン混成	9		8	1		
	教員	25		25			
	学生	20		18	2		
	公務員	49	1	48			
	青年指導者	23		11	3	6	3
	勤労青年	24		12	8	4	
小計	150	1	122	14	10	3	
タイ	アセアン混成	10	2	8			
	学生	48	5	36	7		
	勤労青年	23		6	14	2	1
	農村青年	23	2	2	6		13
	青年指導者	46	5	30	10	1	
小計	150	14	82	37	3	14	
ビルマ	青年指導者	10	1	5	2	2	
フィジー	公務員	10		4	6		
P N G	教員	14		5	9		
中国	教員	25	1	8	16		
	農村青年	25	1	9	10	4	1
	勤労青年	28	1	14	12	1	
	青年指導者	22		16	5		1
小計	100	3	47	43	5	2	
韓国	勤労青年	35	2	7	8	16	2
	農村青年	25		4		15	6
	青年指導者A	20	1	18	1		
	青年指導者B	20	6	9		5	
小計	100	9	38	9	36	8	
合計	(人)	1034	117	583	316	91	27
	(%)	100	11	56	21	9	3

昭和62年度青年招へい事業招へい青年の内訳(学歴2)(表4)
 男女別学歴・学歴別平均年齢

学歴	人 数			平 均 年 齢		
	男 性	女 性	計	男 性	女 性	計
A	67	50	117	29.0	26.7	28.0
B	365	218	583	28.3	26.4	27.6
C	166	50	216	28.4	26.2	27.9
D	60	31	91	28.2	24.5	26.9
E	17	10	27	24.6	22.3	23.7

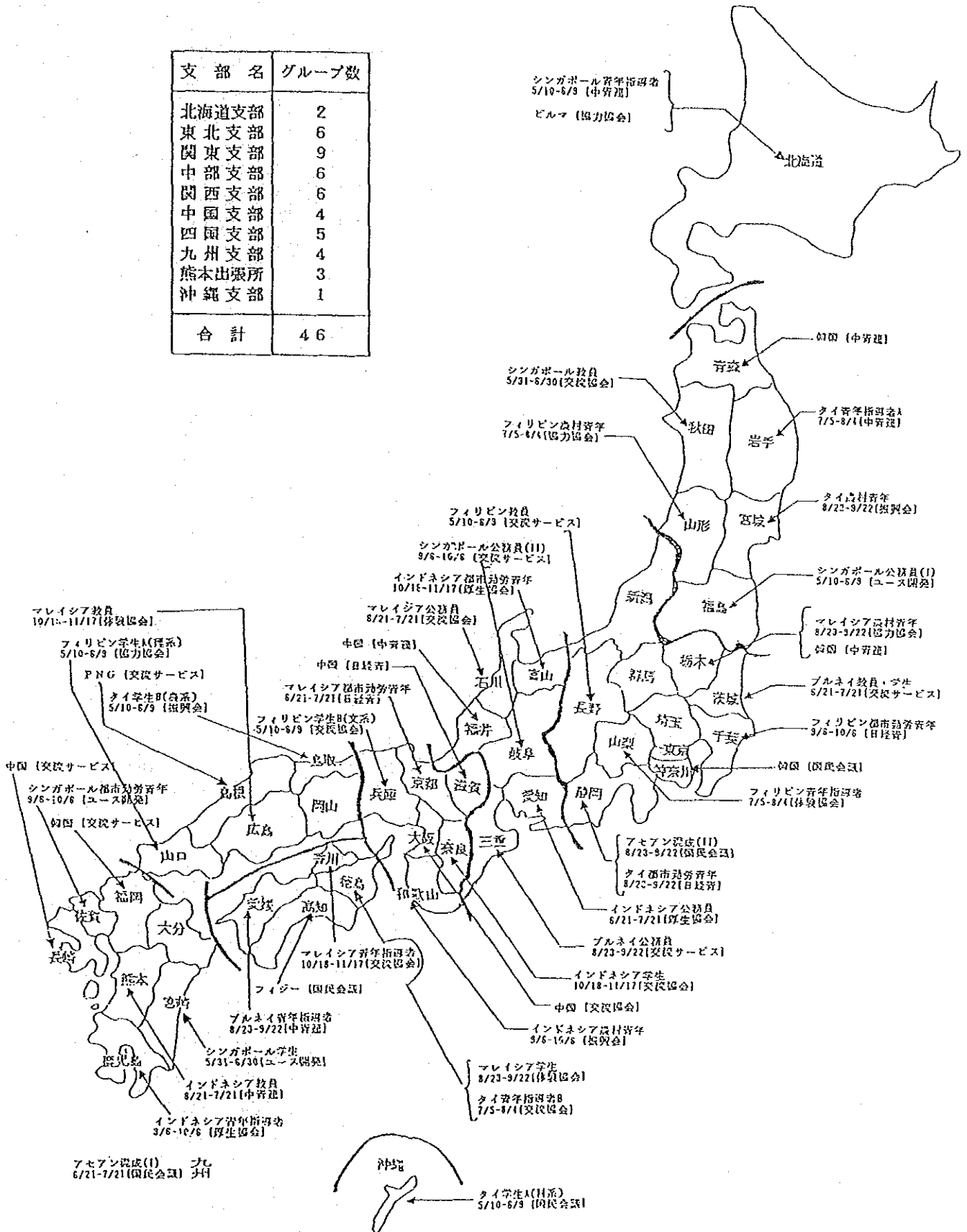
- A : 修士，博士過程終了または在学中
 B : 大学卒(学士)または在学中
 C : 専門学校，短大，教員養成大学卒または在学中
 D : 高校卒または在学中
 E : 中学卒

職別平均年齢および学歴(学歴3)(表5)

職	年 齢	人 数	大学在学・卒業者の割合
公務員	29.9	429	69%
民間	27.2	145	55%
記者	27.4	11	64%
学生	22.3	210	79%
教員	30.0	149	74%
自営	24.0	62	29%
その他	28.4	28	79%

21世紀のための友情計画
昭和62年度青年招へい事業—地方実施県一覧表

支部名	グループ数
北海道支部	2
東北支部	6
関東支部	9
中部支部	6
関西支部	6
中国支部	4
四国支部	5
九州支部	4
熊本出張所	3
沖縄支部	1
合計	46



地域区分別プログラム実施計画表

支部名	県名	59年度実施プログラム名	60年度実施プログラム名	61年度実施プログラム名	62年度実施プログラム名
北海道支部	北海道	中寄連 マレイシア 学生 20名 (1班)	中寄連 タ イ 学生A 30名 (1班)	交流協 インドネシア 若指 23名 (4班) 協力協 フィリピン 農村 20名 (6班)	中寄連 シンガポール 若指 23名 (1班) 協力協 ボルネオ 若指 10名 (6班)
東北支部	青森	中寄連 シンガポール 学生 12名 (3班)	交流協 インドネシア 若指 24名 (4班)	中寄連 インドネシア 学生 25名 (5班)	中寄連 韓国 農村 25名 (9班)
	秋田	交流協 マレイシア 教員 16名 (1班)	中寄連 インドネシア 農村 24名 (4班)	交流協 アセアン親戚 プルネイ 学生 30名 (4班)	交流協 シンガポール 農村 25名 (2班)
	岩手	中寄連 インドネシア 農村 26名 (8班)	中寄連 フィリピン 学生A 19名 (1班)	協力協 プルネイ 若指 10名 (6班)	中寄連 タイ 若指A 23名 (4班)
	山形	中寄連 マレイシア 若指 30名 (4班)	協力協 アセアン親戚 公新 30名 (4班)	中寄連 タ イ 学生B 20名 (1班)	協力協 フィリピン 農村 21名 (4班)
関東支部	宮城	国民議 アセアン親戚 公新 29名 (1班)	国民議 アセアン親戚 公新 30名 (4班)	中寄連 シンガポール 公新 22名 (3班)	国民議 シンガポール 公新 23名 (1班)
	福島	農林実 マレイシア 農村 20名 (6班)	体協協 フィリピン 若指 25名 (3班)	日経青 タ イ 勤労 30名 (4班)	協力協 韓国 農村 20名 (5班)
	新潟	交流サ インドネシア 教員 22名 (4班)	協力協 マレイシア 農村 30名 (6班)	日経青 マレイシア 勤労 20名 (3班)	協力協 韓国 農村 20名 (5班)
	栃木	農林実 マレイシア 農村 27名 (8班)	厚生協 インドネシア 勤労 29名 (7班)	厚生協 インドネシア 勤労 21名 (8班)	協力協 韓国 農村 20名 (5班)
	群馬	日経青 マレイシア 勤労 18名 (1班)	交流サ シンガポール 教員 26名 (2班)	交流サ P N G 教員 10名 (7班)	交流サ プルネイ 教員 20名 (3班)
	長野	日経青 インドネシア 若指 24名 (3班)	日経青 マレイシア 勤労 19名 (4班)	交流サ フィリピン 教員 25名 (1班)	交流サ フィリピン 教員 24名 (1班)
	千葉	交流サ シンガポール 教員 30名 (3班)	国民議 マレイシア 農村 21名 (3班)	交流サ フィリピン 教員 25名 (1班)	日経青 フィリピン 勤労 25名 (6班)
	東京	日経青 マレイシア 公新 17名 (1班)	(含宿セミナープログラムを実施)	(含宿セミナープログラムを実施)	国民議 韓国 勤労 35名 (9班)
	神奈川	日経青 インドネシア 若指 24名 (3班)	(含宿セミナープログラムを実施)	(含宿セミナープログラムを実施)	体協協 フィリピン 若指 25名 (4班)
	静岡	日経青 フィリピン 勤労 23名 (1班)	交流サ マレイシア 学生 20名 (2班)	体協協 フィリピン 若指 26名 (6班)	国民議 アセアン親戚 公新 28名 (5班)
中部支部	富山	交流協 シンガポール 学生 29名 (4班)	交流協 シンガポール 学生 20名 (2班)	体協協 フィリピン 若指 26名 (6班)	厚生協 インドネシア 勤労 25名 (8班)
	石川	交流協 シンガポール 若指 22名 (8班)	(窓口の問題で不可)	国民議 シンガポール 農村 27名 (5班)	交流協 マレイシア 公新 25名 (3班)
	福井	厚生協 インドネシア 勤労 22名 (3班)	厚生協 インドネシア 公新 17名 (4班)	国民議 アセアン親戚 公新 28名 (5班)	中寄連 韓国 農村 25名 (7班)
	岐阜			交流サ シンガポール 公新 24名 (5班)	交流サ シンガポール 公新 26名 (6班)
	愛知			日経青 フィリピン 勤労 27名 (5班)	厚生協 インドネシア 公新 20名 (3班)
三重				交流サ プルネイ 公新 10名 (5班)	

支部名	員名	59年度実施プログラム名	60年度実施プログラム名	61年度実施プログラム名	62年度実施プログラム名
関西支部	滋賀	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協
	京都	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協
	兵庫	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協
	奈良	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協
神戸支部	大阪	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協
	和歌山	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協
	鳥取	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協
	岡山	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協
四国支部	徳島	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協
	香川	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協
	高松	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協
	高知	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協
九州支部	福岡	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協
	佐賀	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協
	熊本	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協
	鹿児島	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協	日生協 OB会 体協協 交流協
合計		748名 (タイ選手を2グループに分けた為)	778名 (5名のスポーツ選手を含む)	829名 (新規員3、ブルネイで1グループ増)	1034名 (新規員2、タイで1グループ増)

(注) 日生協、OB会、体協協、交流協は長野、静岡両県で実施

都道府県の窓口

	研修員受入の窓口	JOCVの窓口	移住の窓口	国際交流・青年招へいの窓口
北海道	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
青森県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
岩手県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
秋田県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
山形県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
福島県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
茨城県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
栃木県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
群馬県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
埼玉県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
千葉県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
東京都	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
神奈川県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
新潟県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
富山県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
石川県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
福井県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
岐阜県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
静岡県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
愛知県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
三重県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
滋賀県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
京都府	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
大阪府	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
兵庫県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
奈良県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
和歌山県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
鳥取県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
徳島県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
香川県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
愛媛県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
高知県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
福岡県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
佐賀県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
長門県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
熊本県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
大分県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
宮崎県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
鹿児島県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)
沖縄県	総務部 知事室 国際交流課	(同左)	(同左)	(同左)

招へい青年の意見 (JICAコーディネーターの報告書より)

ブルネイ

講義	*講義が工全講義社寺半島りし *誰か全講義社寺半島りし *講義が工全講義社寺半島りし	の内容が複雑で難し を選んで欲しい は偏りすぎ は経済を 師義も はの はなかつたのは内容を複雑で難し はなかつたのは内容を複雑で難し
見学	*神おじ広よ欲 *神おじ広よ欲 *神おじ広よ欲	か迷ったので片目をと 滞在をもっと長くして か迷ったので片目をと 滞在をもっと長くして
食事	*出日都ホ *出日都ホ *出日都ホ	驚いた 驚いた 驚いた
日本青年ホームステイ	*日都会一本ら日他生通 *日都会一本ら日他生通 *日都会一本ら日他生通	望む非常に疲れた 望む非常に疲れた
全体	*日都会一本ら日他生通 *日都会一本ら日他生通 *日都会一本ら日他生通	非常に疲れた 非常に疲れた
その他	*日都会一本ら日他生通 *日都会一本ら日他生通 *日都会一本ら日他生通	残念だった 残念だった
現地プログラム	*日都会一本ら日他生通 *日都会一本ら日他生通 *日都会一本ら日他生通	2度目は僅か2日間 2度目は僅か2日間

インドネシア

講義	一講義員 部のにの講義を望む 講義員 部のにの講義を望む 通日質大 部のにの講義を望む 日質大 部のにの講義を望む 日質大 部のにの講義を望む
見学	大 部のにの講義を望む 見学 部のにの講義を望む 神 部のにの講義を望む 小 部のにの講義を望む
表敬訪問	日 部のにの講義を望む 青年 部のにの講義を望む 本 部のにの講義を望む
ホームステイ	男 部のにの講義を望む 水 部のにの講義を望む 白 部のにの講義を望む
全体	ホ 部のにの講義を望む 水 部のにの講義を望む 白 部のにの講義を望む
その他	農 部のにの講義を望む 日 部のにの講義を望む 農 部のにの講義を望む 日 部のにの講義を望む 農 部のにの講義を望む
現地プログラム	通 部のにの講義を望む 宿 部のにの講義を望む 日 部のにの講義を望む 本 部のにの講義を望む 日 部のにの講義を望む

マレーシア

講義	通訳質疑大見富観神一予日英合日日御キホホ事各ホ地マ文1デ打2日J2料日高日	で講義して欲しい (学生)
見学	大見富観神一予日英合日日御キホホ事各ホ地マ文1デ打2日J2料日高日	準備が大変だった
表敬訪問	大見富観神一予日英合日日御キホホ事各ホ地マ文1デ打2日J2料日高日	大変だった
食事青年	大見富観神一予日英合日日御キホホ事各ホ地マ文1デ打2日J2料日高日	大変だった
ホームステイ	大見富観神一予日英合日日御キホホ事各ホ地マ文1デ打2日J2料日高日	大変だった
全体	大見富観神一予日英合日日御キホホ事各ホ地マ文1デ打2日J2料日高日	大変だった
その他	大見富観神一予日英合日日御キホホ事各ホ地マ文1デ打2日J2料日高日	大変だった
現地プログラム	大見富観神一予日英合日日御キホホ事各ホ地マ文1デ打2日J2料日高日	大変だった

フィリピン

講義	<p>*講義講師も共々実演 *講義講師も共々実演 *講義講師も共々実演</p> <p>を計を講が歴ッ容っの目的。で口光講は備した しにし義よ史トとた目た心ブ親の時準ぎ を義話話方はたレ内かてかの中もて教の時に過 る流講、なムたいフのなしし化ならは不の洋 ぎ交た夕的うれづントれ閑案文ラ滅詣がシ西 すもっ一般グ入基バツらに交本一を参長ヨが 多り添テ一口をにるレ見学大日二学の市シ礼 がよにはとブン活れフを見ははズ見へ、ブ儀 義義題師っ通ヨ生さン部修光都イ場社事七交を *講義講師も共々実演 *講義講師も共々実演 *講義講師も共々実演</p>
見学	<p>*内研観京デ工寺知レ外の *内研観京デ工寺知レ外の *内研観京デ工寺知レ外の</p> <p>を計を講が歴ッ容っの目的。で口光講は備した しにし義よ史トとた目た心ブ親の時準ぎ を義話話方はたレ内かてかの中もて教の時に過 る流講、なムたいフのなしし化ならは不の洋 ぎ交た夕的うれづントれ閑案文ラ滅詣がシ西 すもっ一般グ入基バツらに交本一を参長ヨが 多り添テ一口をにるレ見学大日二学の市シ礼 がよにはとブン活れフを見ははズ見へ、ブ儀 義義題師っ通ヨ生さン部修光都イ場社事七交を</p>
表敬訪問	<p>*知事七交を *知事七交を *知事七交を</p> <p>を計を講が歴ッ容っの目的。で口光講は備した しにし義よ史トとた目た心ブ親の時準ぎ を義話話方はたレ内かてかの中もて教の時に過 る流講、なムたいフのなしし化ならは不の洋 ぎ交た夕的うれづントれ閑案文ラ滅詣がシ西 すもっ一般グ入基バツらに交本一を参長ヨが 多り添テ一口をにるレ見学大日二学の市シ礼 がよにはとブン活れフを見ははズ見へ、ブ儀 義義題師っ通ヨ生さン部修光都イ場社事七交を</p>
食事	<p>*少ア大英日 *少ア大英日 *少ア大英日</p> <p>を計を講が歴ッ容っの目的。で口光講は備した しにし義よ史トとた目た心ブ親の時準ぎ を義話話方はたレ内かてかの中もて教の時に過 る流講、なムたいフのなしし化ならは不の洋 ぎ交た夕的うれづントれ閑案文ラ滅詣がシ西 すもっ一般グ入基バツらに交本一を参長ヨが 多り添テ一口をにるレ見学大日二学の市シ礼 がよにはとブン活れフを見ははズ見へ、ブ儀 義義題師っ通ヨ生さン部修光都イ場社事七交を</p>
日本青年	<p>*少ア大英日 *少ア大英日 *少ア大英日</p> <p>を計を講が歴ッ容っの目的。で口光講は備した しにし義よ史トとた目た心ブ親の時準ぎ を義話話方はたレ内かてかの中もて教の時に過 る流講、なムたいフのなしし化ならは不の洋 ぎ交た夕的うれづントれ閑案文ラ滅詣がシ西 すもっ一般グ入基バツらに交本一を参長ヨが 多り添テ一口をにるレ見学大日二学の市シ礼 がよにはとブン活れフを見ははズ見へ、ブ儀 義義題師っ通ヨ生さン部修光都イ場社事七交を</p>
ホームステイ	<p>*ホ一期よホホ言何日 *ホ一期よホホ言何日 *ホ一期よホホ言何日</p> <p>を計を講が歴ッ容っの目的。で口光講は備した しにし義よ史トとた目た心ブ親の時準ぎ を義話話方はたレ内かてかの中もて教の時に過 る流講、なムたいフのなしし化ならは不の洋 ぎ交た夕的うれづントれ閑案文ラ滅詣がシ西 すもっ一般グ入基バツらに交本一を参長ヨが 多り添テ一口をにるレ見学大日二学の市シ礼 がよにはとブン活れフを見ははズ見へ、ブ儀 義義題師っ通ヨ生さン部修光都イ場社事七交を</p>
全体	<p>*日合日参精日ア日 *日合日参精日ア日 *日合日参精日ア日</p> <p>を計を講が歴ッ容っの目的。で口光講は備した しにし義よ史トとた目た心ブ親の時準ぎ を義話話方はたレ内かてかの中もて教の時に過 る流講、なムたいフのなしし化ならは不の洋 ぎ交た夕的うれづントれ閑案文ラ滅詣がシ西 すもっ一般グ入基バツらに交本一を参長ヨが 多り添テ一口をにるレ見学大日二学の市シ礼 がよにはとブン活れフを見ははズ見へ、ブ儀 義義題師っ通ヨ生さン部修光都イ場社事七交を</p>
その他	<p>*バ自通材フバ日アほ *バ自通材フバ日アほ *バ自通材フバ日アほ</p> <p>を計を講が歴ッ容っの目的。で口光講は備した しにし義よ史トとた目た心ブ親の時準ぎ を義話話方はたレ内かてかの中もて教の時に過 る流講、なムたいフのなしし化ならは不の洋 ぎ交た夕的うれづントれ閑案文ラ滅詣がシ西 すもっ一般グ入基バツらに交本一を参長ヨが 多り添テ一口をにるレ見学大日二学の市シ礼 がよにはとブン活れフを見ははズ見へ、ブ儀 義義題師っ通ヨ生さン部修光都イ場社事七交を</p>
現地プログラム	<p>*現現地 *現現地 *現現地</p> <p>を計を講が歴ッ容っの目的。で口光講は備した しにし義よ史トとた目た心ブ親の時準ぎ を義話話方はたレ内かてかの中もて教の時に過 る流講、なムたいフのなしし化ならは不の洋 ぎ交た夕的うれづントれ閑案文ラ滅詣がシ西 すもっ一般グ入基バツらに交本一を参長ヨが 多り添テ一口をにるレ見学大日二学の市シ礼 がよにはとブン活れフを見ははズ見へ、ブ儀 義義題師っ通ヨ生さン部修光都イ場社事七交を</p>

シンガポール

講義	<p>*共通フ口グラムの講義を減らして増やして欲しい *視聴本覚にの訴えるの少すの講義を減らして増やして欲しい *日語の時の授業はもは少すの講義を減らして増やして欲しい *講義の内容は化本義か訳がバ地が方とを学(を)もがお抜中事ついで欲しい *文日講義は化本義か訳がバ地が方とを学(を)もがお抜中事ついで欲しい *講義の内容は化本義か訳がバ地が方とを学(を)もがお抜中事ついで欲しい</p>
見学	<p>*通イバフオ一マ、資料も良かっ *宮島は地が方とを学(を)もがお抜中事ついで欲しい *高舞技の術を見下等(を)もがお抜中事ついで欲しい *観光地見下等(を)もがお抜中事ついで欲しい *一島、ト京ア一はお抜中事ついで欲しい *広ナ視イ察Pムリの食に多すぎ、折角日本にきたのだから日本料理をもっと出</p>
表敬訪問	<p>*Vホモ日つ中し *ホモ日つ中し *日つ中し</p>
食事	<p>*ホモ日つ中し *日つ中し</p>
日本青年	<p>*日本青年 *日本青年</p>
ホームステイ	<p>*ホモ日つ中し *ホモ日つ中し *ホモ日つ中し</p>
全体	<p>*日合本宿業リ義し合し地 *日合本宿業リ義し合し地 *日合本宿業リ義し合し地</p>
その他	<p>*東資会青突ホ現英 *東資会青突ホ現英 *東資会青突ホ現英</p>
現地プログラム	<p>*J1時本か日て3過 *J1時本か日て3過 *J1時本か日て3過</p>

中国 講義	資料通義の口見字や年号は中 料通義の口見字や年号は中 のブとはの前の時山形では先 数口見歴数に口見字や年号は中 字グ学史字講の頂に唐立はは ややをがや義のムかを様提心問 年ム交多図のムかを様提心問 号の互か表質のる種化寺のあ は講にっは料請見めをのあ 中義組た正や義の先いむをた 国はんの確のの先いむをた の日でに現し本レはは 標本は現し本レはは 記のど代てのソ日一う 法全う日欲窓ソ日一う に体か本しは割望 し像の政のいをどい てをの政のいをどい 欲解の政のいをどい しいすの政のいをどい
見学	省共講義日通動士学良校学見 料通義の口見字や年号は中 のブとはの前の時山形では先 数口見歴数に口見字や年号は中 字グ学史字講の頂に唐立はは ややをがや義のムかを様提心問 年ム交多図のムかを様提心問 号の互か表質のる種化寺のあ は講にっは料請見めをのあ 中義組た正や義の先いむをた 国はんの確のの先いむをた の日でに現し本レはは 標本は現し本レはは 記のど代てのソ日一う 法全う日欲窓ソ日一う に体か本しは割望 し像の政のいをどい てをの政のいをどい 欲解の政のいをどい しいすの政のいをどい
敬訪問 食事	省共講義日通動士学良校学見 料通義の口見字や年号は中 のブとはの前の時山形では先 数口見歴数に口見字や年号は中 字グ学史字講の頂に唐立はは ややをがや義のムかを様提心問 年ム交多図のムかを様提心問 号の互か表質のる種化寺のあ は講にっは料請見めをのあ 中義組た正や義の先いむをた 国はんの確のの先いむをた の日でに現し本レはは 標本は現し本レはは 記のど代てのソ日一う 法全う日欲窓ソ日一う に体か本しは割望 し像の政のいをどい てをの政のいをどい 欲解の政のいをどい しいすの政のいをどい
日本青年	省共講義日通動士学良校学見 料通義の口見字や年号は中 のブとはの前の時山形では先 数口見歴数に口見字や年号は中 字グ学史字講の頂に唐立はは ややをがや義のムかを様提心問 年ム交多図のムかを様提心問 号の互か表質のる種化寺のあ は講にっは料請見めをのあ 中義組た正や義の先いむをた 国はんの確のの先いむをた の日でに現し本レはは 標本は現し本レはは 記のど代てのソ日一う 法全う日欲窓ソ日一う に体か本しは割望 し像の政のいをどい てをの政のいをどい 欲解の政のいをどい しいすの政のいをどい
ホームステイ	省共講義日通動士学良校学見 料通義の口見字や年号は中 のブとはの前の時山形では先 数口見歴数に口見字や年号は中 字グ学史字講の頂に唐立はは ややをがや義のムかを様提心問 年ム交多図のムかを様提心問 号の互か表質のる種化寺のあ は講にっは料請見めをのあ 中義組た正や義の先いむをた 国はんの確のの先いむをた の日でに現し本レはは 標本は現し本レはは 記のど代てのソ日一う 法全う日欲窓ソ日一う に体か本しは割望 し像の政のいをどい てをの政のいをどい 欲解の政のいをどい しいすの政のいをどい
全体	省共講義日通動士学良校学見 料通義の口見字や年号は中 のブとはの前の時山形では先 数口見歴数に口見字や年号は中 字グ学史字講の頂に唐立はは ややをがや義のムかを様提心問 年ム交多図のムかを様提心問 号の互か表質のる種化寺のあ は講にっは料請見めをのあ 中義組た正や義の先いむをた 国はんの確のの先いむをた の日でに現し本レはは 標本は現し本レはは 記のど代てのソ日一う 法全う日欲窓ソ日一う に体か本しは割望 し像の政のいをどい てをの政のいをどい 欲解の政のいをどい しいすの政のいをどい
その他	省共講義日通動士学良校学見 料通義の口見字や年号は中 のブとはの前の時山形では先 数口見歴数に口見字や年号は中 字グ学史字講の頂に唐立はは ややをがや義のムかを様提心問 年ム交多図のムかを様提心問 号の互か表質のる種化寺のあ は講にっは料請見めをのあ 中義組た正や義の先いむをた 国はんの確のの先いむをた の日でに現し本レはは 標本は現し本レはは 記のど代てのソ日一う 法全う日欲窓ソ日一う に体か本しは割望 し像の政のいをどい てをの政のいをどい 欲解の政のいをどい しいすの政のいをどい

韓国

講義	<p>講義や見学をして欲しいところがあった</p> <p>考えた（勤労青年）と複た（コース）を望む</p> <p>なにかあったが欲しかった</p> <p>はなむかいた</p> <p>のう欲いた</p> <p>もグでて</p> <p>それな口行れ</p> <p>に地をえ</p> <p>為現義与</p> <p>いては講に</p> <p>聞ては講に</p> <p>を内容を分</p> <p>望つ内し充</p> <p>にのにはた</p> <p>達ム基礎問</p> <p>年口グをの屈</p> <p>青口係答退</p> <p>にたプ閉応は</p> <p>前通通韓疑</p> <p>事共其日質</p> <p>講本見京親</p>
見学	<p>（勤労青年）を望む</p> <p>なにかあったが欲しかった</p> <p>も考慮して欲しい</p> <p>たかっ大衆文化芸術、伝統文化</p> <p>なにかあったが欲しかった</p> <p>も考慮して欲しい</p> <p>なにかあったが欲しかった</p> <p>も考慮して欲しい</p> <p>なにかあったが欲しかった</p> <p>も考慮して欲しい</p> <p>なにかあったが欲しかった</p> <p>も考慮して欲しい</p>
表敬訪問	<p>無さを感じた</p> <p>誠意の無さを感じた</p> <p>誠意の無さを感じた</p> <p>誠意の無さを感じた</p> <p>誠意の無さを感じた</p> <p>誠意の無さを感じた</p> <p>誠意の無さを感じた</p> <p>誠意の無さを感じた</p>
食事	<p>なかった</p> <p>なかった</p> <p>なかった</p> <p>なかった</p> <p>なかった</p> <p>なかった</p> <p>なかった</p> <p>なかった</p>
日本青年	<p>世代の人との交流を試みた</p> <p>世代の人との交流を試みた</p> <p>世代の人との交流を試みた</p> <p>世代の人との交流を試みた</p> <p>世代の人との交流を試みた</p> <p>世代の人との交流を試みた</p> <p>世代の人との交流を試みた</p> <p>世代の人との交流を試みた</p>
ホームステイ	<p>無いた</p> <p>無いた</p> <p>無いた</p> <p>無いた</p> <p>無いた</p> <p>無いた</p> <p>無いた</p> <p>無いた</p>
全体	<p>たい</p> <p>たい</p> <p>たい</p> <p>たい</p> <p>たい</p> <p>たい</p> <p>たい</p> <p>たい</p>
その他	<p>気になる</p> <p>必要に応じてつけて</p> <p>必要に応じてつけて</p> <p>必要に応じてつけて</p> <p>必要に応じてつけて</p> <p>必要に応じてつけて</p> <p>必要に応じてつけて</p> <p>必要に応じてつけて</p>
現地プログラム	<p>現地プログラムで行</p> <p>現地プログラムで行</p> <p>現地プログラムで行</p> <p>現地プログラムで行</p> <p>現地プログラムで行</p> <p>現地プログラムで行</p> <p>現地プログラムで行</p> <p>現地プログラムで行</p>

Ⅶ 資 料 集

目 次

1. 参 考 資 料	69
(1) 現地プログラム (国別)	70
(2) 国内プログラム (グループ別)	71
(3) 同窓会連絡先	117
2. 会 議 議 事 録 等	118
(1) 関係省庁連絡調整会議	119
(ア) 要 録 (62年4月23日)	119
(イ) 要 録 (62年8月6日)	123
(ウ) 要 録 (62年12月22日)	133
(2) 実行連絡調整委員会	134
(ア) 議事録 (62年4月15日)	134
(イ) 議事録 (62年11月24日)	148
(ウ) 議事録 (62年12月16日)	168
3. 実 施 協 力 団 体 報 告 書	175
実務担当者会議 (昭和62年10月23日、青年招へい事業評価報告会) 資料	191

1. 参 考 资 料

Pre-departure Programme

	1st day	2nd day	3rd day	4th day	5th day
Brunei	<ul style="list-style-type: none"> Opening Ceremony Briefing on JICA Film: "The Man & His Technology" Japanese Language Lesson 	<ul style="list-style-type: none"> Programme Orientation I General Information on Brunei Japanese Language Lesson 	<ul style="list-style-type: none"> Programme Orientation II Film: "Kabuki" Japanese Language Lesson Cultural Performance Practice 	<ul style="list-style-type: none"> Experience Sharing with Ex-participants Lecture: "Diplomatic Policy of Brunei" Japanese Language Lesson 	<ul style="list-style-type: none"> Film: "Japan - an Overview" Japanese Language Lesson
Indonesia	<ul style="list-style-type: none"> Opening Ceremony 	<ul style="list-style-type: none"> Physical Exercise Briefing on JICA Experience Sharing with Ex-participants Japanese Language Lesson Lecture: "The Society & Culture of Japan" Programme Orientation I 	<ul style="list-style-type: none"> Physical Exercise Japanese Language Lesson Programme Orientation II 	<ul style="list-style-type: none"> Physical Exercise Visit to a Facility Relevant to the Category of Each Group Lecture: "Science & Technology of Japan" 	<ul style="list-style-type: none"> Physical Exercise Lecture: "ASEAN & Japan" Travel Arrangement (JAL) Send-off Party Closing Ceremony
Malaysia	<ul style="list-style-type: none"> Briefing on the Programme by a Secretariat Officer Self-introduction 	<ul style="list-style-type: none"> Japanese Language Lesson Programme Orientation Experience Sharing with Ex-participants Group Discussion 	<ul style="list-style-type: none"> Japanese Language Lesson Lectures: "The Politics of Malaysia and Japan" & "Bilateral Trading Relationship" 	<ul style="list-style-type: none"> Japanese Language Lesson Briefing on JICA Buffer Dinner 	<ul style="list-style-type: none"> Japanese Language Lesson Lecture: "The Japanese Culture & Traditions" Travel Arrangement (JAL)
Philippines	<ul style="list-style-type: none"> Opening Ceremony Programme Orientation Self-introduction 	<ul style="list-style-type: none"> Lectures: "Filipino Culture" & "History and Society" Japanese Language Lesson Cultural Performance Practice 	<ul style="list-style-type: none"> Lectures: "Filipino Government" & "Philippines-Japan Relation" Japanese Language Lesson Experience Sharing with Ex-participants 	<ul style="list-style-type: none"> Lecture: "Filipino Educational Policies" Social Protocol Visit to National Panasonic/Philippines R & D Center Cocktail Party Hosted by the Embassy of Japan 	<ul style="list-style-type: none"> Experience Sharing with Ex-participants Travel Arrangement (JAL)
Singapore	<ul style="list-style-type: none"> Orientation Self-introduction Japanese Language Lesson Experience Sharing with Ex-participants Singing Practice 	<ul style="list-style-type: none"> Programme Orientation Lecture: "Economy of Singapore" Singing Practice Experience Sharing with Ex-participants 	<ul style="list-style-type: none"> Visit to Japan-Singapore Technical Institute Travel Arrangement (JAL) Japanese Language Lesson Lecture: "On Japan" Dinner Party 		
Thailand	<ul style="list-style-type: none"> Opening Ceremony Programme Orientation Recreation 	<ul style="list-style-type: none"> Physical Exercise Japanese Language Lesson Lectures: "Thai Culture" & "Japan Today" Experience Sharing with Ex-participants Cultural Performance Practice 	<ul style="list-style-type: none"> Physical Exercise Japanese Language Lesson Lectures: "The Relation between Thailand and Japan", "ASEAN and Neighboring Countries" & "Human Relations" Cultural Performance Practice 	<ul style="list-style-type: none"> Physical Exercise Japanese Language Lesson Preparation for Discussion Visit to a Factory Send-off Party 	<ul style="list-style-type: none"> Physical Exercise Japanese Language Lesson Lecture: "Science and Technology of Japan" Courtesy Call on the Secretary General of National Youth Bureau
Burma	<ul style="list-style-type: none"> Opening Ceremony Briefing on JICA Programme Orientation Japanese Language Lesson 	<ul style="list-style-type: none"> Briefing on Japan Send-off Party Japanese Language Lesson 			
Papua New Guinea	<ul style="list-style-type: none"> Programme Orientation Lecture: "PNG-Japan Relations" Japanese Language Lesson 	<ul style="list-style-type: none"> Lecture: "Economic Cooperation between PNG and Japan" Visit to Sogeri National High School and Vairata National Park 	<ul style="list-style-type: none"> Lecture: "Trade and Economic Relationship between PNG and Japan" Japanese Language Lesson 	<ul style="list-style-type: none"> Programme Orientation II Luncheon 	

第1陣 團名：フィリピン 分野：教員 人数：24名 分野別実施協力団体：(財)国際交流サービス協会

21世紀のための友邦言語十国(1987)

月日	曜日		プ		ラ		ム		内		容		実施場所	宿泊場所	泊場所	電話番号
	前	後	午	夜	午	夜	午	夜	午	夜	後					
5/10	日	来日											東京	池袋メトロポリタン		03-380-1111
5/11	月	本計画ブリーフィング 閉講式 昼食懇談会														
5/12	火	講演「日本の社会と風土」														
5/13	水	日産自動車村山工場見学														
5/14	木	講演「日本の産業史」														
5/15	金	講演「日本とアセアン」														
5/16	土	オリエンテーション											東京	ギンモンド東京		03-666-4111
5/17	日	自主研修														
5/18	月	文部省表敬														
5/19	火	東京学芸大学 施設見学 参観														
5/20	水	国立身障者リハビリセンター														
5/21	木	駿台学園高校														
5/22	金	箱根見学														
5/23	土	基調講演 フィリピン青年による講演														
5/24	日	スポーツ交流及びクリエーション														
5/25	月	上諏訪へ移動														
5/26	火	市長表敬														
5/27	水	閉講小学校訪問 島内研修														
5/28	木	養護学校訪問														
5/29	金	ホームステイ														
5/30	土	移動 長野知事表敬 県教育委員会表敬														
5/31	日	自主研修														
6/1	月	名古屋へ移動														
6/2	火	広島市内見学 平和記念資料館														
6/3	水	京都へ移動														
6/4	木	京都見学														
6/5	金	古代友禅苑														
6/6	土	帰国準備														
6/7	日	帰国準備														
6/8	月	懇話会 帰国についての説明・諸手続														
6/9	火	帰国準備														

第1陣 国名：フィリピン 分野：学生(理科系) 人数：25名 分野別実施協力団体：(社) 青年海外協力協会

2. 1. 世紀のたための友誼十国 (1987)

月日	前		内		実施場所	泊場所	電話番号
	ブ	ラ	ム	夜			
1 5/10	来日				東京	地袋メトロポリタン	03-980-1111
2 5/11	本計画アライニング	開講式 早稲田大学	生活ガイダンス	日本語会話 (I)	"	"	"
3 5/12	講義「日本の社会と風土」		講義「日本の歴史と文化」	武通鑑員及び交歓会	"	"	"
4 5/13	日産自動車村山工場見学		電気通信科学館見学		"	"	"
5 5/14	講義「日本の産業史」		講義「日本の経済」		"	"	"
6 5/15	講義「日本とアセアン」		大使館表敬訪問		"	"	"
7 5/16	箱根へ移動	プログラムオリエンテーション	基礎講義		神奈川県	箱根プリンスホテル	0480-3-7111
8 5/17	講義 グループ討論		レクレーション	グループ討論 交歓会	"	"	"
9 5/18	箱根見学 (彫刻の森美術館等)		横浜へ移動	スポーツ交流	"	ホリデーイン横浜	045-681-3311
10 5/19	神奈川県庁表敬訪問 県政ブリーフィング		神奈川県立大学訪問 (見学、講演、討論会)		"	"	"
11 5/20	立教大学原子力研究所見学		工業高校訪問		"	"	"
12 5/21	自主見学		都内見学 (NHK)		"	"	"
13 5/22	横浜三溪園見学 (茶会)		北里大学病院見学 北里大学東病院見学 交流の夕べ		"	"	"
14 5/23	山口へ移動		オリエンテーション		山口	サンルート山口	0839-23-3610
15 5/24	自主研修		同左		"	"	"
16 5/25	県知事表敬、県概要説明		N.T.I 見学 FM山口訪問 (出張) 知事レセプション		"	"	"
17 5/26	山口大学工学部訪問 (見学、学生と交歓)		山口大学工学部訪問 テクノポリス見学		"	"	"
18 5/27	キリンビール工場見学		岩国市内見学 錦町へ移動		"	グリーンパレス錦町	08277-3-0211
19 5/28	秋芳町へ移動		秋芳町、秋吉台見学		"	サンルート山口	0839-23-3610
20 5/29	自主研修		ホームステイオリエンテーション		"	ホームステイ家庭	"
21 5/30	ホームステイ		ホームステイ		"	"	"
22 5/31	ホームステイ		ホストファミリーとのお別れ会		"	防長青年館	0839-23-6088
23 6/1	広島へ移動		宮島、厳島神社見学		広島	広島リバーサイド	082-227-1111
24 6/2	広島市内見学 (平和記念資料館、被爆者との懇談)		自主研修		"	"	"
25 6/3	京都へ移動		京都市内見学 (二条城、西陣祇園)		京都	京都第二タワー	075-361-3261
26 6/4	京都市内見学 (寛安寺、平安神宮)		京都市内見学 (清水寺) 自主見学		"	"	"
27 6/5	東京へ移動		東京へ移動		東京	地袋メトロポリタン	03-980-1111
28 6/6	帰国準備		同左		"	"	"
29 6/7	帰国準備		同左		"	"	"
30 6/8	帰国準備		評議会 帰国についての説明・諸手続 統送会		"	"	"
31 6/9	帰国準備		同左		"	"	"

第1期 国名：フィリピン 分野：学生（文科系）人数：20名 分野別実施協力団体：（財）世界青少年交流協会

21世紀のための友竹語言十面（1987）

月日	ブ		ラ		ム		内		実施場所	宿	泊	場	所	電話番号
	前	後	前	後	前	後	前	後						
1 5/10	日	米日							東 京	池袋メトロポリタン				03-880-1111
2 5/11	日	本計画ブリーフィング 開講式、昼食懇談会			生活ガイドダンス		日本語会話 (I)		"	"	"	"	"	"
3 5/12	火	講義「日本の社会と風土」			講義「日本の歴史と文化」		武道鑑賞及び交歓会		"	"	"	"	"	"
4 5/13	水	日産自動車村山工場見学			電気通信科学館見学				"	"	"	"	"	"
5 5/14	木	講義「日本の産業史」			講義「日本の経済」				"	"	"	"	"	"
6 5/15	金	講義「日本とアゼアン」			日本語会話 (II)		大使館表敬訪問		"	"	"	"	"	"
7 5/16	土	参海へ移動			オリエンテーション		歓迎会		静 岡	シャトー・テル赤根崎				0557-67-1111
8 5/17	日	分科会			発表会		レクリエーション		"	"	"	"	"	"
9 5/18	月	分科会			発表会		交歓の夕べ		"	"	"	"	"	"
10 5/19	火	富士山見学			国会議事堂見学		オリエンテーション		東 京	グリーンホテル碓路				03-255-4161
11 5/20	水	講義（日本の教育制度）			同左		歌聲校見学		"	"	"	"	"	"
12 5/21	木	都内見学（浅草、皇居、東京タワー）			同左				"	"	"	"	"	"
13 5/22	金	大学見学（台宿参加者と共に）			オリエンテーション		ホームステイ		"	"	"	"	"	"
14 5/23	土	新神戸へ移動			ホームステイ				兵 庫	ホームステイ家屋				"
15 5/24	日	ホームステイ			ホームステイ				"	"	"	"	"	"
16 5/25	月	講義（神戸の文化と風土、神戸市の行政について）			大学生との討論会				"	"	"	"	"	"
17 5/26	火	禅寺訪問（講話、御の体験、茶道の体験）			神戸市長表敬訪問		神戸市農業公園		"	"	"	"	"	"
18 5/27	水	立杭焼見学および実習			同左				"	"	"	"	"	"
19 5/28	木	大学見学			フィリピンナイト				"	"	"	"	"	"
20 5/29	金	松下電器見学			大阪証券取引場見学				"	"	"	"	"	"
21 5/30	土	神戸港・ポートアイランド見学			生田神社見学（講話「神道の歴史について」）				"	"	"	"	"	"
22 5/31	日	日曜礼拝			レクリエーション		サヨナラパーティ		"	"	"	"	"	"
23 6/1	月	自主研修			広島へ移動				広 島	ニューヒーロデーン				082-263-3456
24 6/2	火	広島市内見学（原爆資料館、平和公園、高島）			同左				"	"	"	"	"	"
25 6/3	水	京都へ移動			京都府内見学（二条城、清水寺）				京 都	京都第3タワー				075-343-3111
26 6/4	木	奈良市内見学（宇治平等院、東大寺、奈良公園）			同左		奈良観光館		"	"	"	"	"	"
27 6/5	金	自主研修			東京へ移動				東 京	池袋メトロポリタン				03-880-1111
28 6/6	土	帰国準備			同左				"	"	"	"	"	"
28 6/7	日	帰国準備			同左				"	"	"	"	"	"
30 6/8	月	講師会 帰国についての説明・諸手続					献送会		"	"	"	"	"	"
31 6/8	火	帰国準備			同左				"	"	"	"	"	"

第1組 国名：シンガポール 分野：公務員 人数：23名 分野別実施協力団体：(比) ニュースワーカー能力開発協会

21世帯記のための女子会言語十項目 (1987)

月	曜日	午前	午後	実施場所	宿 泊 場 所	電 話 番 号
1	5/10	日	米日		東京 池袋メトロポリタン	03-880-1111
2	5/11	月	本計画プリーフィング 閉講式 糧食懇談会	生活ガイダンス		
3	5/12	火	講義「日本の社会と風土」	講義「日本の歴史と文化」 武通鑑賞及び交歓会		
4	5/13	水	日産自動車工場見学	東京科学館見学		
5	5/14	木	講義「日本の産業史」	講義「日本の経済」		
6	5/15	金	講義「日本とアジア」	日本語会話 (I)		
7	5/16	土	分野別プログラムのオリエンテーション	大使館表敬訪問	浅草ビューホテル	03-842-2111
8	5/17	日	自主研修	同左		
9	5/18	月	講義 (公務員の任用、昇進)	講義 (公務員の給与その他の勤務条件等について)		
10	5/19	火	講義 (行政機構における政策形成過程)	電子計算機共同利用施設見学		
11	5/20	水	東京都社会福祉総合センター見学	労働省プリーフィング		
12	5/21	木	(日本青年集会) 茨城県へ移動	合宿オリエンテーション	茨 城 鹿 島 ハ イ ツ	0288-82-7941
13	5/22	金	基調講演 (日本人の外国人観)			
14	5/23	土	講義と実習 (職場におけるレクレーション)	特別討論		
15	5/24	日	福島県へ移動	スポーツ交流		
16	5/25	月	福島県へ移動	同左	福島ビューホテル	0245-31-1111
17	5/27	水	自主研修	日本青年とのフリーマーケティング 県主催レセプション		
18	5/28	火	市立平田小学校訪問	東北沖電気訪問		
19	5/28	水	香妻スカイライン、裏磐梯見学	温泉体験		
20	5/29	木	ホームステイ	ホストファミリーとの対面	ホームステイ家庭	
21	5/30	金	ホームステイ	ホームステイ		
22	5/31	土	ホームステイ	ホームステイ		
23	6/1	日	ホームステイ	ホストファミリーとのお別れ会	福島ビューホテル	0245-31-1111
24	6/2	月	東京へ移動	広島へ移動	広島グランドホテル	082-227-1913
25	6/3	火	広島市内見学 (原爆ドーム、平和記念資料館)	広島、広島神社見学		
26	6/3	水	京都へ移動	同左	京都国際ホテル	075-222-1111
27	6/4	木	京都市内見学 (平安神宮、伝統産業会館)	自主研修		
28	6/5	金	京都市内見学 (ハンドクラフトセンター)	東京へ移動		
29	6/6	土	福岡進場	同左	東京 池袋メトロポリタン	03-880-1111
30	6/7	日	福岡進場	同左		
31	6/8	月	評議会 帰国についての説明・諸手続	同左		
32	6/8	火	帰国	同左		

第1陣 国名：シンガポール 分野：青年指導 人数：23名 分野別実施協力団体：(任) 中央青少年団体連絡協議会

21世紀のための女子青年十団 (1987)

月日	曜日	プログラム		実施場所	宿泊場所	電話番号
		前	後			
1	5/10	日	来日	東京	池袋メトロポリタン	03-880-1111
2	5/11	月	本計画ブリーフィング 閉講式 昼食懇談会	"	"	"
3	5/12	火	講義「日本の社会と風土」	"	"	"
4	5/13	水	日産自動車工場見学	"	"	"
5	5/14	木	講義「日本の産業史」	"	"	"
6	5/15	金	講義「日本とアセアン」	"	"	"
7	5/18	日	分野別プログラムオリエンテーション 昼食会	岡山	国立中央青年の家	0550-89-2020
8	5/17	日	青年の家まつり参加	"	"	"
9	5/18	月	山中湖へ移動 富士山五合目散策	山梨	富士青少年センター	0555-62-0020
10	5/19	火	討論会	"	"	"
11	5/20	水	全体会 閉会式	東京	池袋メトロポリタン	03-880-1111
12	5/21	木	文部省訪問	"	"	"
13	5/22	金	自主研修	"	"	"
14	5/23	土	北海道へ移動	"	"	"
15	5/24	日	札幌市内見学 (北海道開拓記念館等)	北海道	ホテルノースシティ	011-512-4433
16	5/25	月	道知事表敬、札幌市長表敬訪問	"	"	"
17	5/26	火	地場産業視察 (札幌エレクトロニクスセンター)	"	"	"
18	5/27	水	ホームステイ	"	"	"
19	5/28	木	ホームステイ	"	"	"
20	5/29	金	大雪青年の家・日高少年自然の家へ移動	"	大雪青年の家	0166-94-3121
21	5/30	土	大雪青年の家・日高少年自然の家での研修	"	日高少年自然の家	0145-76-2311
22	5/31	日	札幌へ移動	"	ホテルノースシティ	011-512-4433
23	6/1	月	広島へ移動	広島	広島グランドホテル	082-227-1313
24	6/2	火	宮島、厳島神社見学	"	"	"
25	6/3	水	京都へ移動	京都	からすま京都	075-371-0111
26	6/4	木	京都市内見学 (府立山城運動公園)	"	"	"
27	6/5	金	東京へ移動	東京	池袋メトロポリタン	03-880-1111
28	6/6	土	帰国準備	"	"	"
29	6/7	日	帰国準備	"	"	"
30	6/8	月	講師会 帰国についての説明・諸手続	"	"	"
31	6/9	火	帰国	"	"	"

第1編 国名：タイ 21 世帯己のための友が青年十団 (1987)
 分野：学生 (科学系) 人数：25名 分野別実施協力団体：(社) 青少年育成国民会議

月日	曜日		プログラム		実施場所	宿泊場所	電話番号
	前	後	午前	午後			
1	5/10	日	来日		東京	地袋メトロポリタン	03-880-1111
2	5/11	月	本計画ブリーフィング 開講式 昼食懇談会		"	"	"
3	5/12	火	講義「日本の社会と風土」	生活ガイダンス 日本語会話 (I)	"	"	"
4	5/13	水	日産自動車村山工場見学	講義「日本の歴史と文化」 武道鑑賞及び交歓会	"	"	"
5	5/14	木	講義「日本の産業史」	電気通信科学館見学	"	"	"
6	5/15	金	講義「日本とアセアン」	講義「日本の経済」	"	"	"
7	5/16	土	オリエンテーション 昼食会	日本語会話 (II) 大使館参観訪問	"	"	"
8	5/17	日	基調講演「国際社会に果す青年の役割」	合宿プログラム開講式 日本青年との交歓会	山中湖 栢溪寮	0555-62-0020	
9	5/18	月	全体発表会	グループ別ディスカッション 屋外科理会	"	"	"
10	5/19	火	文部省訪問「日本の教育制度と大学教育」	神奈川リハビリセンター訪問 東京へ移動	東京 サントリー 東京	03-375-8211	
11	5/20	水	東京タワー訪問「教育放送について」	東京工業大学訪問 銀座散策	"	"	"
12	5/21	木	筑波大学訪問	水上バスにて模草へ (下町散策)	"	"	"
13	5/22	金	自主研修	同左 東京へ移動	"	"	"
14	5/23	土	沖縄へ移動	同左	"	"	"
15	5/24	日	日本青年との交流 (海洋博記念公園訪問)	オリエンテーション	沖縄 縄	パシフィックホテル	0988-68-5182
16	5/25	月	県知事参政 泉概要説明 「沖縄県の歴史と文化」	同左	"	"	"
17	5/26	火	沖縄県国際センター見学 泡盛工場視察	知事歓迎レセプション	"	"	"
18	5/27	水	宇宙開発事業団訪問	琉球大学訪問 農業試験場視察 那覇へ移動	"	"	"
19	5/28	木	公衆衛生研究所見学	神原中学校訪問 (授業参観及び生徒との交流)	"	"	"
20	5/29	金	地元青年と料理会	ホームステイ家庭へ移動	"	"	"
21	5/30	土	ホームステイ	ホームステイ	"	"	"
22	5/31	日	ホームステイ家庭から集合	レクレーション 青年フォーラム 交流の夕べ	"	パシフィックホテル	0988-68-5182
23	6/1	月	広島へ移動	同左	広島	広島グランドホテル	082-227-1313
24	6/2	火	広島市内見学 (原爆資料館、平和記念公園)	同左	"	"	"
25	6/3	水	京都へ移動	宮島 厳島神社見学	"	"	"
26	6/4	木	奈良市内見学 (春日大社、東大寺、薬師寺)	京都市内見学 友禅文化会館 嵐山	京都	京都ホテル	075-221-5111
27	6/5	金	京都市内見学 (二条城、平安神宮)	同左	"	"	"
28	6/6	土	帰国準備	東京へ移動	東京	地袋メトロポリタン	03-880-1111
29	6/7	日	帰国準備	同左	"	"	"
30	6/8	月	評議会 帰国についての説明・諸手続	同左	"	"	"
31	6/9	火	帰国	同左 歓送会	"	"	"

21世紀のこころの友竹書十画(1987)
 第1陣 国名:タイ 分野:学生(農学系)人数:23名 分野別実施協力団体:(社)全国農村青少年教育振興会

月日	曜日		午前		午後		実施場所	宿泊場所	電話番号
	前	後	前	後	前	後			
5/10	日	来日					東京	池袋メトロポリタン	03-880-1111
5/11	月	本計画ブリーフィング 朗読式 昼食懇談会			生活ガイダンス	日本語会話(I)	"	"	"
5/12	火	講義「日本の社会と風土」			講義「日本の歴史と文化」	武通鑑賞及び交歓会	"	"	"
5/13	水	日産自動車村山工場見学			電気通信科学復習学		"	"	"
5/14	木	講義「日本の産業史」			講義「日本の経済」		"	"	"
5/15	金	講義「日本とアセアン」			日本語会話(II)	大使館表敬訪問	"	"	"
5/16	土	オリエンテーション			都内見学	日本青年との交歓会	"	"	"
5/17	日	自主研修			同左		"	"	"
5/18	月	農林水産省表敬および講義(日本農業)			農林水産省放牧事務所訪問		茨城	筑波第一ホテル	0288-52-1112
5/19	火	農業研究センター訪問			熱帯農業研究センター訪問		"	"	"
5/20	水	畜産試験場見学			同左	合宿オリエンテーション	"	ゆかりの森あかまつ	0287-47-5121
5/21	木	基礎講演(農学の果たす社会的役割)			スポーツ・レクレーション		"	"	"
5/22	金	分岐会			全体祈禱	交歓パーティー	"	"	"
5/23	土	水田農業地帯視察			同左	鳥取へ移動	鳥取	車内 宿泊	
5/24	日	自主研修			同左	オリエンテーション	"	鳥取第一ホテル	0857-23-1201
5/25	月	泉知事表敬 県概要説明			鳥取砂丘砂丘地利用施設見学	歓迎レセプション	"	"	"
5/26	火	キノコセンター見学			鳥取大学訪問(見学、学生との交流)		"	"	"
5/27	水	料理交歓会			各学農業高校訪問		"	三朝温泉万翠楼	0858-43-0511
5/28	木	果樹園芸試験場見学			東伯町農協訪問		"	大山青年の家	0859-53-8080
5/29	金	ホームステイ引渡し			ホームステイ家庭へ移動		"	ホームステイ家庭	
5/30	土	ホームステイ			ホームステイ		"	"	
5/31	日	ホームステイ家庭から集合			レクレーション(餅つき等)	さよならパーティ	"	サンルート米子	0859-33-0811
6/1	月	広島へ移動			広島市内見学(原爆資料館、平和記念公園)		広島	広島グランドホテル	082-227-1313
6/2	火	宮島、厳島神社見学			自主研修		"	"	"
6/3	水	京都へ移動			京都市内見学(二条城、清水寺、ギオンコーナー)		京都	からすま京都	075-371-0111
6/4	木	京都市内見学(嵐山高雄パークウェイ、平安神宮)			自主研修		"	"	"
6/5	金	東京へ移動			東京へ移動		東京	池袋メトロポリタン	03-880-1111
6/6	土	帰国建前			同左		"	"	"
6/7	日	帰国建前			同左		"	"	"
6/8	月	評議会 帰国についての説明・諸手続				献送会	"	"	"
6/9	火	帰国					"	"	"

2 1 世界己のための友情十週目 (1987)
 第2陣 国名: シンガポール 分野: 教育 人数: 2.5名 分野別実施協力団体: (財)世界青少年交流協会

月日	曜日		プログラム		実施場所	宿泊場所	電話番号
	前	後	午前	午後			
1 5/31	日	来日			東京	池袋メトロポリタン	03-880-1111
2 6/1	月	本計画プリアーニング	開講式 昼食懇談会	生活ガイダンス			
3 6/2	火	講義「日本の社会と風土」		講義「日本の歴史と文化」 武道鑑賞及び交歓会			
4 6/3	水	日産自動車造技工場見学		英芝科学館見学			
5 6/4	木	講義「日本の産業史」		講義「日本の経済」			
6 6/5	金	講義「日本とアセアン」		大使館表敬訪問			
7 6/6	土	日光見学 (日光東照宮 華嚴の滝)		合宿セミナー開講式 オリエンテーション	群馬	国際きのこ会館	0277-22-0591
8 6/7	日	分科会ディスカッションI		分科会ディスカッションII・III 日本文化紹介			
9 6/8	月	分科会ディスカッションIV (発表会・総括)		レクリエーション 自由研修 交流の夕べ			
10 6/9	火	東京へ移動		オリエンテーション	東京	プリンスホテル	03-888-1111
11 6/10	水	文部省訪問	講義「日本の教育制度」	東京学芸大学訪問			
12 6/11	木	東京タワー		朝日新聞社訪問 歌舞伎観賞			
13 6/12	金	NHK放送センター 国会議事堂		大塚省印刷局高野川工場見学 (交流会)			
14 6/13	土	秋田へ移動		オリエンテーション	秋田	ホームステイ家庭	
15 6/14	日	ホームステイ		同左			
16 6/15	月	県知事・市長表敬 講義「秋田市政」		講義「秋田市の社会教育・学校教育」 歓迎の夕べ			
17 6/16	火	秋田山王幼稚園訪問		秋田薬学学校訪問		秋田パークホテル	0188-62-1515
18 6/17	水	秋田市立勝平小学校訪問		秋田市立勝平中学校・秋田市立秋田南高等学校訪問			
19 6/18	木	大湯村訪問 (農業視察)		男鹿半島視察 (国定公園)			
20 6/19	金	秋田市内見学 (赤レンガ郷土館 中央図書館 明徳館)		秋田大学 (教育学部、教育工学センター、鉱業博物館)			
21 6/20	土	自主研修		合宿セミナー (レクリエーション、ディスカッション)			
22 6/21	日	天童村見学		歓送レセプション		厚生年金体験センター	0184-73-2288
23 6/22	月	広島へ移動		広島見学 (平和公園、原爆資料館)	広島	秋田パークホテル	0188-62-1515
24 6/23	火	宮島見学 (厳島神社)		広島見学 (平和公園、原爆資料館)		ユニバーヒロタン	082-263-3456
25 6/24	水	京都へ移動		縮景園、広島市内見学			
26 6/25	木	奈良市内見学 (東大寺)		京都市内見学 (清水寺、西陣織会館、紙園コーナー)	京都	第3タワーホテル	075-943-3111
27 6/26	金	東京へ移動		京都市内見学 (平安神宮、古代及神苑、二条城) 評議会			
28 6/27	土	帰国準備		東京着	東京	池袋メトロポリタン	03-880-1111
29 6/28	日	帰国準備		同左			
30 6/29	月	評議会 帰国についての説明・諸手続		同左			
31 6/30	火	帰国		歓送会			

21世紀のための友情言語十題(1987)

第2陣 国名: シンガポール 分野: 学生 人数: 20名 分野別実施協力団体: (財)ニューズワーカー能力開発協会

月日	曜日	午前	ラ	ム	午後	実施場所	泊場所	電話番号
5/31	日	来日				東京	地袋メトロポリタン	03-980-1111
6/1	月	本討論ブリーフィング 朗読式 属食懇談会			生活ガイダンス			
6/2	火	講義「日本の社会と風土」			講義「日本の歴史と文化」			
6/3	水	日産自動車工場見学			東芝科学館見学			
6/4	木	講義「日本の産業史」			講義「日本の経済」			
6/5	金	講義「日本とアゼアン」			日本語会話(1)			
6/6	土	オリエンテーション			代々木ゼミナール訪問		浅草ビューホテル	03-842-2111
6/7	日	自主研修			同左			
6/8	月	国会議事堂見学			理化学研究所訪問			
6/9	火	独協大学訪問(学校説明 授業参加 クラブ活動)			同左			
6/10	水	笠原小学校訪問			東武動物公園見学			
6/11	木	(日本青年集会) 奥志賀へ移動			同左	長野	奥志賀ハイム	02893-4-2551
6/12	金	野外活動(奥志賀の植物観察)			アグンリリサーチ(食べられる植物山菜採集)			
6/13	土	野外実習			グループ討論			
6/14	日	長野へ移動			宮崎へ移動			
6/15	月	県知事表敬、県概要説明等			同左			
6/16	火	講義(宮崎の神話) 自由討論			宮崎大学生との合宿(スポーツ交流レクリエーション)			
6/17	水	台海研修発表			宮崎市内見学			
6/18	木	綾町訪問(日本文化・伝統工芸等)			同左			
6/19	金	串間へ移動			ホームステイ(家庭訪問)			
6/20	土	ホームステイ			ホームステイ			
6/21	日	ホームステイ			ホームステイ			
6/22	月	島原へ移動(都城、人吉、八代)			同左			
6/23	火	長崎へ移動			長崎市内見学(国際文化会館) 大阪へ移動(桜台列車)	長崎	島原観光ホテル	09576-2-5211
6/24	水	京都へ移動(古代友禅苑)			京都市内見学(清水寺)		桜台列車あかつき	
6/25	木	京都市内見学(平安神宮、伝統産業会館)			京都市内見学	京都	京都国際ホテル	075-222-1111
6/26	金	京都市内見学(ハンドクラフトセンター)			自主研修			
6/27	土	帰国準備			東京へ移動			
6/28	日	帰国準備			同左			
6/29	月	評価会 帰国についての説明・諸手続			同左			
6/30	火	帰国			同左			
6/30	火				同左			

第3陣 分野：アセアン起成 人数：30名 分野別実施協力団体：(社) 青少年育成国民会議

21世紀のための友や語言十国(1987)

月日	曜日	午前	午後	実施場所	宿泊場所	電話番号
1	6/21	日	米日		東京 池袋メトロポリタン	03(380)1111
2	6/22	月	本計画ブリーフィング 閉議式 昼食懇談会		"	"
3	6/23	火	討議「日本の社会と異文化」		"	"
4	6/24	水	日産自動車工場見学		"	"
5	6/25	木	討議「日本の産業史」		"	"
6	6/26	金	討議「日本とアセアン」		"	"
7	6/27	土	オリエンテーション 昼食会		富士青少年センター	0555(82)9020
8	6/28	日	基調講演「日本の三権分立」		"	"
9	6/29	月	全体報告会グループ別発表		東京 サントリー東京	03(375)8211
10	6/30	火	最高裁判所訪問「日本の司法制度」		"	"
11	7/1	水	衆議院訪問「日本の立法制度」		"	"
12	7/2	木	人事院訪問「日本の公務員制度」		"	"
13	7/3	金	グループ別自主研修		"	"
14	7/4	土	鹿児島へ移動		"	"
15	7/5	日	基調講演「ユースフォーラム」 グループ別討議		鹿児島 サントリーヤル	0892(53)2020
16	7/6	月	知事表敬		"	"
17	7/7	火	ホームステイ		ホームステイ	"
18	7/8	水	ホームステイ 家庭より集合・移動		"	"
19	7/9	木	ホームステイ プログラム		九州五県 宮崎、大分、長崎、熊本、佐賀	"
20	7/10	金	各県共通プログラム (地場産業等施設視察 地元青年との交流)		"	"
21	7/11	土	ホームステイ		ホームステイ	"
22	7/12	日	ホームステイ 家庭より集合 福岡県へ移動		"	"
23	7/13	月	体験報告会		福岡 国民年金保護センター	092(925)5801
24	7/14	火	広島へ移動		"	"
25	7/15	水	広島市内見学 (原爆記念公園、平和公園)		広島 ホテルリッチ博多	082(451)7811
26	7/16	木	京都市内見学		大阪 東急イン広島	082(244)0109
27	7/17	金	東京へ移動		大阪 国際ホテル	06(94)2861
28	7/18	土	帰国準備		"	"
29	7/19	日	帰国準備		東京 池袋メトロポリタン	03-980-1111
30	7/20	月	評価会 帰国についての説明・送手続		"	"
31	7/21	火	帰国		"	"

2. 1. 世界にのたための友(青年十面) (1987)
 第3陣 国名: ブルネイ 分野: 教員・学生 人数: 20名 分野別実施協力団体: (社) 国際交流サービス協会

月日	プログラム		内容	実施場所	泊場所	電話番号
	前	後				
1 6/21	来日			東京	池袋メトロポリタン	03-380-1111
2 6/22	本計画ブリーフィング 開講式 昼食懇談会	生活ガイダンス	日本語会話 (I)	"	"	"
3 6/23	講義「日本の社会と風土」	講義「日本の歴史と文化」		"	"	"
4 6/24	石油化学コンビナート等見学	同左		"	"	"
5 6/25	講義「日本の産業史」	講義「日本の経済」	武通鑑及び交歓会	"	"	"
6 6/26	講義「日本とアセアン」	日本語会話 (II)	大使館表敬訪問	"	"	"
7 6/27	分野別オリエンテーション	都内見学 (浅草・上野等)		東京	ギンモンド東京	03-686-4111
8 6/28	自主研修	同左		"	"	"
9 6/29	文部省訪問 講義(日本の教育事情)	同左	東京ガス・ガスの科学展	"	"	"
10 6/30	都立岡本高等学校訪問	同左		"	"	"
11 7/1	国立身体障害者リハビリテーションセンター	国立職業リハビリテーションセンター		"	"	"
12 7/2	ブルネイ研究会との交流会	昼食会	スポーツ交流	"	"	"
13 7/3	自主研修	ブルネイ研究会との交流会		"	"	"
14 7/4	基礎講義・アセアン青年による講演	研修センターへ移動	日本青年との夕食・交歓会	神奈川	相模湖トリムセンター	04268-7-4501
15 7/5	スポーツ及びクリエイション	分科会ディスカッション	交流の夕べ	"	"	"
16 7/6	茨城県庁表敬	茨城へ移動		"	"	"
17 7/7	等原中学校訪問	茨城新聞社 大洗動植物園 知事レセプション	勤労青年との交流	"	"	"
18 7/8	筑波学郷都市視察(エキスポセンター、筑波大学)	自主研修		"	"	"
19 7/9	三の丸小学校訪問 弘道園	茨城高校訪問	教育セミナー	"	"	"
20 7/10	筑波大学村屋藤田薬業学校	ホストファミリーに引渡し		"	"	"
21 7/11	ホームステイ	ホームステイ		"	"	"
22 7/12	ホームステイ	上野へ移動		東京	ギンモンド東京	03-686-4111
23 7/13	自主研修	広島へ移動		広島	広島グランドホテル	082-227-1313
24 7/14	広島見学(平和記念資料館等)	高島見学		"	"	"
25 7/15	京都へ移動	京都市内見学(二条城、平安神宮)		京都	ギンモンド京都	075-221-4111
26 7/16	京都市内見学	自主研修		"	"	"
27 7/17	東京へ移動	アラブ・イラスミック・インスティテュート		東京	池袋メトロポリタン	03-980-1111
28 7/18	帰国準備	同左		"	"	"
29 7/19	帰国準備	同左		"	"	"
30 7/20	評価会 帰国についての説明・辞手続		紋送会	"	"	"
31 7/21	帰国			"	"	"